

菊池市
男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

平成26年12月

菊池市

目次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査期間	1
4. 調査対象と回収結果	1
5. 集計分析上の注意事項	1
II. 総評	2
1. 回答者の基本属性等	2
2. 男女平等に関する考え方について	2
3. 家庭生活の役割分担について	4
4. 仕事と家庭・地域生活の両立について	5
5. 出生率低下について	6
6. 女性の社会参画について	7
7. 女性が職業を持つことについて	7
8. 子育て・教育について	8
9. 配偶者からの暴力について	9
10. 防災の分野における男女共同参画について	10
11. 農山漁村の分野における男女共同参画について	10
12. 男女共同参画社会の推進について	10
III. 一般市民に対する調査結果	12
1. 回答者の基本属性等	12
2. 男女平等に関する考え方について	16
3. 家庭生活の役割分担について	24
4. 仕事と家庭・地域生活の両立について	31
5. 出生率低下について	36
6. 女性の社会参画について	37
7. 女性が職業を持つことについて	39
8. 子育て・教育について	40
9. 配偶者からの暴力について	44
10. 防災の分野における男女共同参画について	47
11. 農山漁村の分野における男女共同参画について	48
12. 男女共同参画社会の推進について	49

IV. 中学生に対する調査結果	57
1. 回答者の基本属性等.....	57
2. 男女平等に関する考え方について.....	57
3. 出生率低下について.....	64
4. 女性が職業を持つことについて.....	65
5. 子育て・教育について.....	66
6. 防災の分野における男女共同参画について.....	69
7. 男女共同参画社会の推進について.....	72
V. 資料編	80
1. 調査票.....	80
2. 用語解説.....	101

I. 調査概要

1. 調査目的

「第3次菊池市男女共同参画計画」策定の基礎資料とするため実施しました。

2. 調査方法

一般市民調査は、郵送による配付・回収を行いました。

中学生調査は、学校に配付・回収を依頼しました。

3. 調査期間

一般市民：平成26年6月2日(月)から平成26年8月11日(月)

中学生：平成26年6月2日(月)から平成26年9月19日(金)

4. 調査対象と回収結果

一般市民調査は、市内に在住の20歳以上75歳未満の2000名を層化2段抽出法にて抽出を行いました。

中学生調査は、市内中学3年生293名から協力を得ました。

一般市民の回収結果は以下のとおりです。

	全 体				女 性				男 性			
	人口 (人)	対象者 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	人口 (人)	対象者 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	人口 (人)	対象者 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
菊池地域	25,287	1,000	345	34.5	13,212	500	210	42.0	12,075	500	134	26.8
七城地域	5,494	200	79	39.5	2,864	100	47	47.0	2,630	100	30	30.0
旭志地域	4,914	200	72	36.0	2,510	100	41	41.0	2,404	100	31	31.0
泗水地域	14,893	600	199	33.2	7,711	300	114	38.0	7,182	300	85	28.3
無回答	-	-	14	-	-	-	2	-	-	-	1	-
全体	50,588	2,000	709	35.5	26,297	1,000	414	41.4	24,291	1,000	281	28.1

5. 集計分析上の注意事項

- ・回答は、各質問の回答者数(N)を基準とした百分率(%)で示します。
- ・集計は小数点第二位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100.0%にならない場合があります。
- ・回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として100.0%を超えます。
- ・表、グラフに示す選択肢は文言を短縮または簡略して表記している場合があります。

II. 総評

1. 回答者の基本属性等 (P12~15)

一般回答者の性別は「女性」が58.4%、「男性」が39.6%となっています。年齢は60歳以上が46.2%と年齢層の高い人の回答が多くなっています。回答者の居住地は人口比率とほぼ同じ、「菊池地域」が48.7%、「泗水地域」が28.1%、「七城地域」が11.1%、「旭志地域」が10.2%となっています。

2. 男女平等に関する考え方について (P16~23)

男女平等の認識について、「学校教育の場」では半数以上の人々が平等と感じています。一方、「政治・政策決定の場」や「社会通念・慣習等」の昔からある習慣に基づく分野で不平等感が強くなっています。

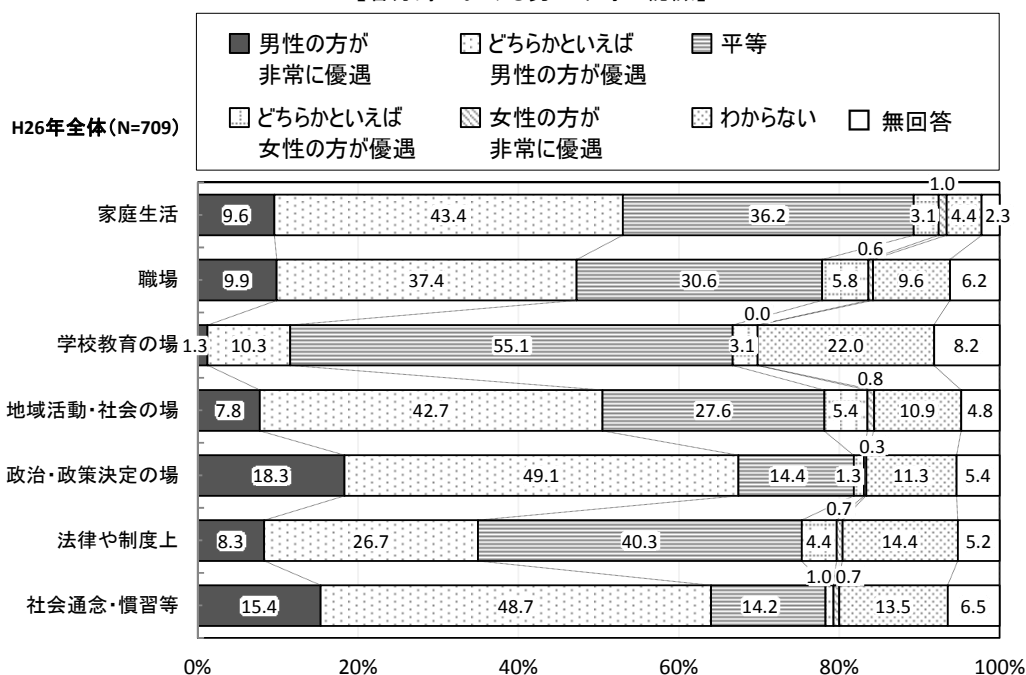
男性は『男女が平等』、女性は『不平等』と感じている男女間の意識のずれを解消することは今後の重要な課題となります。

1) 各分野における男女平等の認識 (一般市民：P16~22、中学生：P57~61)

“男性優遇”（「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」を合わせた回答、以下同じ。）と感じている割合が高かった項目は、「政治・政策決定の場」（67.4%）、「社会通念・慣習等」（64.1%）、「家庭生活」（53.0%）、「地域活動・社会の場」（50.5%）、「職場」（47.3%）となっています。一方、男女が平等と感じている割合が高かった項目は、「学校教育の場」（55.1%）、「法律や制度の上」（40.3%）となっています。また、“女性優遇”（「女性の方が非常に優遇」「どちらかといえば女性の方が優遇」を合わせた回答、以下同じ。）と感じている人は少ないことが分かります。また、全ての項目において、男性は女性に比べ「平等」と捉えている割合が高くなっています。

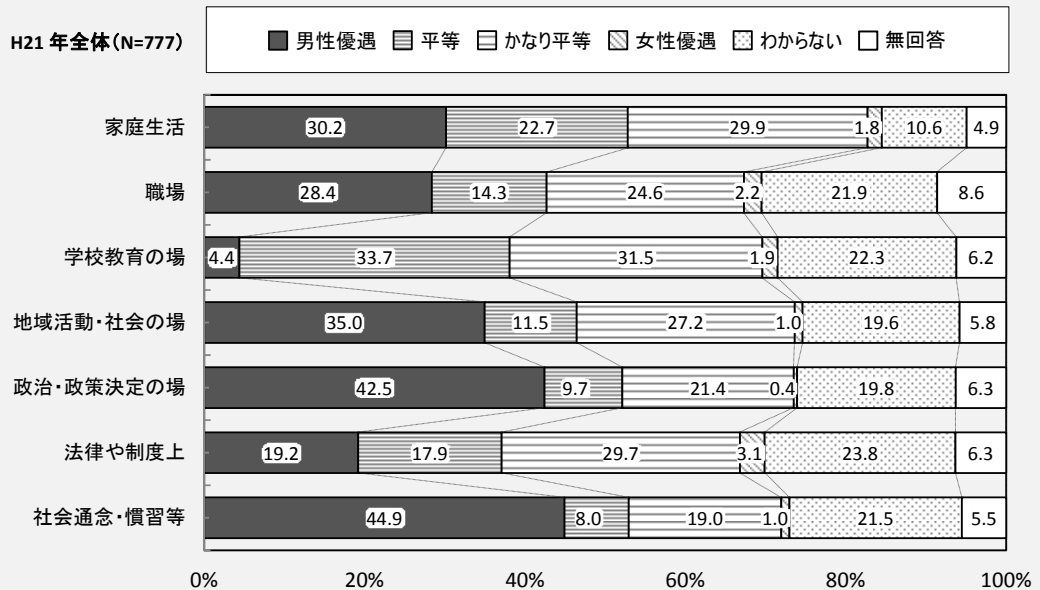
一般市民と中学生の回答を比較すると、全ての項目において「平等」の割合が中学生の方が高くなっており、一般市民に比べて男女平等の認識が高いことが分かります。

【各分野における男女平等の認識】



選択肢が異なるため単純な比較はできないものの、前回調査と比較すると、総じて「平等」と感じている割合は低下していることがうかがえます。

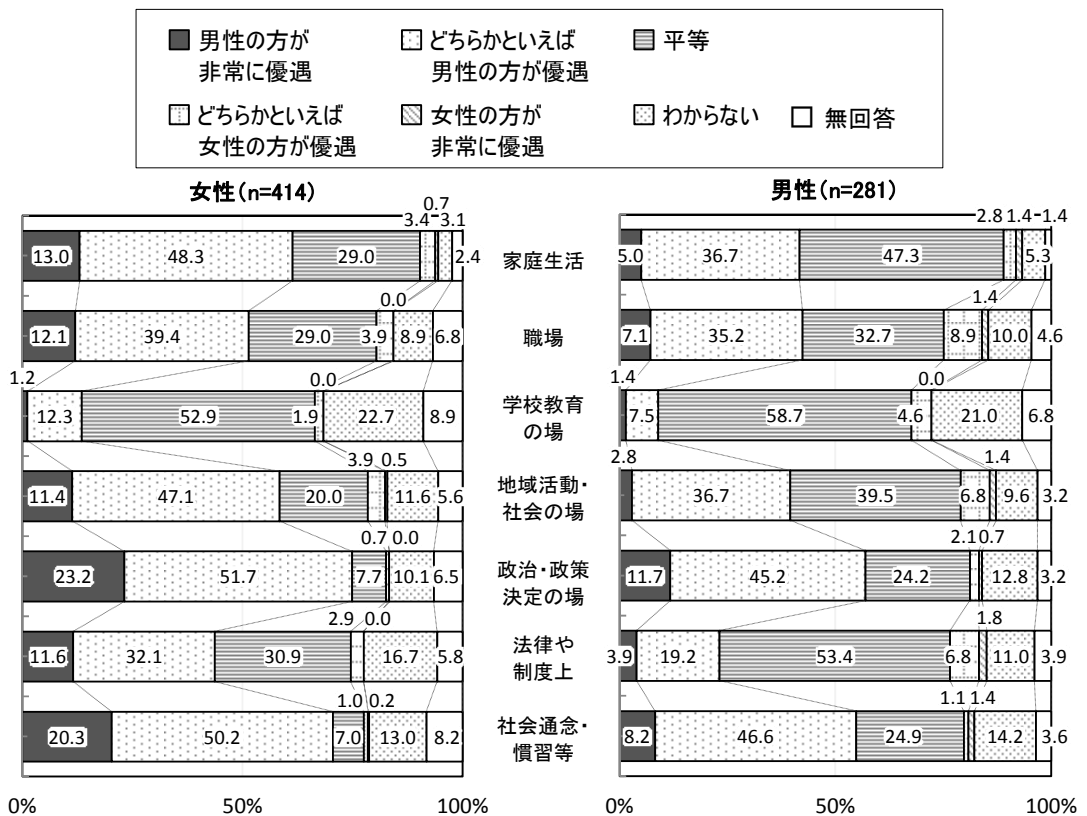
【各分野における男女平等の認識(H21年調査)】



男女で比較すると、特に「家庭生活」「地域活動・社会の場」「政治・政策決定の場」「法律や制度の上」の項目で男女の意識に差があり、男性に比べ女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、全ての項目において、男性は女性に比べ「平等」と捉えている割合が高くなっています。

「家庭生活」での男女差は、実際に家事・育児の負担の多くが女性にかかっていることや、反対に男性にその認識が不十分であることがうかがえます。

【各分野における男女平等の認識/性別】



2) 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと (P23)

男女があらゆる分野でより平等になるためには、何が最も重要かについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が最も高くなっています。年齢階層が上がるにつれて、「わからない」の割合が増えていることから、長期的な意識改革をしていく必要があります。

3. 家庭生活の役割分担について (P24~30)

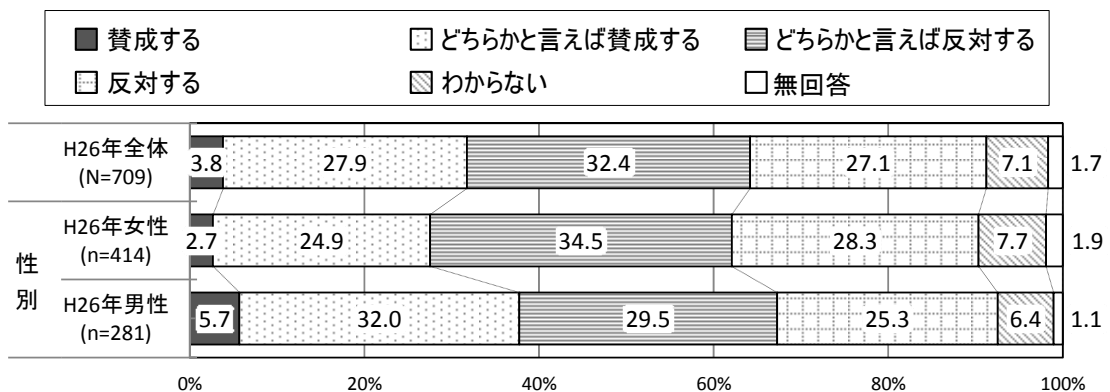
性別によって役割を分担するという考えに反対である人が増えているものの、実際には、家事、日々の家計の管理、育児、介護といった家庭生活では主に女性が分担しているという割合が多くを占めており、家庭生活において女性の負担が大きいことが分かります。

1) 性別による役割分担の意識 (P24)

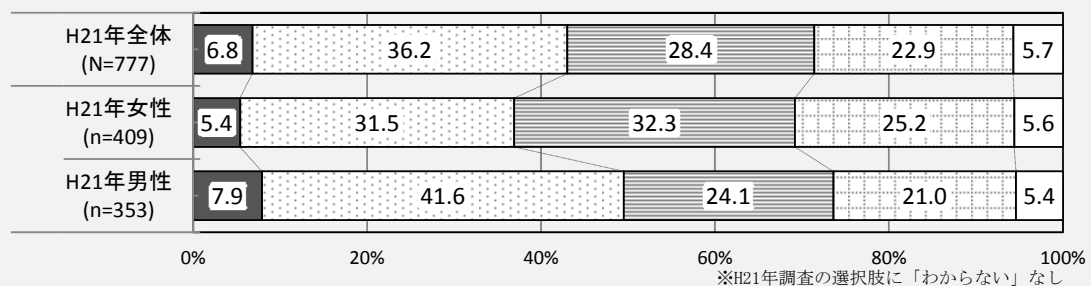
「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方については、“反対”(「どちらかと言えば反対する」「反対する」を合わせた回答、以下同じ。)の割合が6割を占めています。また、年齢階層が上がるにつれて、「どちらかと言えば賛成する」の割合が増えており、年齢層によって考え方が違っていることから、役割分担意識が残っているとと言えます。

前回調査と比較すると、“反対”が全体で8.2%上がっています。“反対”としている回答は、男性は前回調査より9.7%増えているものの、女性(62.8%)と男性(54.8%)に8.0%の開きがみられます。

【性別によって男女の役割を固定する考え方】

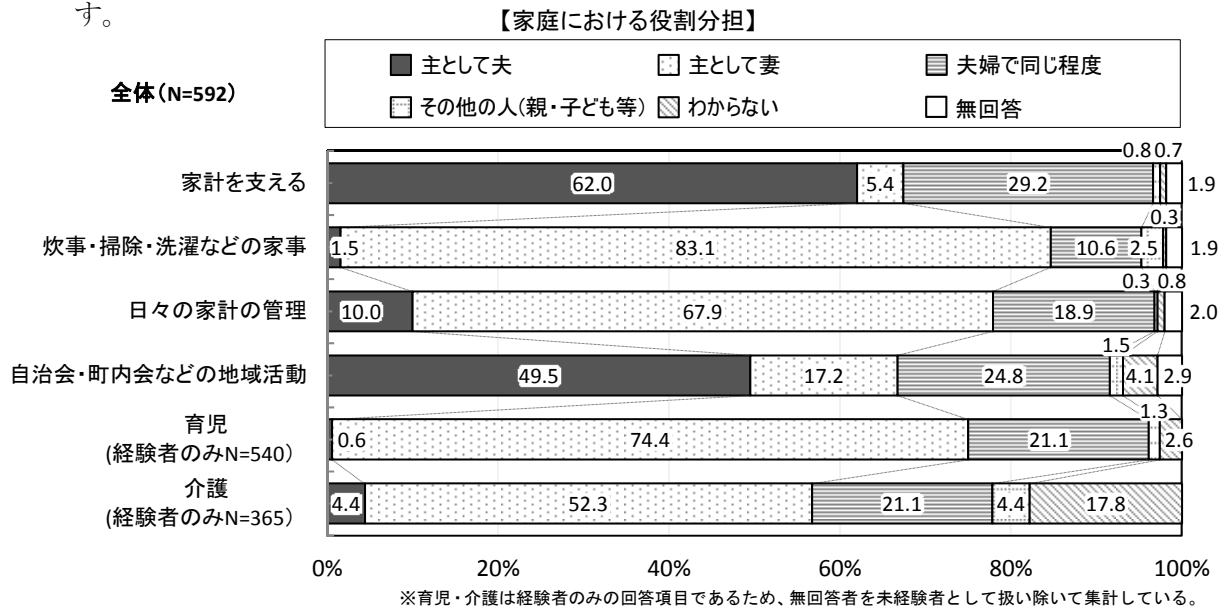


【性別によって男女の役割を固定する考え方 (H21年調査)】



2) 家庭における役割分担 (P25~30)

「家計を支える」については、夫の役割としている家庭が多く、逆に「家事」「日々の家計の管理」「育児」「介護」については妻の役割としている家庭が多い結果となっています。



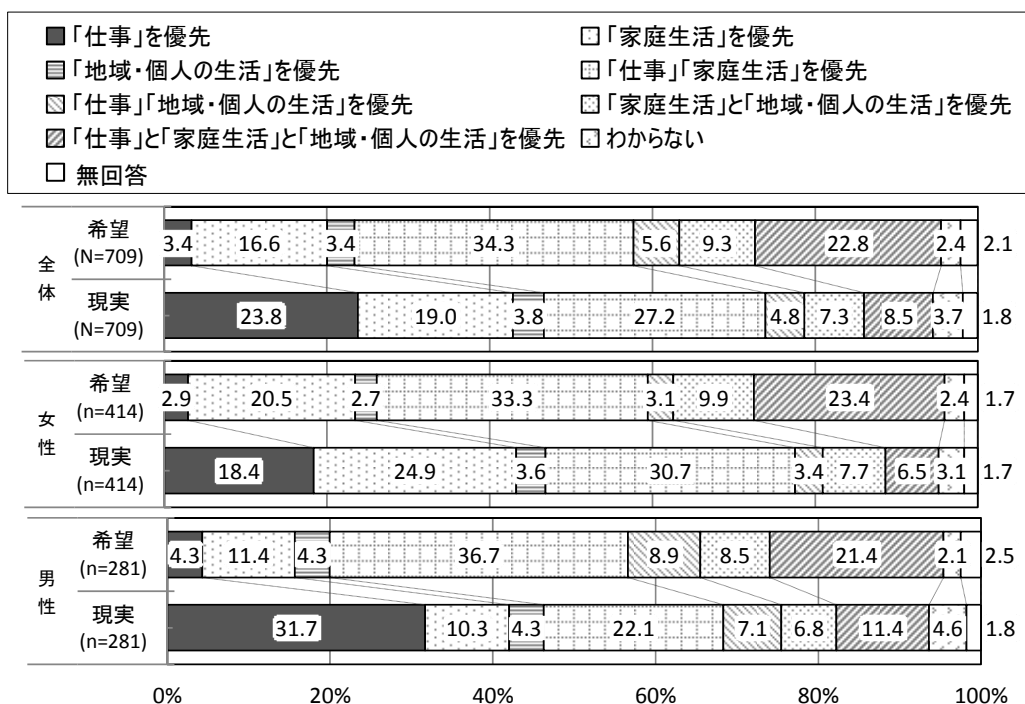
4. 仕事と家庭・地域生活の両立について (P31~35)

仕事と家庭・地域生活について、「仕事」と「家庭生活」の両立がとれている人が最も多いものの、現実と希望の差をみると、ワーク・ライフ・バランスの現実度は決して高くはないと言えます。

家庭や地域活動への参画を促すためにも、家庭内での理解をはじめ、仕事と家庭の両立を支援する体制整備や地域貢献の重要性の啓発、地域活動の情報提供などが必要とされます。

1) 仕事と家庭・地域生活の両立の希望と現状 (P31,32)

【仕事と家庭・地域生活の両立の希望と現状/性別】



生活を送るうえでの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、「仕事」を優先（希望3.4%、現実23.8%）は現実が希望よりも20.4%も高く、最も差が大きくなっています。また、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の両立（希望22.8%、現実8.5%）は現実が希望を14.3%下回っています。

女性をみると、「仕事」「家庭生活」を両立したいという希望が最も多く、現実も「仕事」「家庭生活」を両立しているという回答が最も多くなっています。ただし、「仕事」を優先（希望2.9%、現実18.4%）は現実が希望を15.5%、「家庭」を優先（希望20.5%、現実24.9%）は現実が希望を4.4%上回っているのに比べて、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の両立（希望23.4%、現実6.5%）は現実が希望を16.9%下回っていることから、理想と現実にずれが生じていることが分かります。

男性でも、「仕事」と「家庭生活」を両立したいという希望が強いものの、現実では「仕事」を優先している人が多い結果となっています。

2) 男女の家庭や地域などへの社会参加（P33~35）

男女が家庭や地域活動などに参画するために必要なこととして、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションを大切にすること」が最も多く、夫婦間で家事などの分担をするよう十分に話し合うことを重要視しています。女性と男性で意見に差がみられたのは、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性55.1%、男性40.2%）、「年配者や周りの人が、夫婦間・家族間の役割分担について、本人たちの考え方を尊重すること」（女性43.7%、男性28.1%）となっており、男性や周囲が理解を深めることについて女性の方が重要視していることが分かります。

「多様な働き方・生き方が選択できる社会」の変化については、「変わらない」が約半数を占める結果となっています。“良くなった”（「どちらかといえば良くなった」を合わせた回答）と感じている人は年齢層が高い程多くなっていることに對し、「20歳代」が“悪くなった”（「どちらかといえば悪くなった」を合わせた回答）と、「わからない」の回答が最も高い割合であることから、若い世代への意識啓発と「多様な働き方・生き方が選択できる社会」へ向けた社会基盤づくりが必要とされます。

地域活動などの参加状況は、回答者の約半数が参加していない状況となっています。

5. 出生率低下について（P36）

出生率低下については、結婚しないという選択をしている人が増加していることや経済的負担、女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないなどの理由が多く挙がっています。

出生率低下の要因は、「結婚しない人が増えているから」（49.8%）という社会的問題や、「子育てにお金がかかるから」（49.4%）の経済的な理由がある一方で、「女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」（46.0%）の理由も多く挙げられています。また、「結婚しても、子どもは欲しくないと考える人が増えたから」（7.2%）の理由が比較的少ないことから、子どもを持つことに対する価値観の変化よりも子育てするにあたっての条件や環境整備の方が出生率の低下要因であると考えられる人が多いことが分かります。

6. 女性の社会参画について (P37,38)

回答者の大半が政策の場で女性の意見がもっと反映されることに肯定的であるものの、実際には女性の参画が少ない現状にあり、その理由として、女性自身の能力や積極性の問題よりも、男性優位の組織運営や性別による役割分担の意識が根強いことなどに問題があると考えられています。

全体の約8割が政策の場で女性の意見がもっと反映されるようになることに肯定的な考えを持っています。女性の参画が少ない原因としては、「男性優位の組織運営がなされているため」(68.0%)が最も多く挙げられています。男女の意見に差があった回答としては、「家庭の支援、協力が得られないため」(女性37.0%、男性25.0%)で、男性の方が家庭環境の問題を比較的重要視されていないことがうかがえます。

7. 女性が職業を持つことについて (P39)

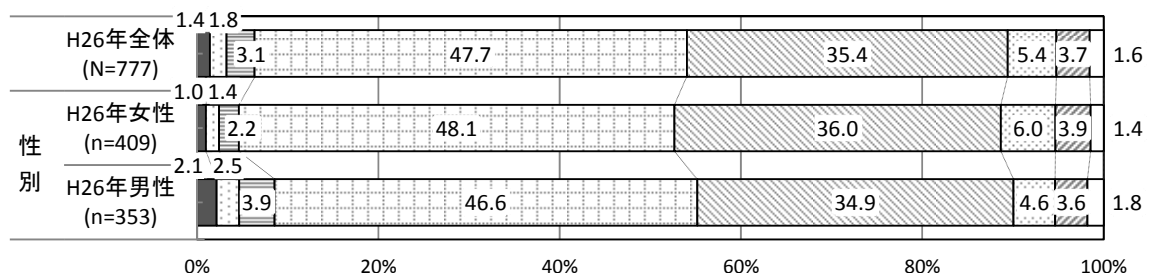
女性の職業に対する意識に男女差は残っているものの、女性が職業を継続的に持つことに肯定的な考えは広がってきています。継続的な就業を支える条件の充実を図ることも意識の基盤となることが考えられます。

女性が職業を継続または中断・再就職することに賛成という回答が8割以上を占めており、女性は職業を持たない、あるいは結婚や出産を機に離職する方がよいという考えは少数意見となっています。ただし、女性に比べて男性の方が結婚や出産を機に離職する方がよいという考えが多くなっていることから、女性への職業に対する意識の差は残っています。

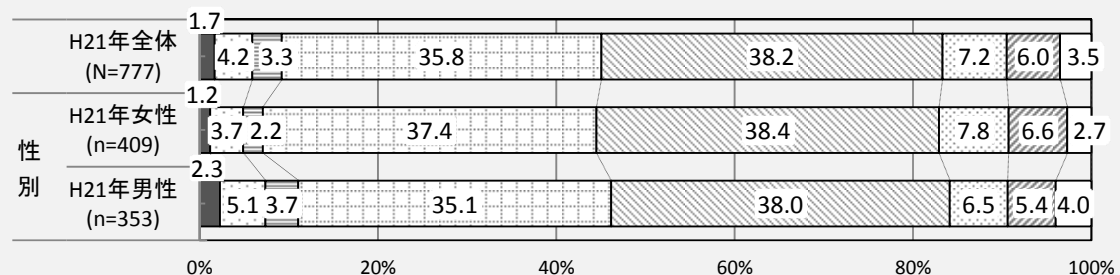
前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が全体で11.9%増えており、「子どもができたなら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は逆に2.8%減少しています。職業を中断・再就職する考えから職業を継続する方がよいという考え方に推移していることがうかがえます。

【女性が職業を持つことについて】

■ 女性は職業を持たないほうがよい □ 結婚するまでは職業を持つほうがよい ▨ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい □ 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい ▨ 子どもができたなら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい □ その他 ▨ わからない □ 無回答



【女性が職業を持つことについて(H21年調査)】



8. 子育て・教育について（一般市民：P40～43、中学生P66～68）

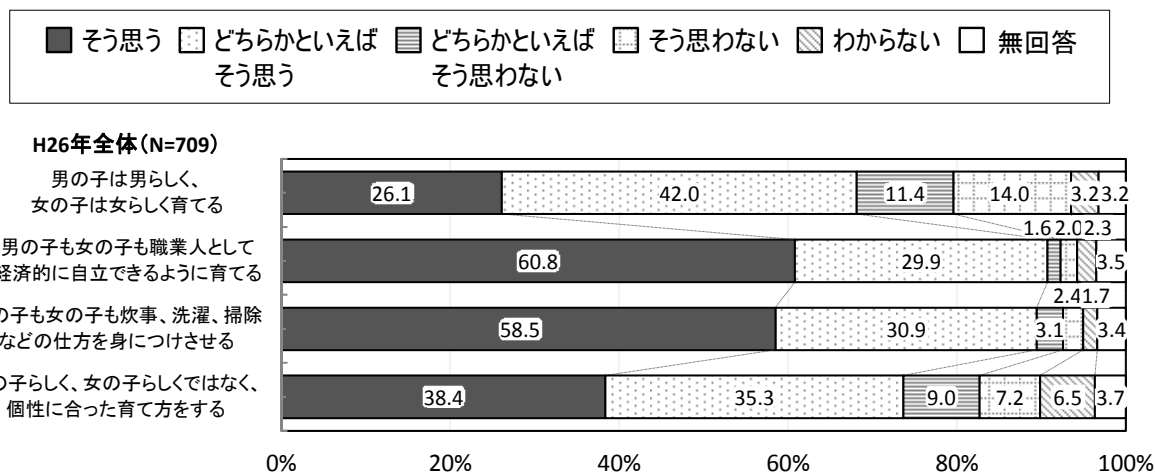
性別に関係なく育てるという考え方が増えている一方で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方も根強く残っています。差別意識を持たない子どもを育てるためにも、親自身の性差別意識を取り除くことが重要となっています。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という男女を区別する意識は根強く残っており、全体の68.1%の支持があります。一方、「男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる」といった、性別に関係なく育てる考え方にはそれぞれ約9割が肯定的に捉えています。

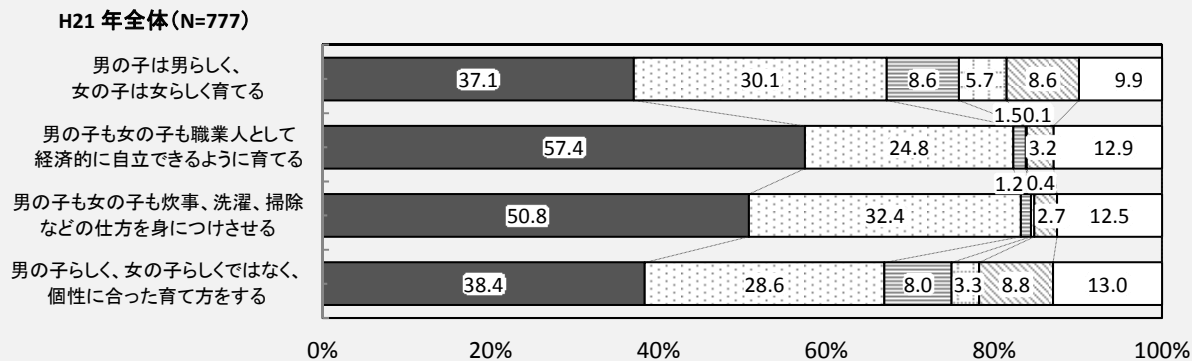
前回調査と比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方を支持している割合に変化はみられないものの、「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答）に11.1%の増加がみられます。また、その他の項目の性別に関係なく育てるという考え方については、総じて、肯定的な回答が増えていることから、性別に関わらず個性と能力を活かした育て方へと意識が変わりつつあることがうかがえます。

一般市民と中学生の回答を比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方を支持する割合に差はみられないものの、その他の項目の性別に関係なく育てるという考え方については、一般市民の方が肯定的な意識が高くなっています。

【子どもの育て方】

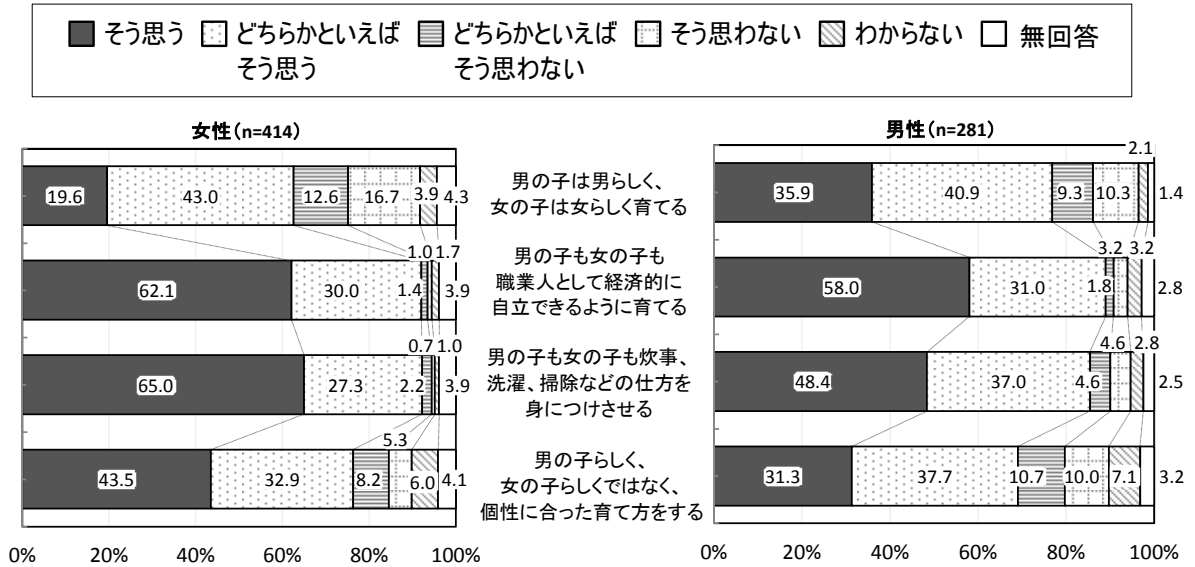


【子どもの育て方(H21年調査)】



男女で比較すると、特に「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の項目で男女の考え方の差が顕著にみられ、「そう思う」が男性 35.9%であるのに対し、女性は 19.6%に留まっています。また、その他の項目の性別に関係なく育てるという考え方については、女性の方が肯定的な回答が多くみられ、全体的に男性の方が性別を分けた育て方への意識が強いことがうかがえます。

【子どもの育て方/性別】



9. 配偶者からの暴力について (P44~46)

DV についての認知度は進みつつありますが、熟知しているとは言えない状況となっています。恋人や配偶者間の暴力に対する啓発活動を行い、DV 防止を図る必要があります。DV が人権侵害であるという意識が薄いことや被害者の自己否定感などが、相談を妨げる要因となっていることが考えられるため、人権侵害としての DV の認識を深めることも重要となります。暴力についての相談体制の周知徹底を行い、被害者が安心して生活できるような環境を確保することも必要です。

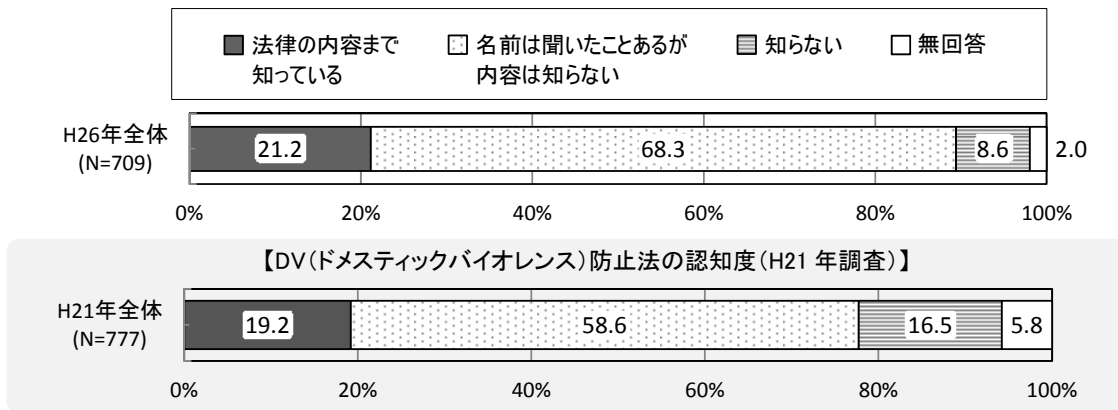
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV (ドメスティックバイオレンス) 防止法) について、名前は聞いたことがあるという回答は 68.3%を占めていますが、法律の内容まで知っているという人は 21.2%に留まっていることから、一層の周知・啓発が必要とされます。

前回調査と比較すると、「法律の内容まで知っている」は 2.0%、「名前は聞いたことあるが内容は知らない」9.7%上がっており、認知度は上昇しています。

実際に DV を受けた内容としては、言葉の暴力などの精神的な暴力の他に、身体的な暴力を受けたと回答した女性は 12.6%にも及んでいます。暴力を受けた項目の多くで女性の回答が上回っており、恋人や配偶者からの暴力は女性の被害が圧倒的に多いことが分かります。

DV を受けた又は見聞きした後の対応としては、「何もしなかった」という消極的な対応が最も多かったものの、知人・友人 (23.5%)、親族 (20.2%)、行政機関 (15.6%) への相談が多く挙がっています。

【DV(ドメスティックバイオレンス)防止法の認知度】



10. 防災の分野における男女共同参画について (P47)

昨今、自然災害による被害が多くなってきているため、弱者が安全を確保できる場所への誘導に関心が高まっているようにみえます。また、災害に対する認識を改める必要があるという回答が多くなっていることから、災害について考える機会を設けることも不可欠です。その上で、安全を確保できる場所への避難場所への誘導、男女の違いを考慮に入れた避難施設の設置や整備を考えていく必要があります。

11. 農山漁村の分野における男女共同参画について (P48)

活力ある農山漁村の実現のために必要な男女共同参画については、大半の回答者が「休日の確保、重労働の解消といった就業環境の改善により、男女ともが家庭生活以外の活動に参加しやすい環境をつくっていくこと」が必要と考えています。また、農山漁村の分野で男女が対等に活躍できていないと捉えている男性が多いことから、背景に農山漁村に残る固定的性差別の存在がうかがえます。その影響で女性の積極性が表面に出ていないことも考えられるため、根強く残る古い因習等を見直すためにも、長期的な意識の啓発が必要とされます。

12. 男女共同参画社会の推進について (P49~55)

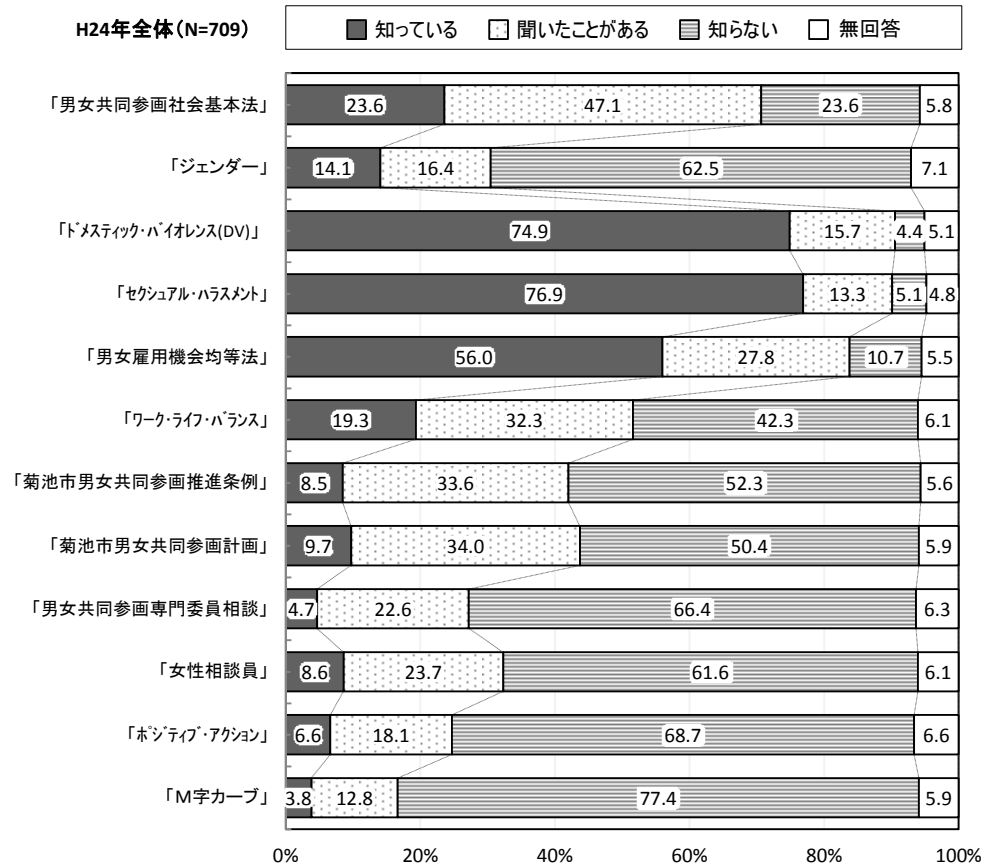
男女共同参画社会の実現のために、菊池市は「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」に力を入れることが最も多く求められています。

男女共同参画に関連する言葉では、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」「セクシュアル・ハラスメント」が用語の内容も含め熟知されています。市の施策や関連用語については一層の周知が必要です。

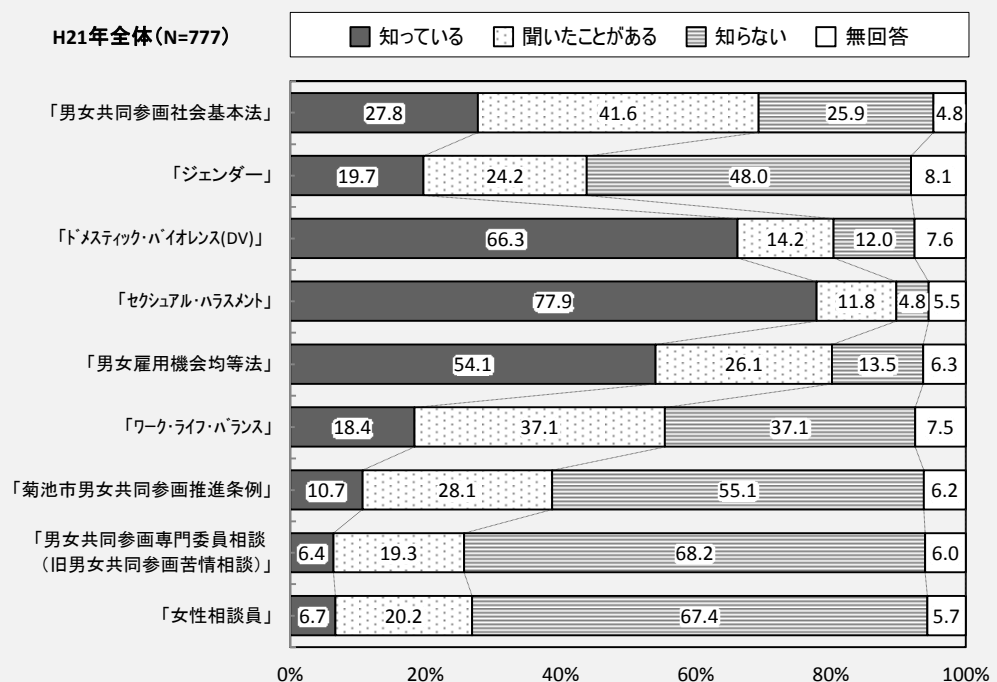
男女共同参画に関連する言葉では、メディア等で取り上げられることの多かった「ドメスティック・バイオレンス (DV)」「セクシュアル・ハラスメント」「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」についての認知度は比較的高くなっている一方で、「ポジティブ・アクション」「M字カーブ」の認知度は低くなっています。また、市の施策や関連用語である「菊池市男女共同参画計画推進条例」「男女共同参画専門委員相談」「女性相談員」について「知っている」が1割を満たしていないことから、市の広報等がより一層必要となります。

前回調査と比較すると、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた回答に差がみられた用語は、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」10.1%上昇、「ジェンダー」13.4%低下、となっています。

【男女共同参画用語の認知度】



【男女共同参画用語の認知度(H21年調査)】

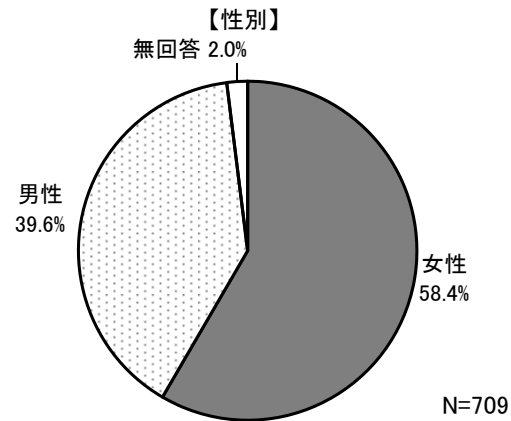


Ⅲ. 一般市民に対する調査結果

1. 回答者の基本属性等

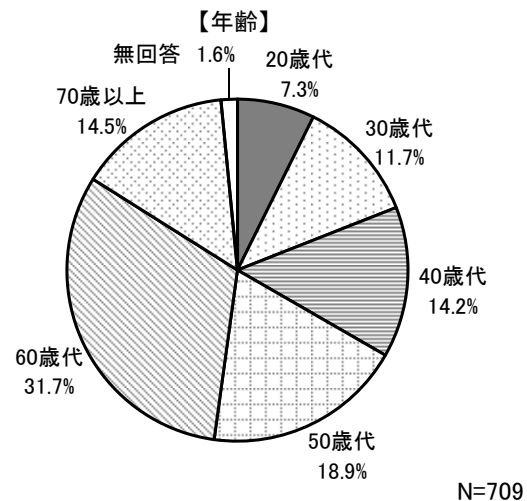
問1. あなたの性別を教えてください。(単数回答)

- 性別についてたずねたところ、「女性」が58.4%、「男性」が39.6%となっており、女性の方が多くなっています。



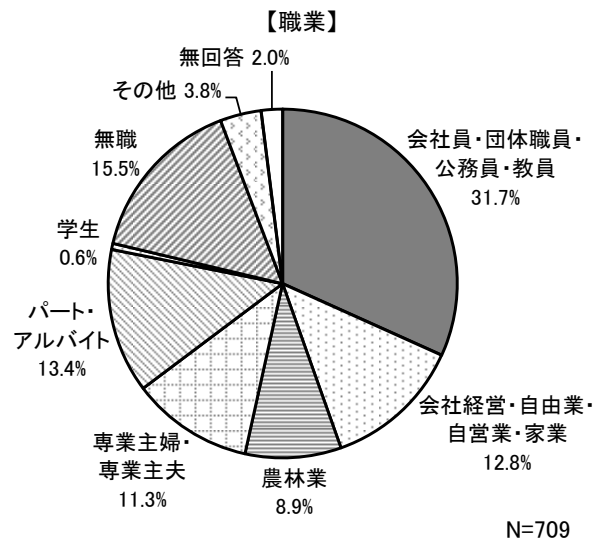
問2. あなたの満年齢を教えてください。(単数回答)

- 年齢についてたずねたところ、「60歳代」(31.7%)の割合が最も高く、次いで「50歳代」(18.9%)、「70歳代」(14.5%)、「40歳代」(14.2%)と続いており、年齢の高い回答者が比較的多くなっています。



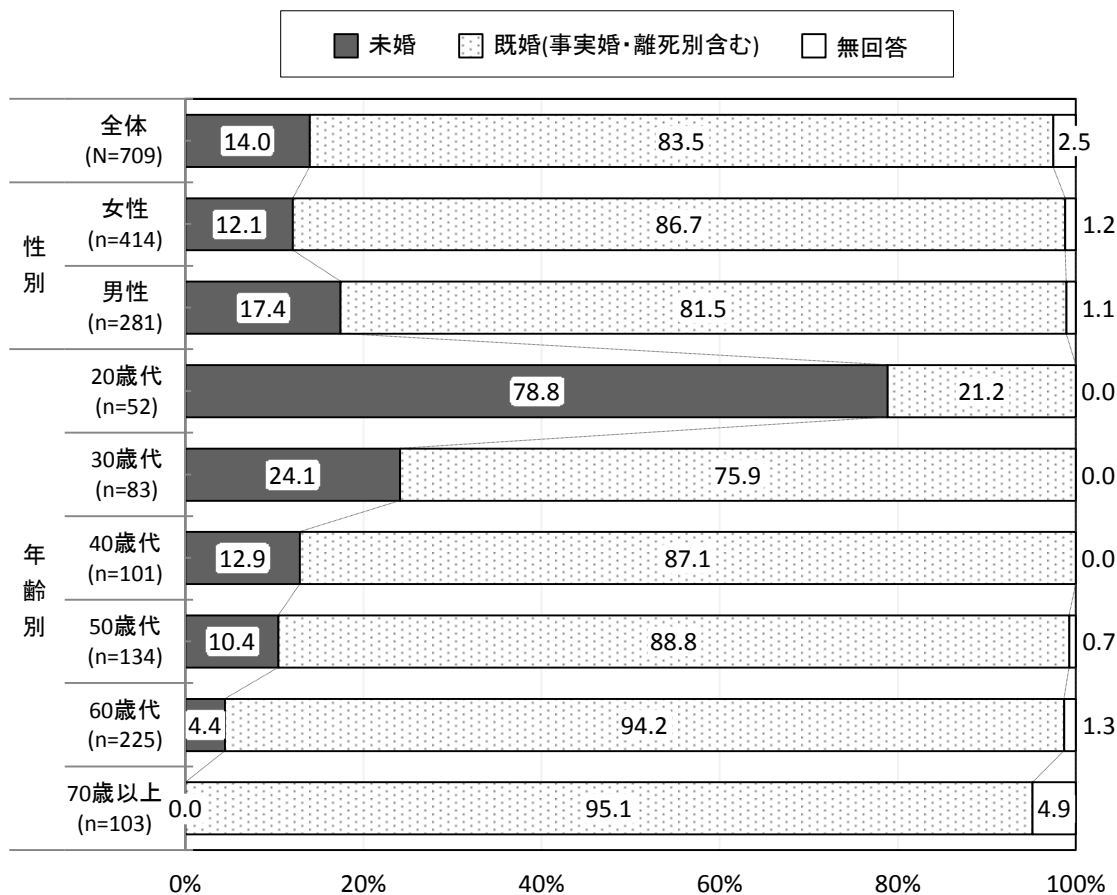
問3. あなたのご職業は何ですか。(単数回答)

- 職業についてたずねたところ、「会社員・団体職員・公務員・教員」(31.7%)の割合が最も高く、次いで「無職」(15.5%)、「パート・アルバイト」(13.4%)、「会社経営・自由業・自営業・家業」(12.8%)と続いています。



問4. あなたは結婚していますか。(単数回答)

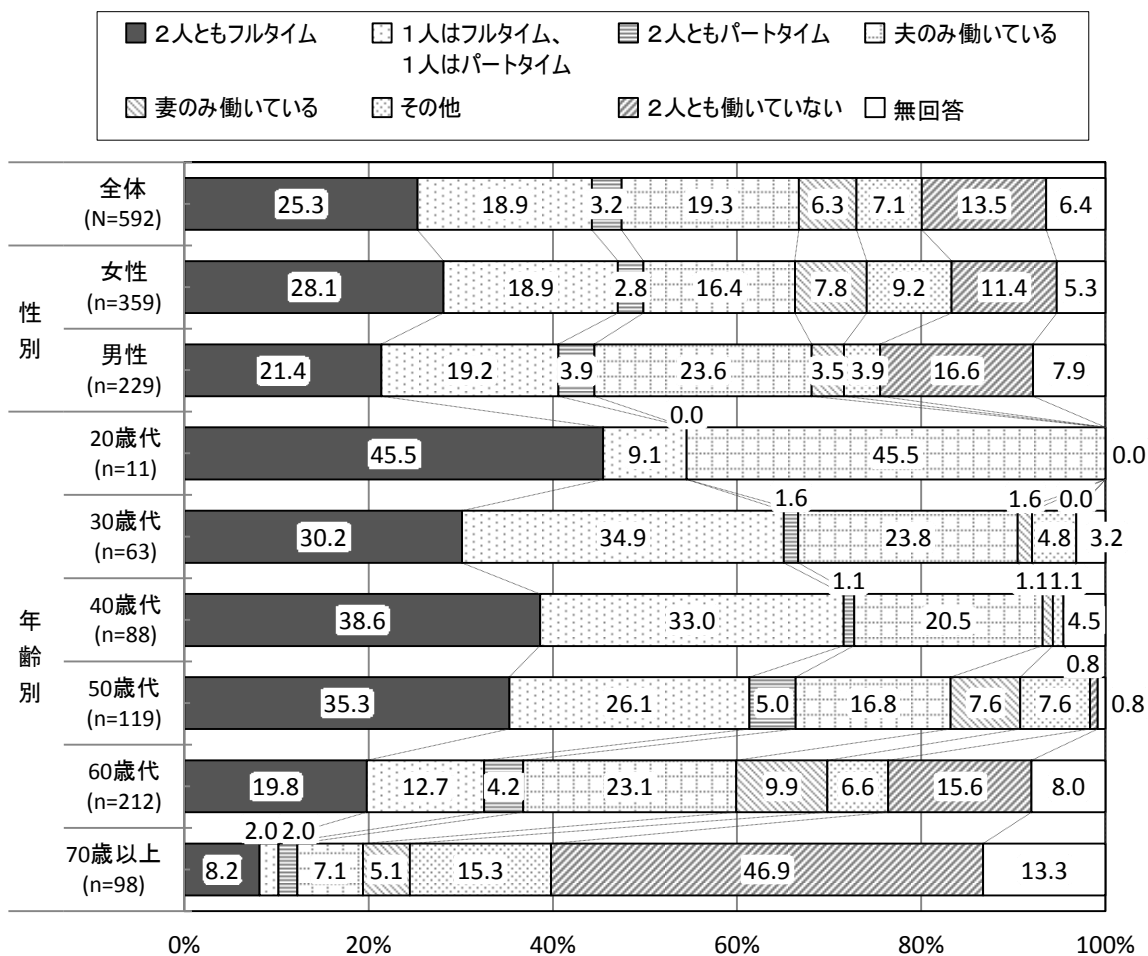
【婚姻状況/性・年代別】



- 婚姻状況についてたずねたところ、全体の 83.5%が「既婚（事実婚・離死別を含む）」と回答しています。
- 年代別にみると、「20 歳代」が「未婚」の割合が高く、年齢階層が上がるに従って「既婚（事実婚・離死別を含む）」の割合が高くなっています。

問5. (問4.「既婚」回答者のみ)
就労状況(単数回答)

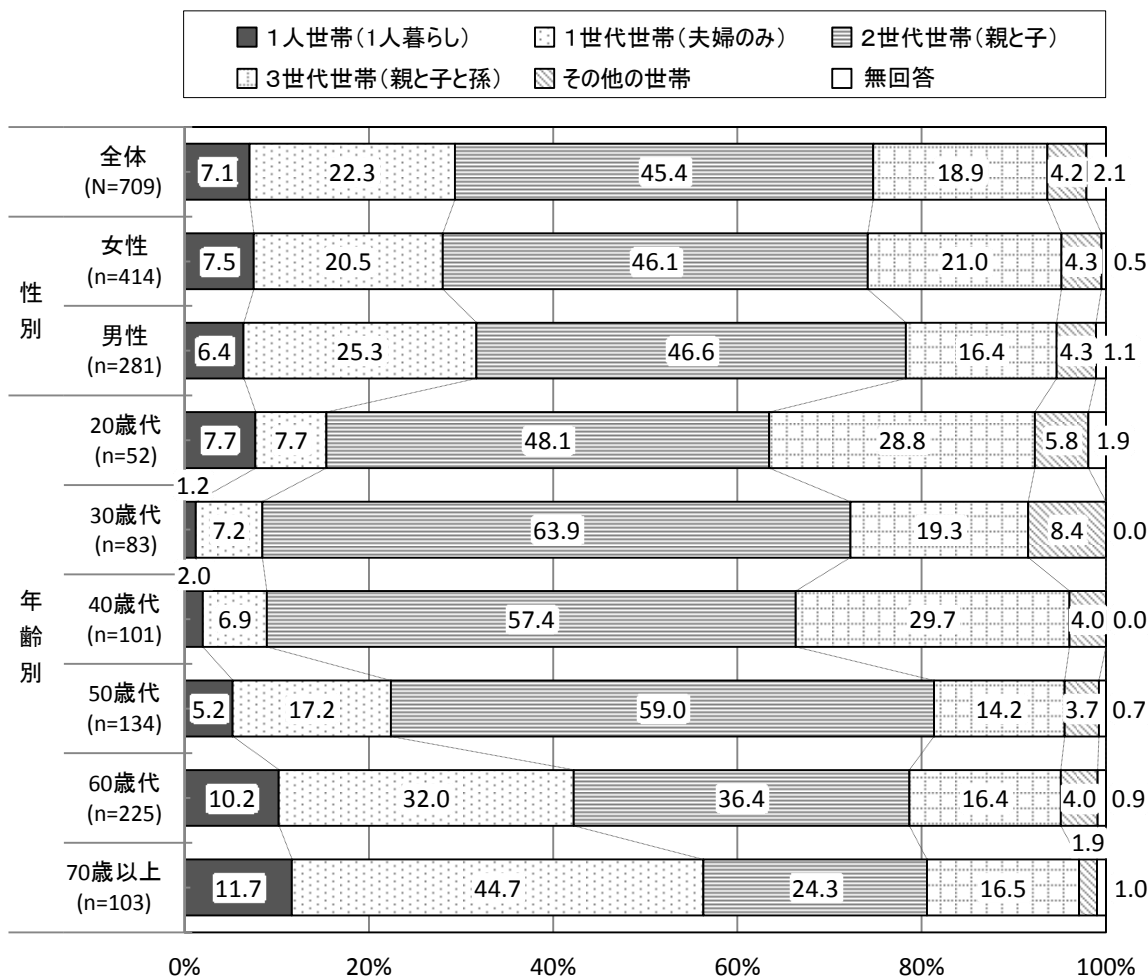
【就労状況/性・年代別】



●就労状況についてたずねたところ、「2人ともフルタイムで働いている」(25.3%)の割合が最も高く、次いで「夫のみ働いている」(19.3%)、「1人はフルタイム、1人はパートタイムで働いている」(18.9%)、「2人とも働いていない」(13.5%)と続いています。

問6. あなたの家族構成について教えてください。(単数回答)

【家族構成/性・年代別】



●家族構成についてたずねたところ、「2世代世帯(親と子)」(45.4%)の割合が最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦)」(22.3%)、「3世代世帯(親と子と孫)」(18.9%)となっています。

問7. あなたの住んでいるところを教えてください。(単数回答)

■ 居住地域/性・年代別

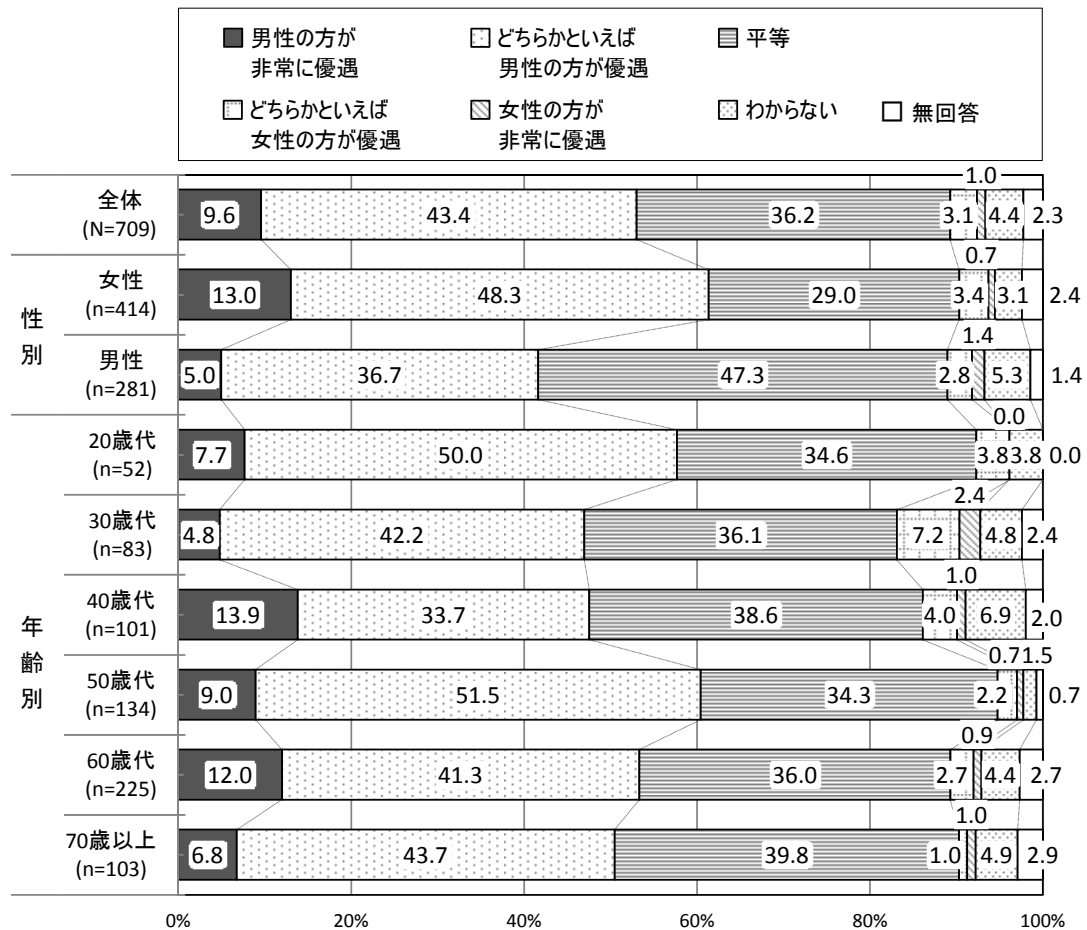
	回答者	菊池地域		七城地域		旭志地域		泗水地域		無回答		
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
全体	709	345	48.7	79	11.1	72	10.2	199	28.1	14	2.0	
性別	女性	414	210	50.7	47	11.4	41	9.9	114	27.5	2	0.5
	男性	281	134	47.7	30	10.7	31	11.0	85	30.2	1	0.4

2. 男女平等に関する考え方について

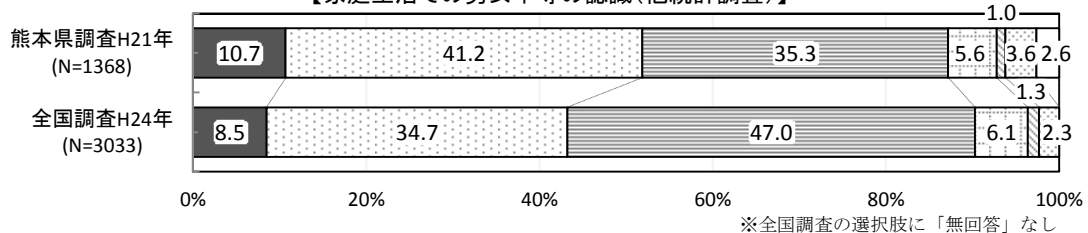
問8 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。(単数回答)

ア. 家庭生活では

【家庭生活での男女平等の認識/性・年代別】



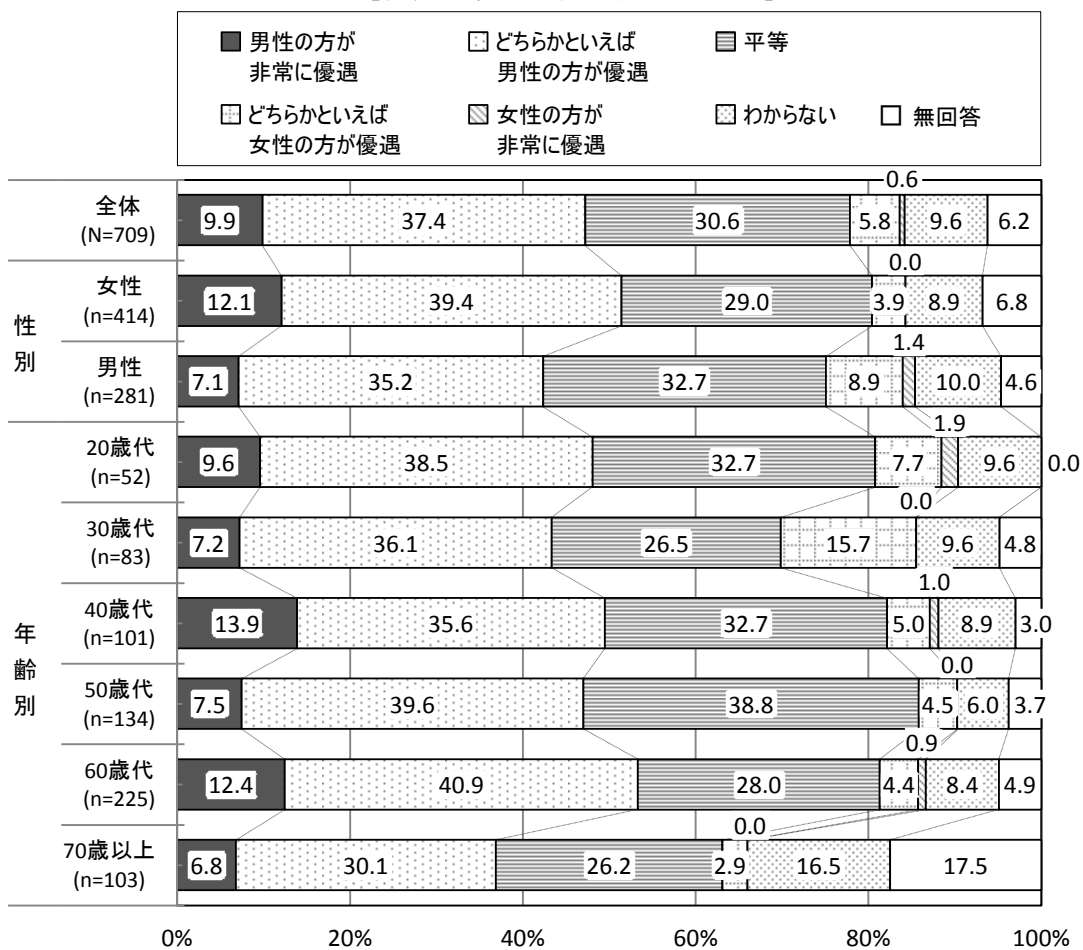
【家庭生活での男女平等の認識(他統計調査)】



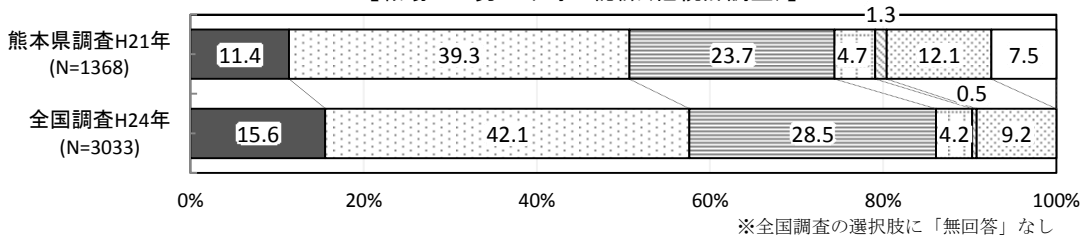
- 家庭生活で男女平等になっているかたずねたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇」(43.4%)の割合が最も高く、次いで「平等」(36.2%)、「男性の方が非常に優遇」(9.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”(「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」を合わせた回答、以下同じ。)と感じている人の割合が高いことがわかります。また、「平等」という回答が男性では47.3%を占めているのに対して女性は29.0%となっています。
- 他統計結果と比較すると、「平等」と感じている人の割合が全国よりも10.8%低くなっています。

イ. 職場では

【職場での男女平等の認識/性・年代別】



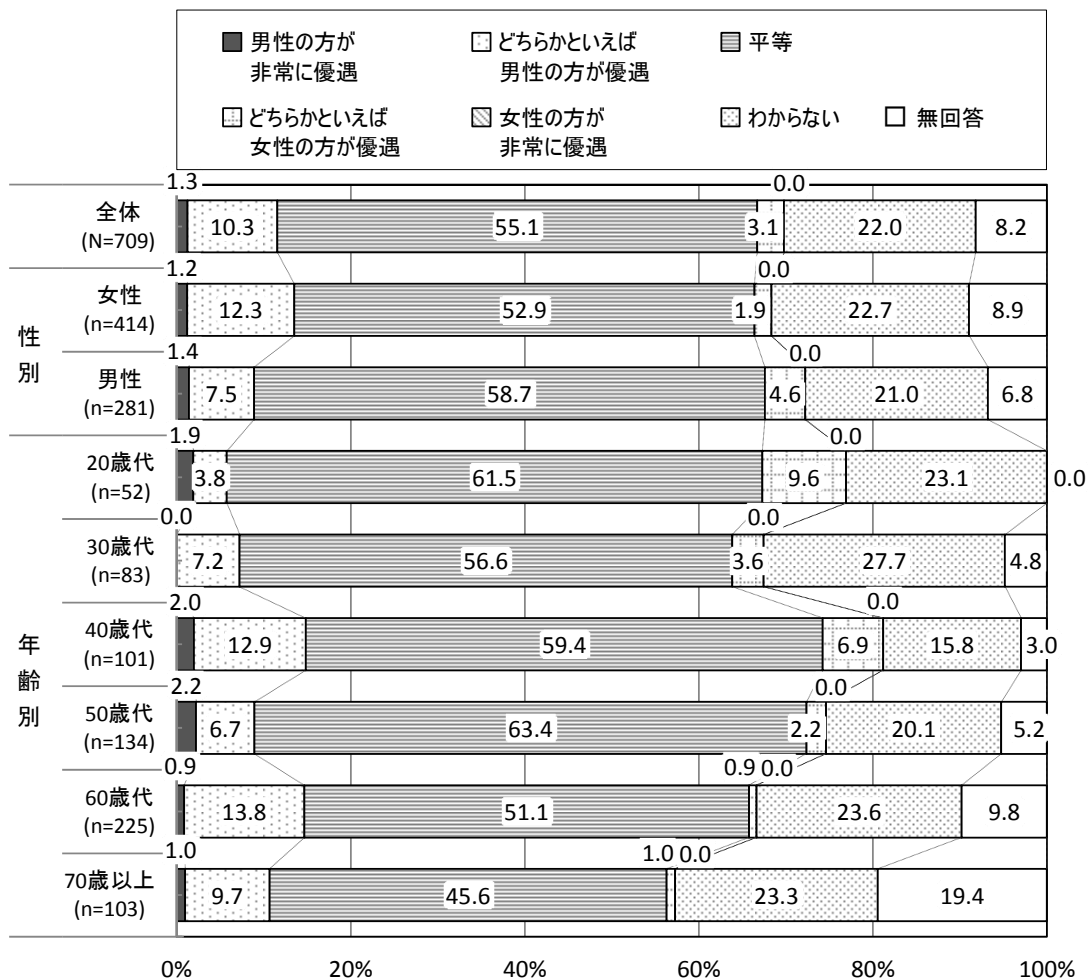
【職場での男女平等の認識(他統計調査)】



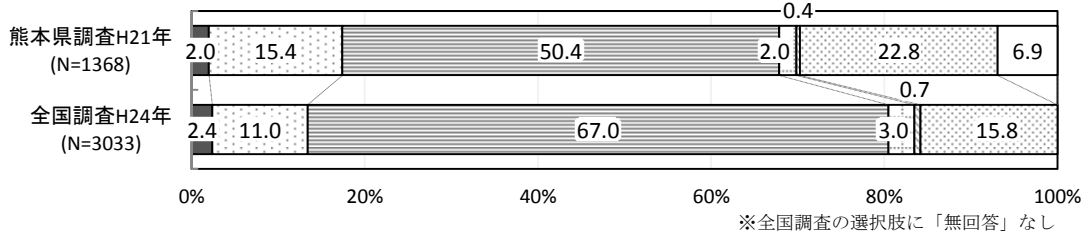
- 職場で男女平等になっているかたずねたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇」(37.4%)の割合が最も高く、次いで「平等」(30.6%)、「男性の方が非常に優遇」(9.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことが分かります。
- 他統計結果と比較すると、“男性優遇”と感じている人の割合が全国よりも10.4%低くなっています。

ウ. 学校教育の場では

【学校教育の場での男女平等の認識/性・年代別】



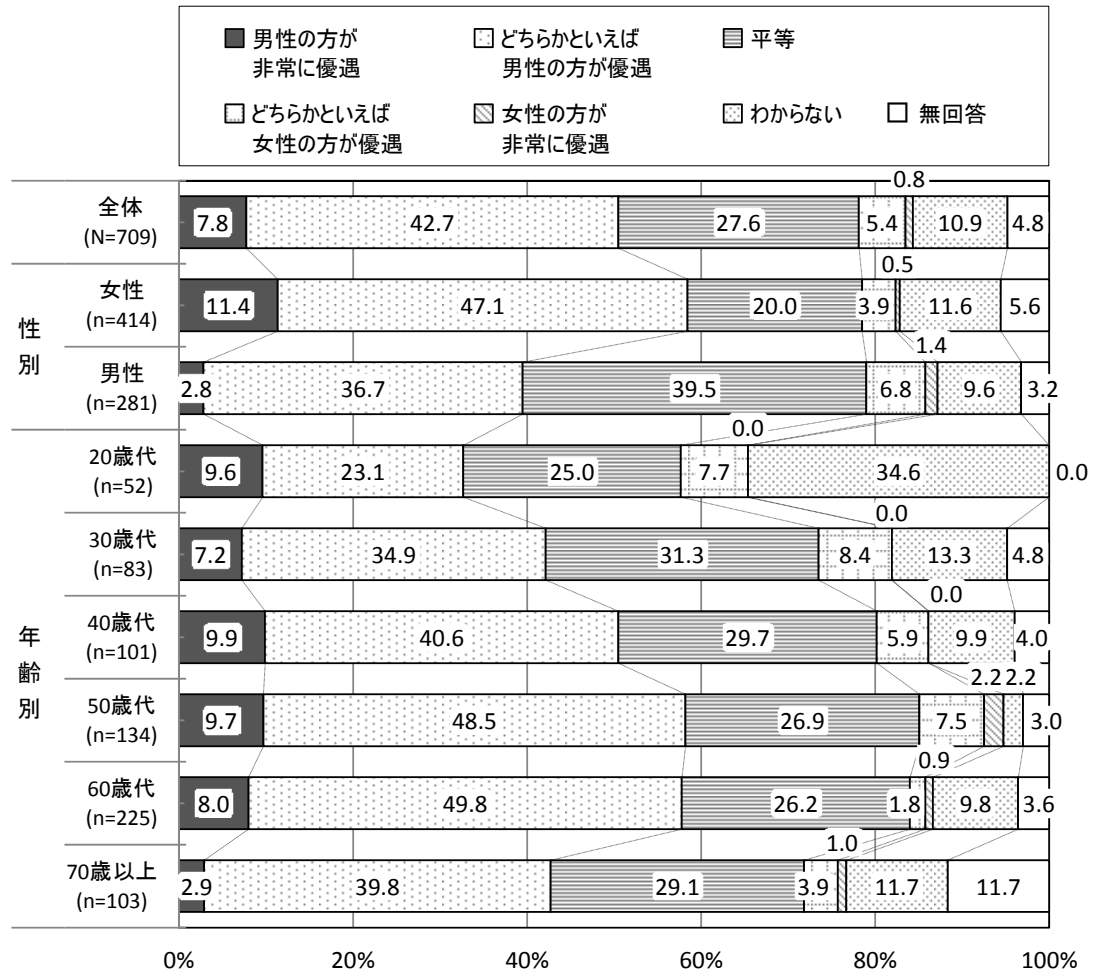
【学校教育の場での男女平等の認識(他統計調査)】



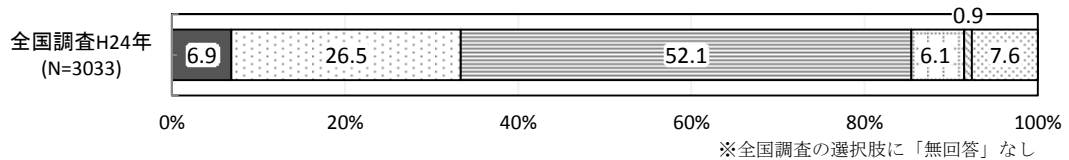
- 学校教育の場で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(55.1%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(22.0%)、「どちらかといえば男性の方が優遇」(10.3%)となっています。
- 年代別、男女別にみても、「平等」の割合が5割前後の回答となっており、どの世代、性別でも学校教育の場では平等と考える人が多いことが分かります。
- 他統計結果と比較すると、「平等」と感じている人の割合が全国よりも11.9%低く、熊本県よりも4.7%高くなっています。

エ. 地域活動・社会の場では

【地域活動・社会の場での男女平等の認識/性・年代別】



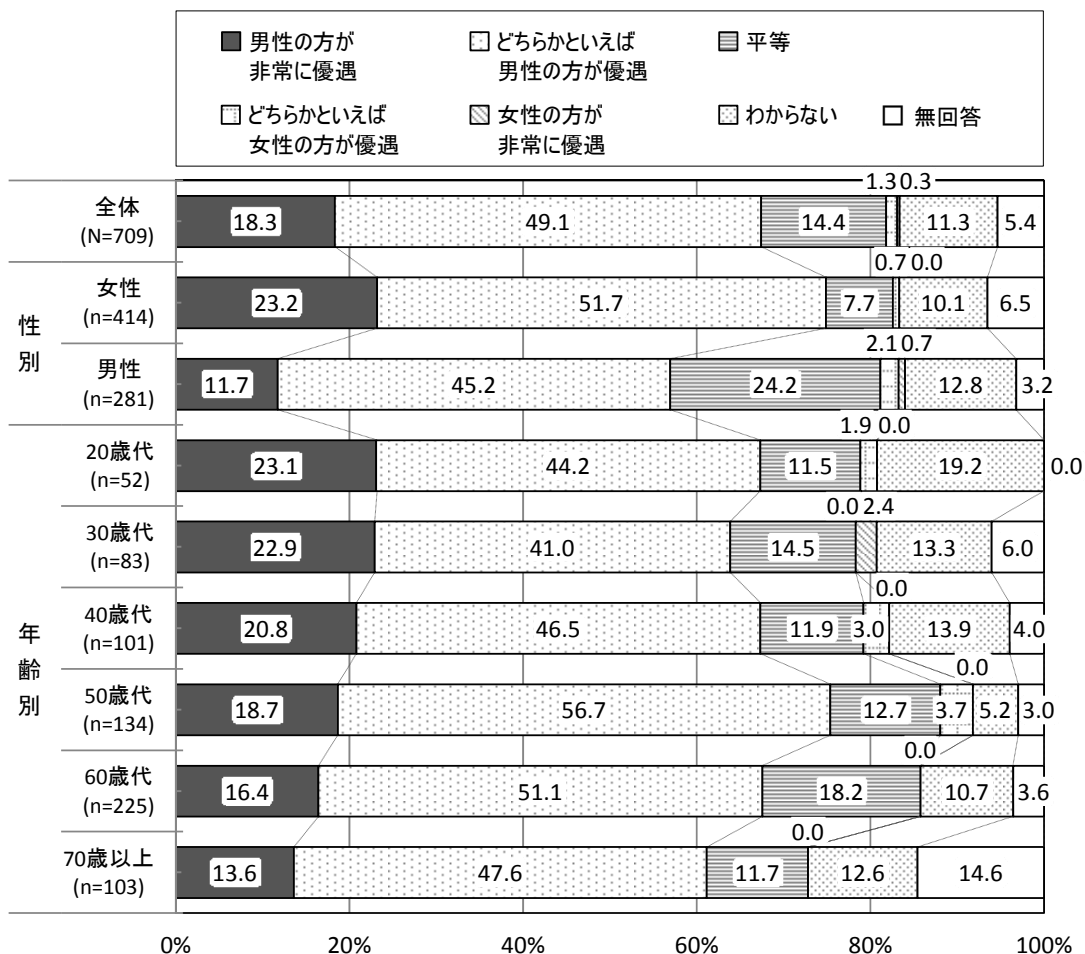
【地域活動・社会の場での男女平等の認識(他統計調査)】



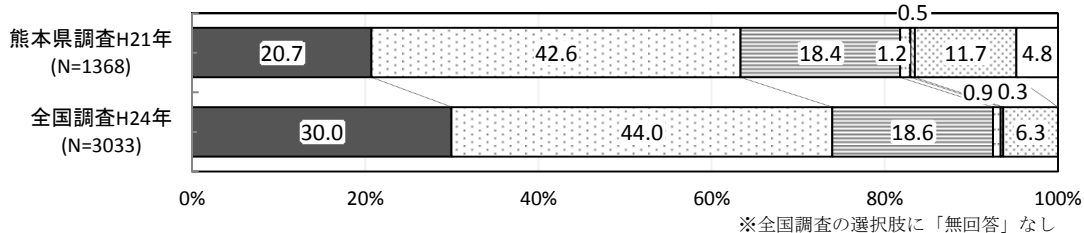
- 地域活動・社会の場で男女平等になっているかたずねたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇」(42.7%)の割合が最も高く、次いで「平等」(27.6%)、「わからない」(10.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことが分かります。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従って“男性優遇”と感じている人の割合が高い傾向にあります。
- 他統計結果と比較すると、「平等」と感じている人の割合が全国よりも24.5%低くなっています。

オ. 政治・政策決定の場では

【政治・政策決定の場での男女平等の認識/性・年代別】



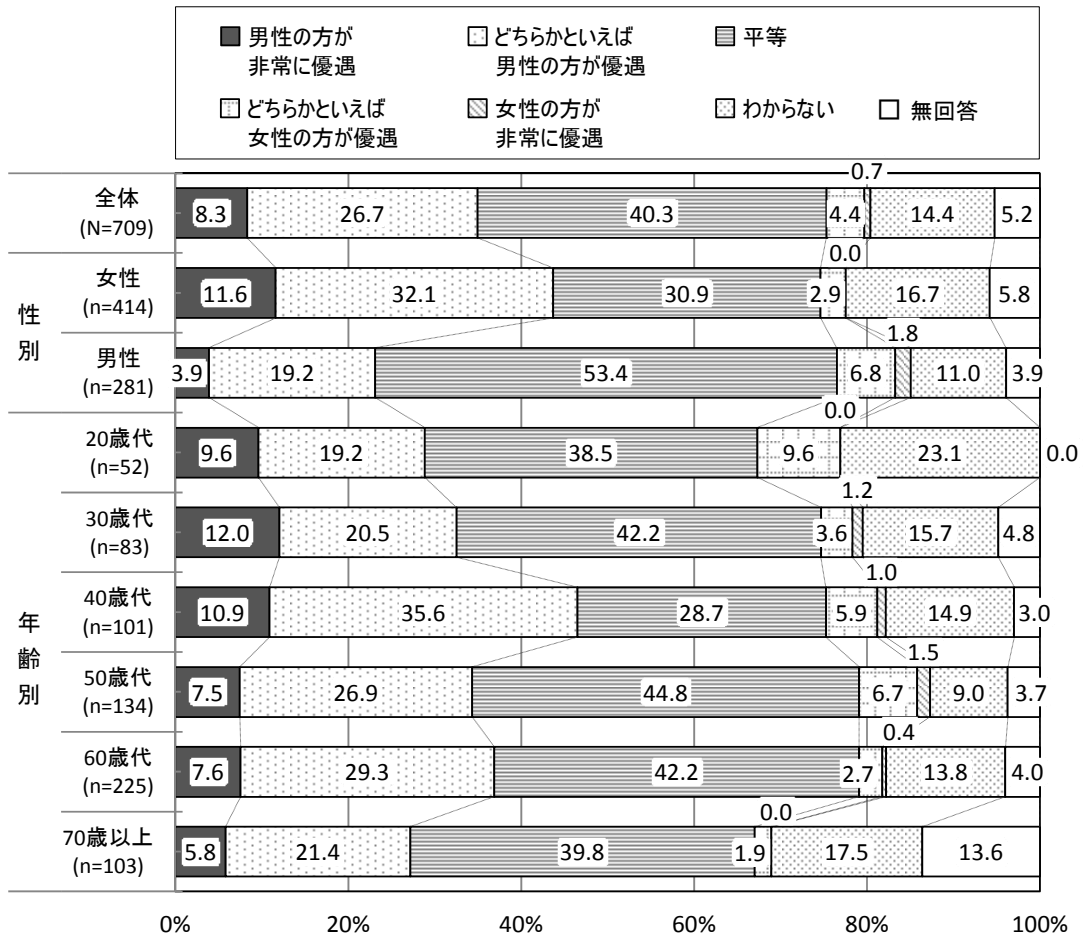
【政治・政策決定の場での男女平等の認識(他統計調査)】



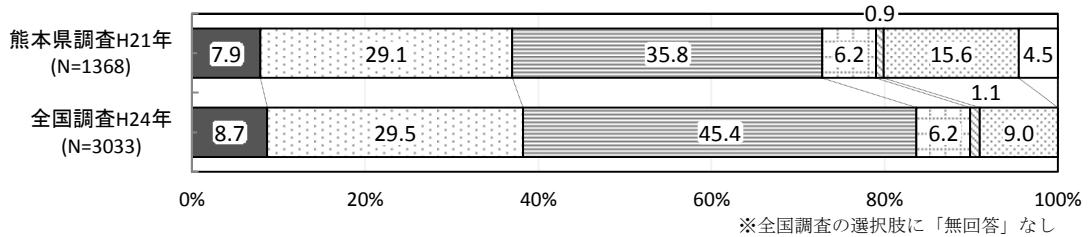
- 政治・政策決定の場で男女平等になっているかたずねたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇」(49.1%)の割合が最も高く、次いで、「男性のほうが非常に優遇」(18.3%)、「平等」(14.4%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことが分かります。
- 他統計結果と比較すると、“男性優遇”と感じている人の割合が全国よりも6.6%低くなっています。

カ. 法律や制度の上では

【法律や制度の上での男女平等の認識/性・年代別】



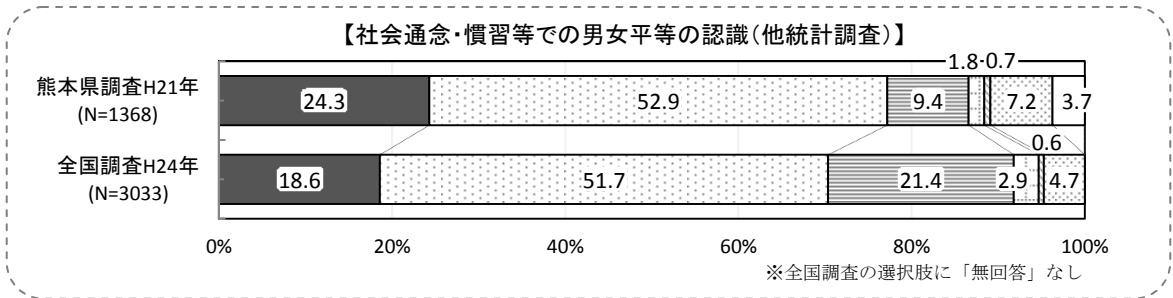
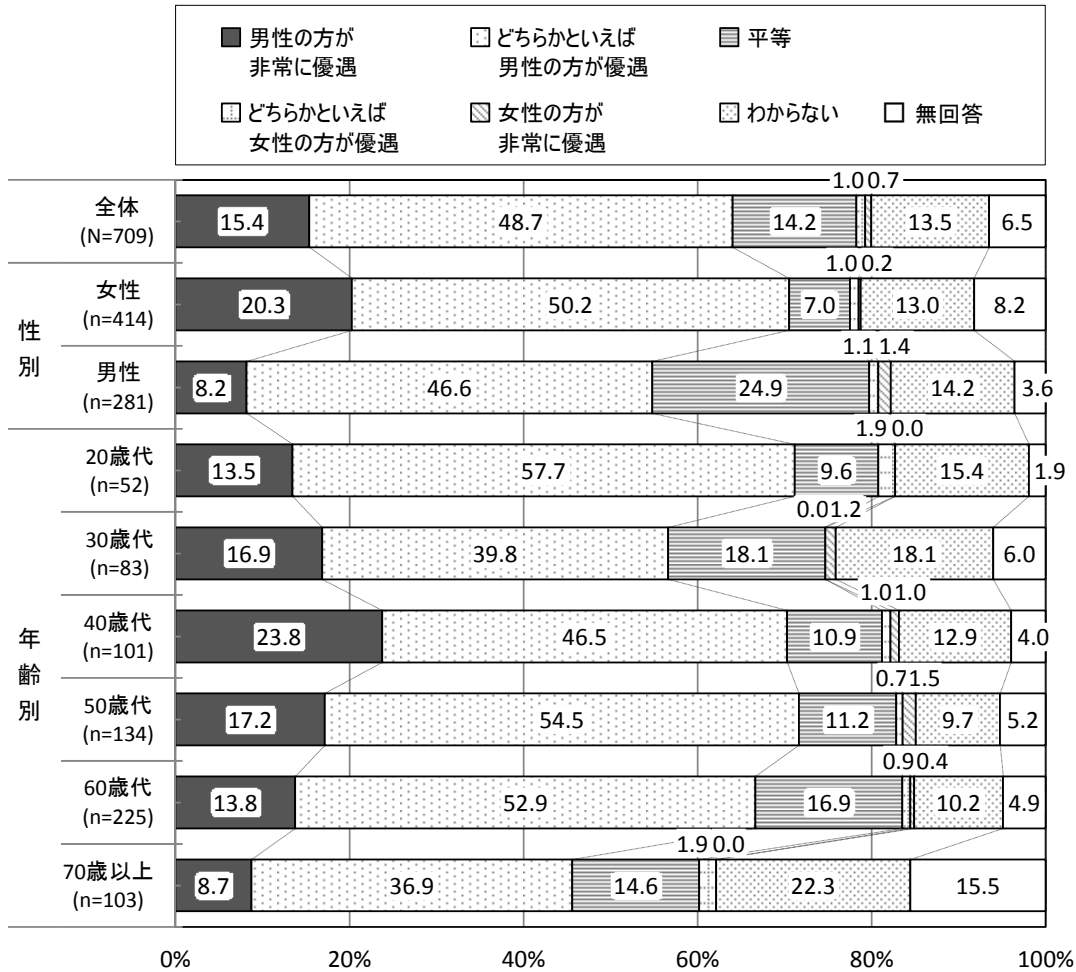
【法律や制度の上での男女平等の認識(他統計調査)】



- 法律や制度の上で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(40.3%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇」(26.7%)、「わからない」(14.4%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことが分かります。また、「平等」という回答が男性では53.4%を占めているのに対して女性は30.9%となっています。
- 他統計結果と比較すると、「平等」と感じている人の割合が全国よりも5.1%低く、熊本県よりも4.5%高くなっています。

キ. 社会通念・慣習等では

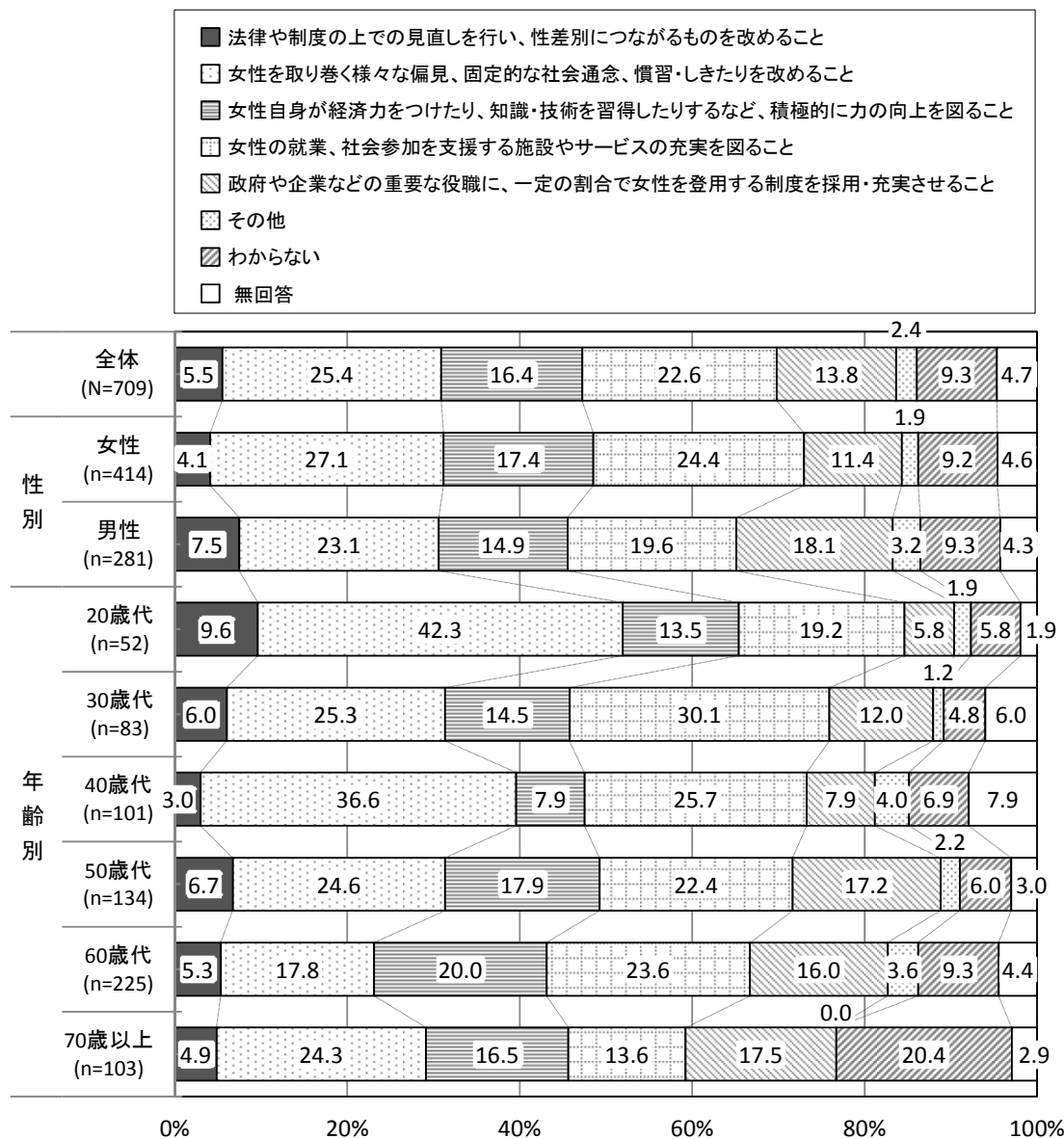
【社会通念・慣習等での男女平等の認識/性・年代別】



- 社会通念・慣習等で男女平等になっているかたずねたところ、「どちらかといえば男性の方が優遇」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇」(15.4%)、「平等」(14.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことが分かります。
- 他統計結果と比較すると、“男性優遇”と感じている人の割合が全国よりも6.2%、熊本県よりも13.1%低くなっています。

問9 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、女性の参画の拡大がありますが、男女があらゆる分野でより平等になるためには、何が最も重要だと思いますか。（単数回答）

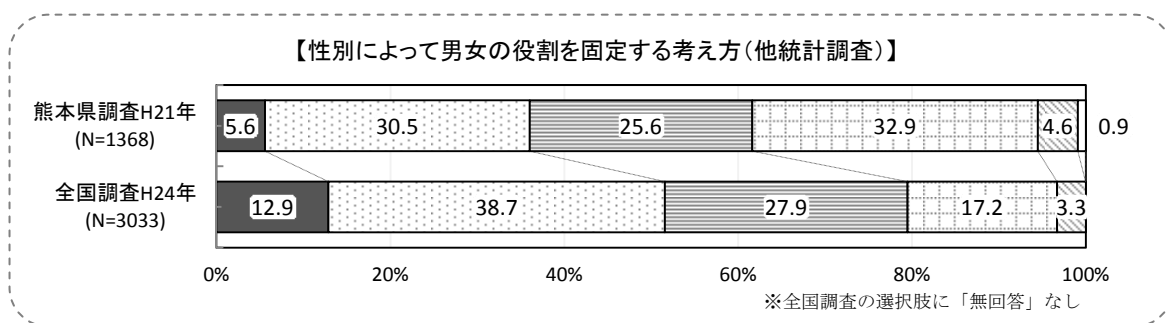
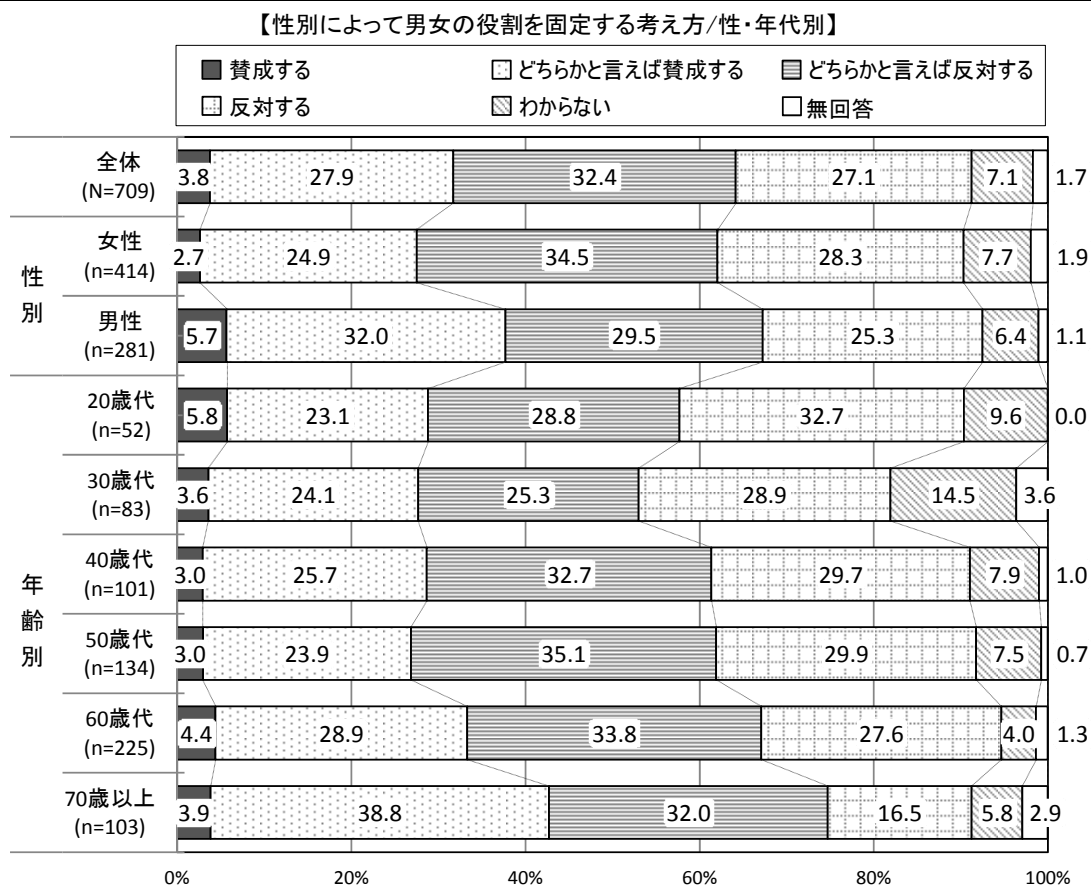
【男女が平等になるために重要なこと/性・年代別】



- 男女が平等になるために重要なことについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(25.4%)の割合が最も高くなっています。次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(22.6%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上を図ること」(16.4%)、「政府や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」(13.8%)と続いています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ「20歳代」が「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の必要性を感じている割合が高くなっています。

3. 家庭生活の役割分担について

問 10 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてあなたは
 はどう思いますか。(単数回答)



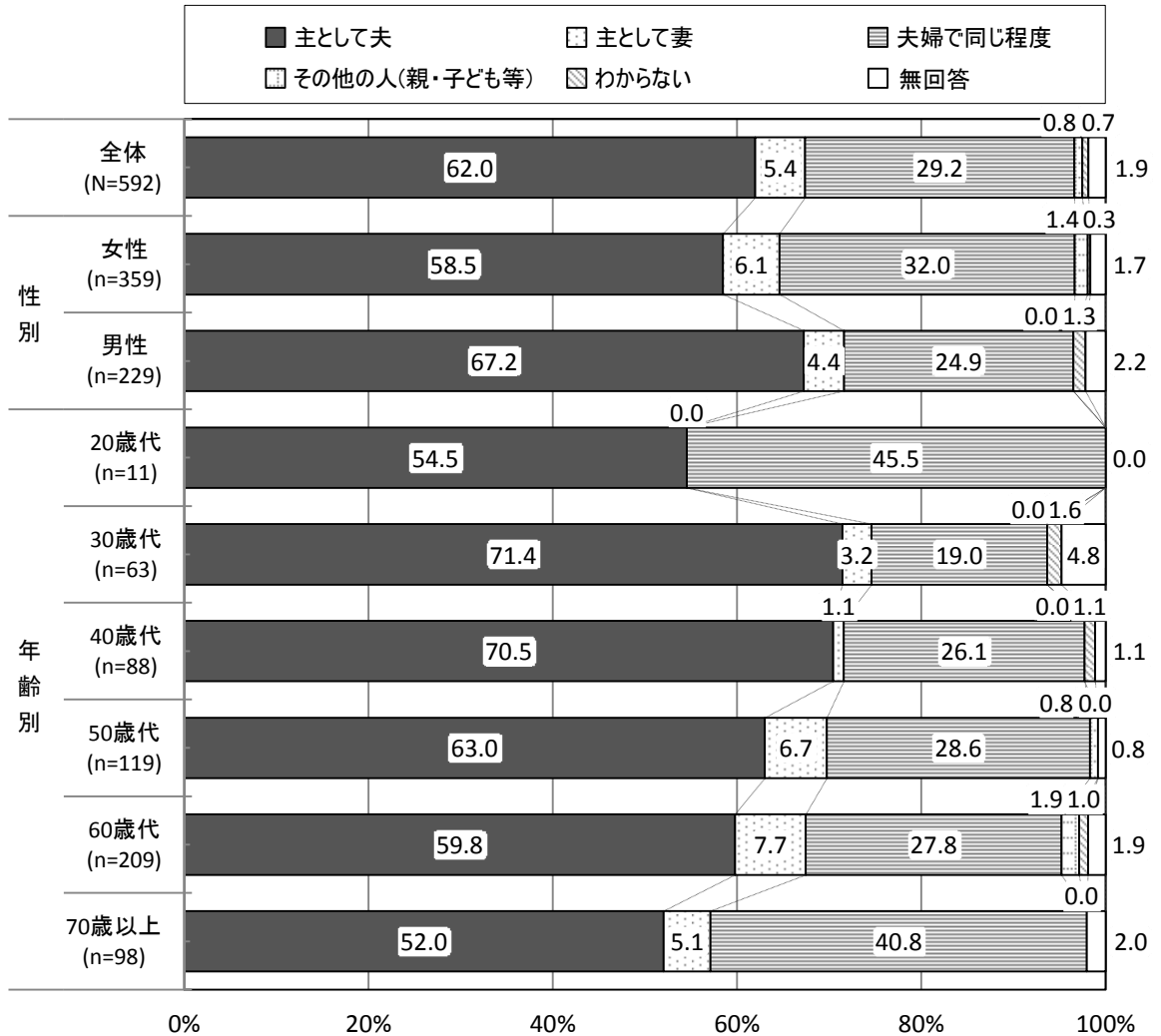
- 性別によって男女の役割を固定する考え方についてたずねたところ、「どちらかと言えば反対する」(32.4%)の割合が最も高く、次いで「どちらかと言えば賛成する」(27.9%)、「反対する」(27.1%)となっています。
- 男女別にみると、「反対する」「どちらかと言えば反対する」と回答している人は、男性(54.8%)に比べて女性(62.8%)の割合の方が高いことが分かります。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従って「どちらかと言えば賛成する」の割合が高くなっています。
- 他統計結果と比較すると、「反対する」「どちらかと言えば反対する」を合わせた回答が全国よりも14.4%高くなっています。

問 11 (問 4. 「既婚」回答者のみ)

あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。(単数回答)

ア. 家計を支える(生活費を稼ぐ)

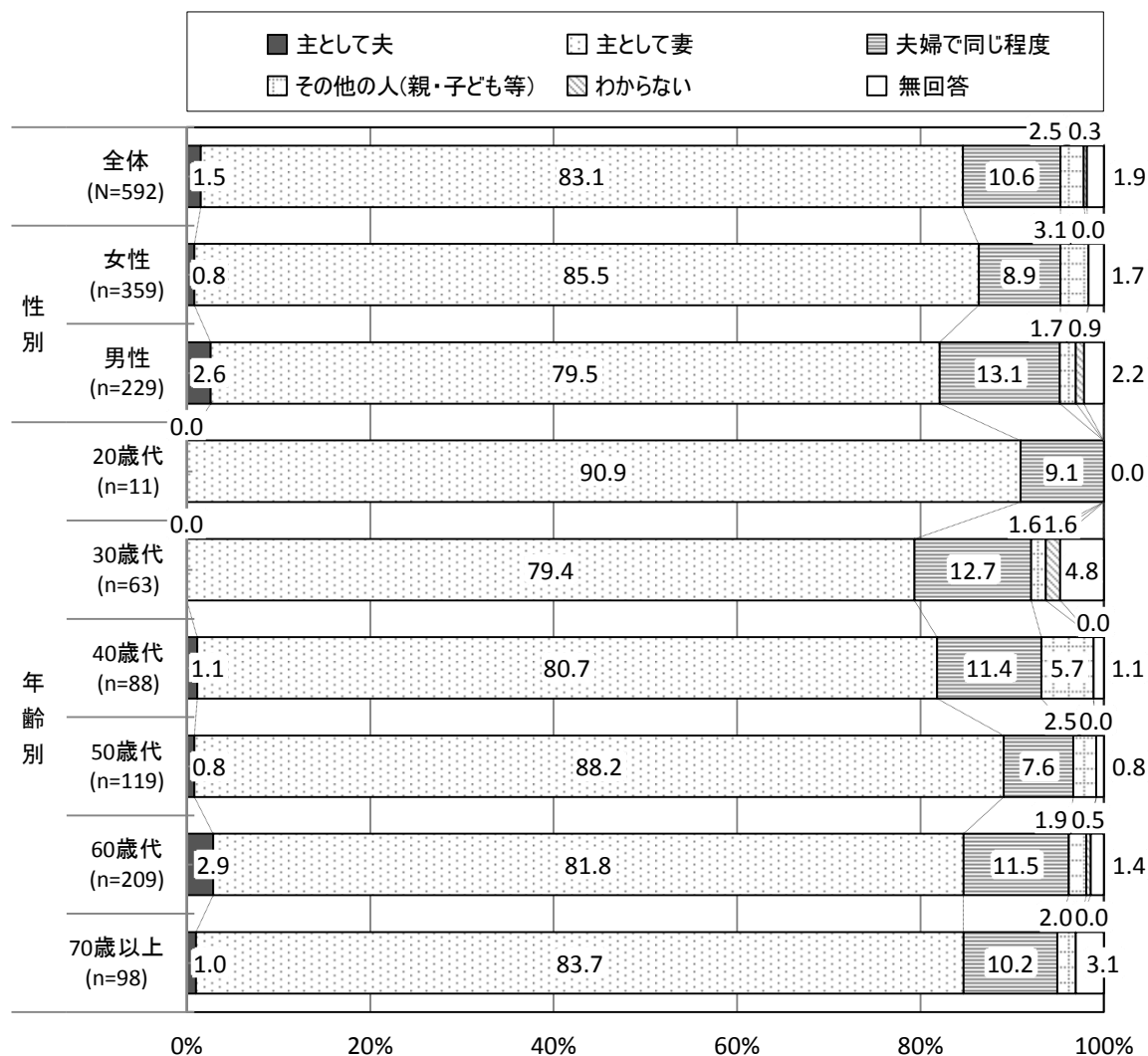
【ア. 家計を支える/性・年代別】



●家計を支える(生活費を稼ぐ)のは主に誰かたずねたところ、「主として夫」が62.0%を占めています。次いで「夫婦で同じ程度」(29.2%)、「主として妻」(5.4%)となっています。夫もしくは夫婦で家計を支えている家庭は、全体の91.2%となっています。

イ. 炊事・掃除・洗濯などの家事

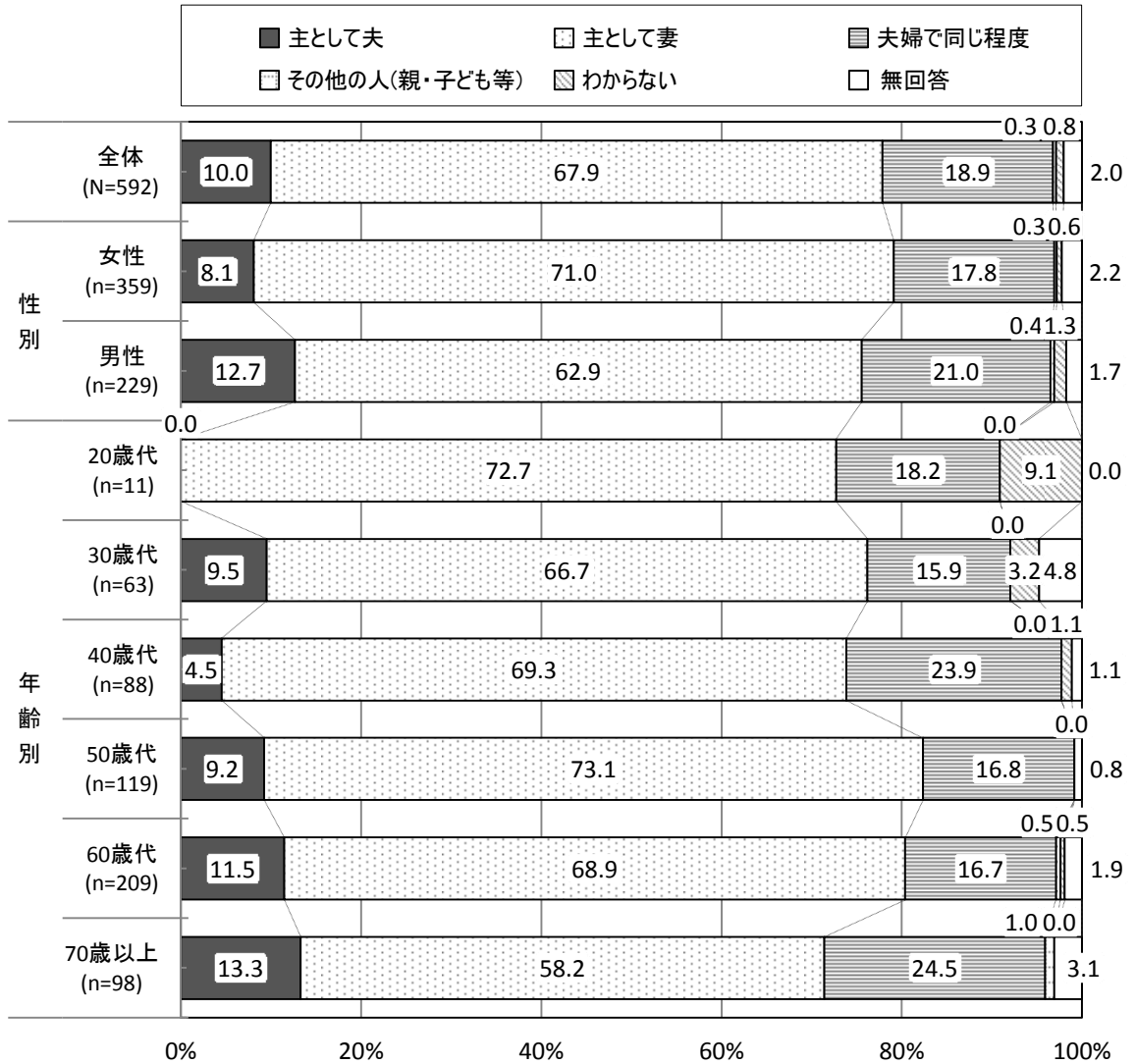
【イ. 炊事・掃除・洗濯などの家事/性・年代別】



- 炊事・掃除・洗濯などの家事をするのは主に誰かたずねたところ、「主として妻」が83.1%を占めています。次いで「夫婦で同じ程度」(10.6%)、「その他の人(親・子ども等)」(2.5%)となっています。

ウ. 日々の家計の管理

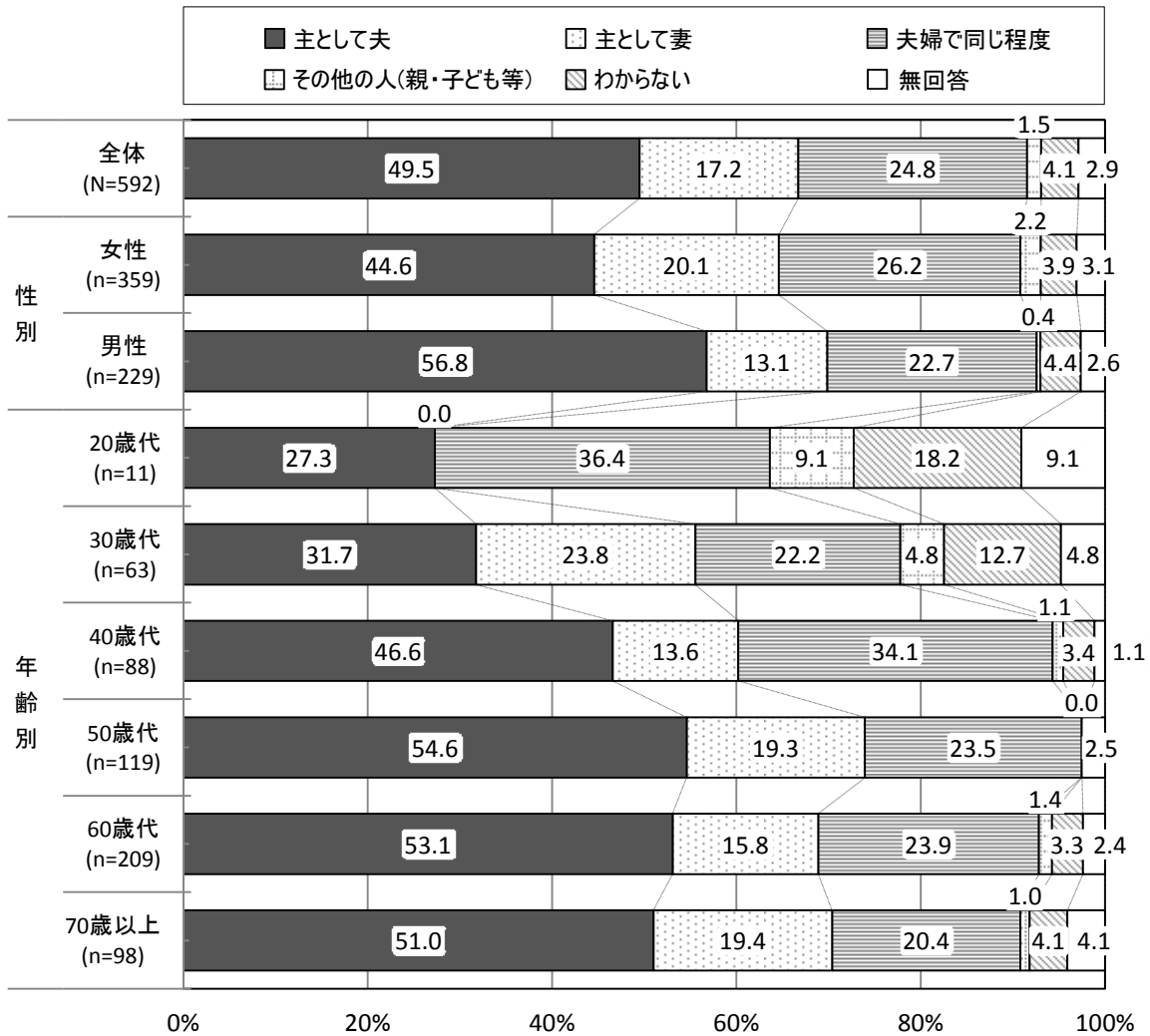
【ウ. 日々の家計の管理/性・年代別】



- 日々の家計の管理をするのは主に誰かたずねたところ、「主として妻」が 67.9%を占めています。次いで「夫婦で同じ程度」(18.9%)、「主として夫」(10.0%) となっています。

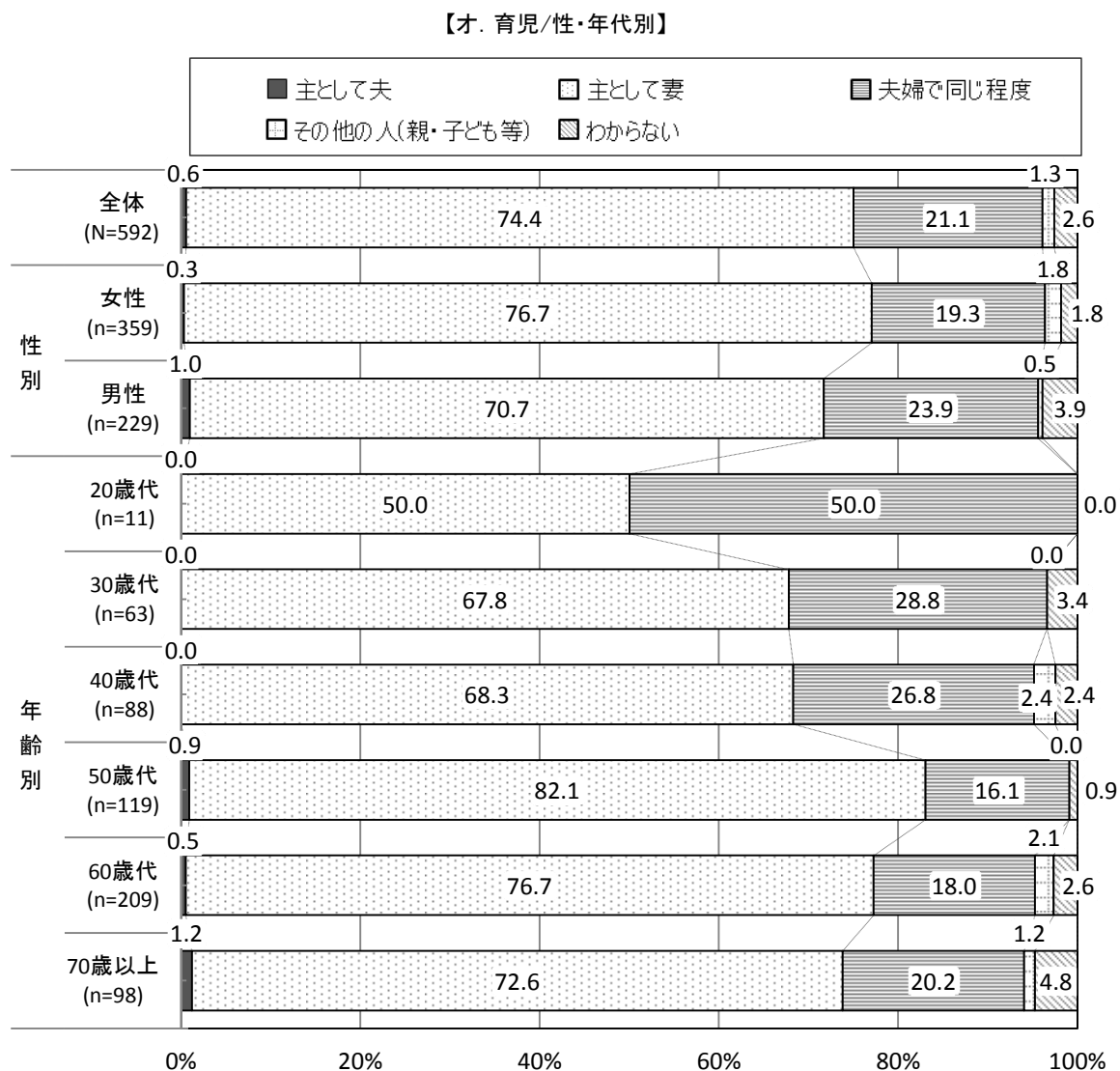
エ. 自治会・町内会などの地域活動

【エ. 自治会・町内会などの地域活動/性・年代別】



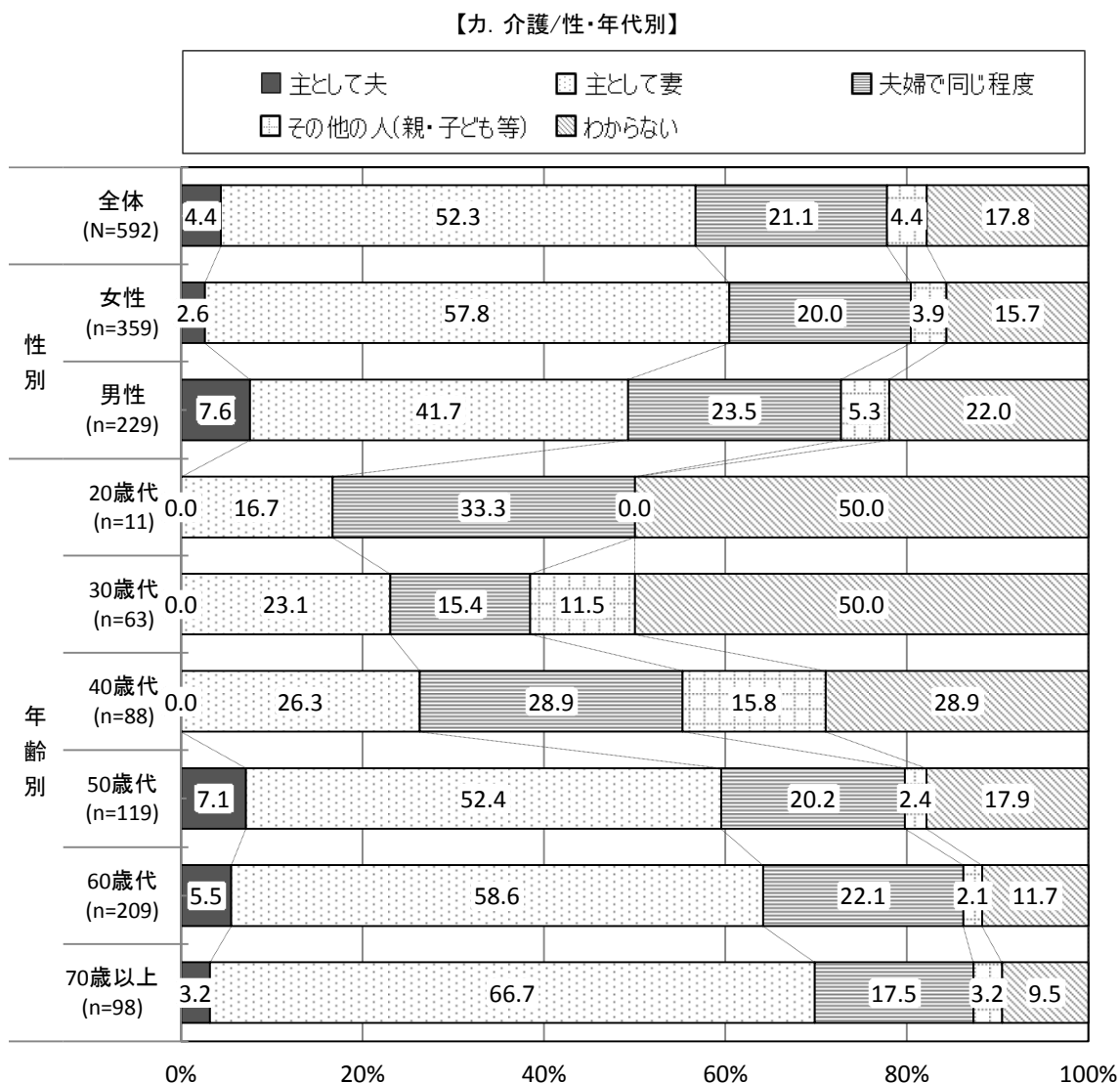
- 自治会・町内会などの地域活動をするのは主に誰かたずねたところ、「主として夫」(49.5%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(24.8%)、「主として妻」(17.2%)となっています。
- 年代別にみると、年齢の高い階層において「主として夫」の割合が高い傾向にあります。

オ. 育児（経験者のみ）



- 育児について主に誰が行っているかたずねたところ、「主として妻」が 74.4%を占めています。次いで「夫婦で同じ程度」(21.1%)となっています。
- 年代別にみると、「夫婦で同じ程度」の割合が「20歳代」で 50.0%と他の年齢階層と比べて特に高く、年齢階層の低い年代ほど、「夫婦で同じ程度」と回答している割合が高い傾向にあります。

カ. 介護（経験者のみ）

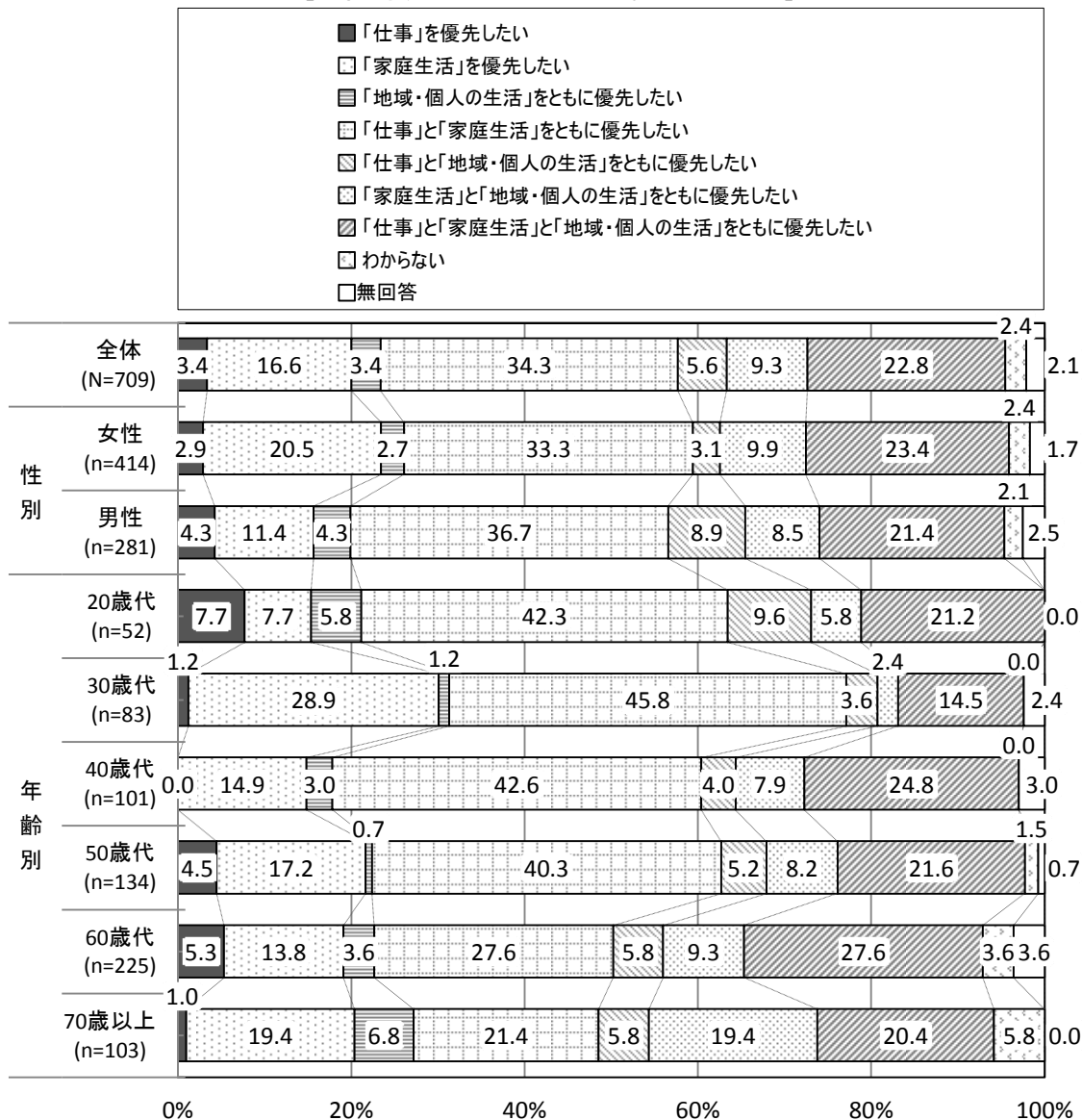


- 介護について主に誰が行っているかたずねたところ、「主として妻」(52.3%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(21.1%)、「わからない」(17.8%)となっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従って「主として妻」の割合が高くなっています。

4. 仕事と家庭・地域生活の両立について

問 12 あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものをお答えください。(単数回答)

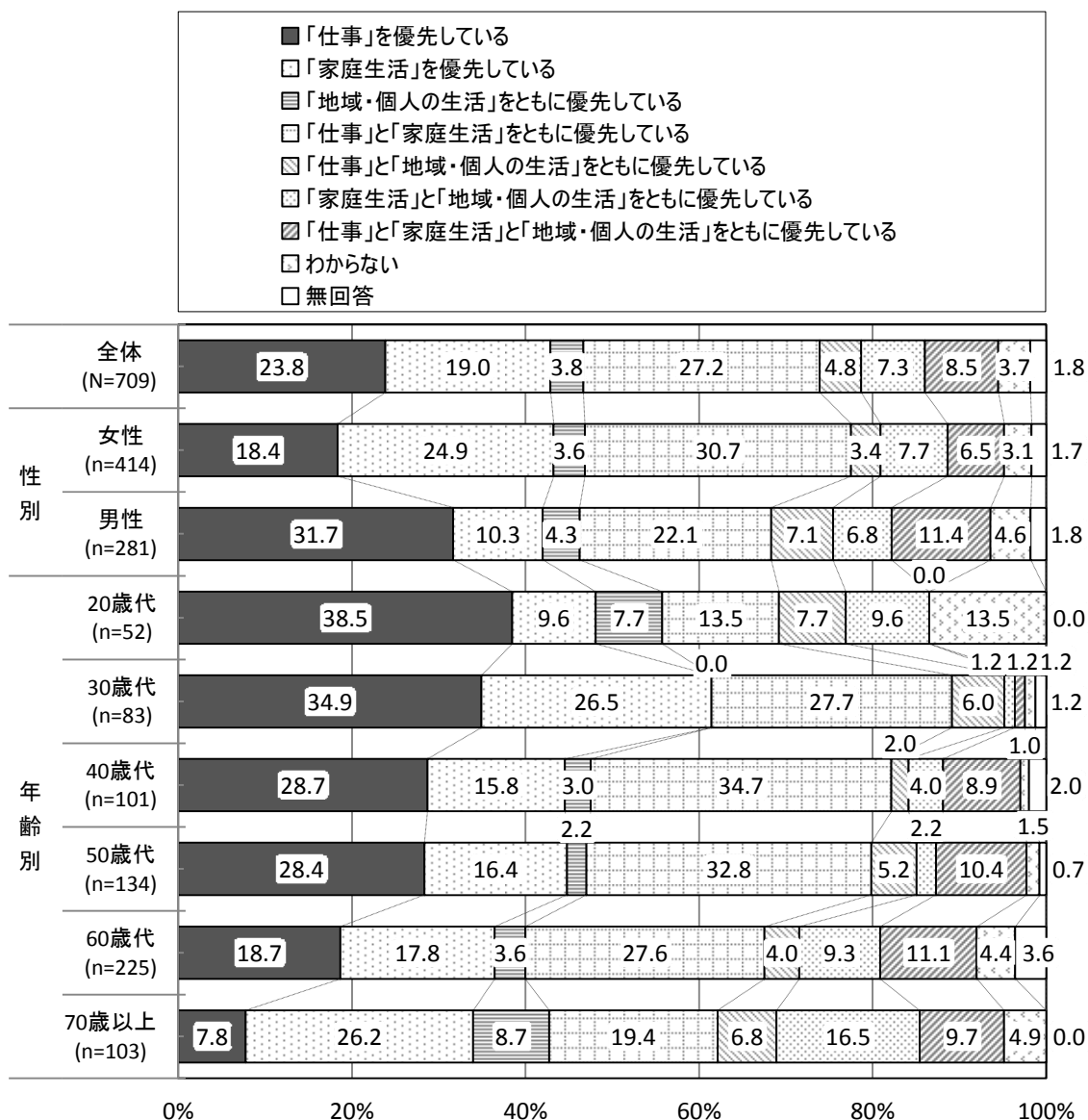
【仕事と家庭・地域生活の両立の希望/性・年代別】



●生活を送るうえでの希望の優先度について、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』(34.3%)の割合が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』(22.8%)、『「家庭生活」を優先したい』(16.6%)となっています。

問13 あなたの現実（現状）に最も近いものをお答えください。（単数回答）

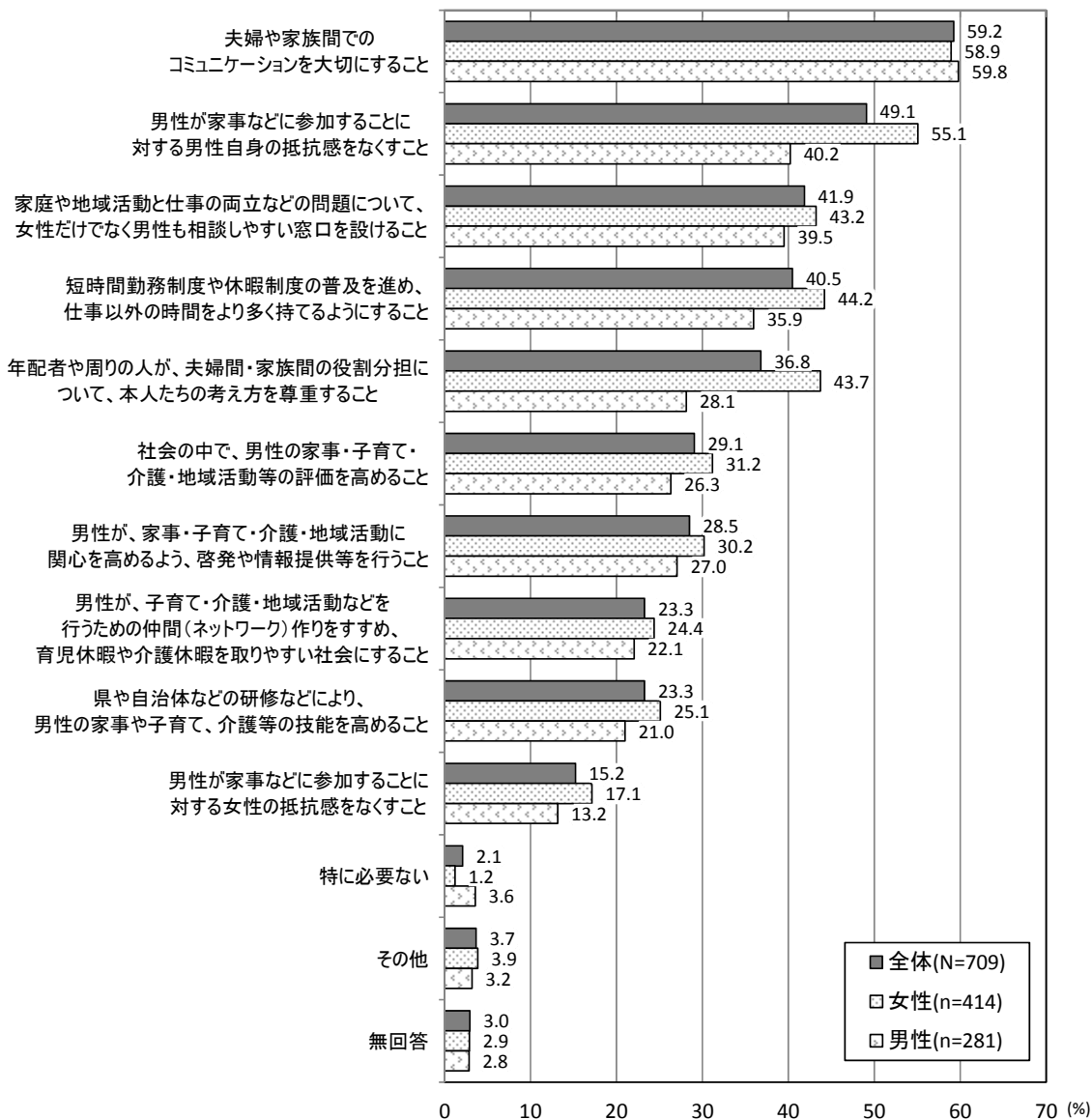
【仕事と家庭・地域生活の両立の現状/性・年代別】



- 生活を送るうえでの現状の優先度について、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』（27.2%）の割合が最も高く、次いで『「仕事」を優先している』（23.8%）、『「家庭生活」を優先している』（19.0%）となっています。
- 男女別にみると、男性は『「仕事」を優先している』（31.7%）、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』（30.7%）が最も高い割合となっています。

問 14 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、男性にとっての男女共同参画の推進がありますが、男女がともに家事、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

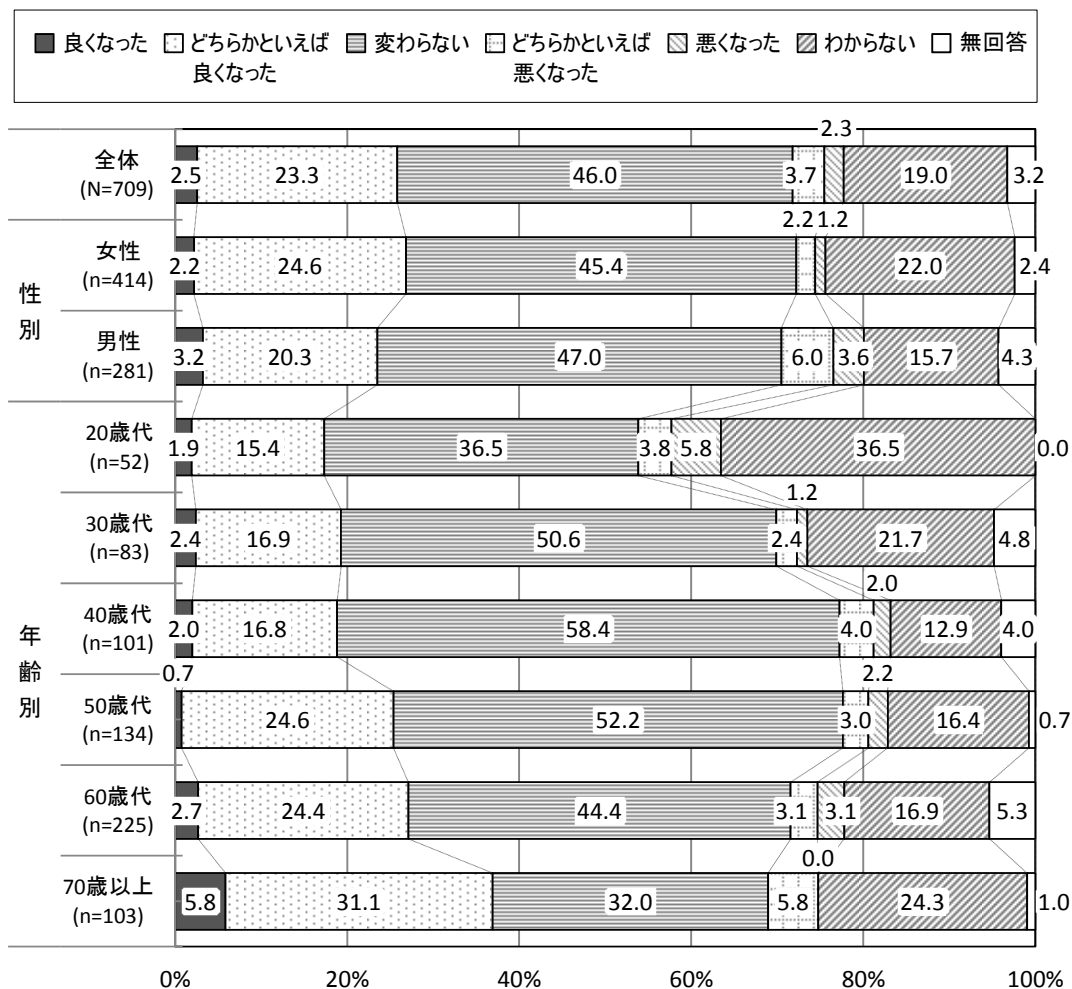
【男女がともに家事、介護、地域活動に参加するために必要なこと/性別】



- 男女がともに家事、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要かたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを大切にすること」(59.2%)の割合が最も高くなっています。次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(49.1%)、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、女性だけでなく男性も相談しやすい窓口を設けること」(41.9%)と続いています。
- 男女別で見ると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者や周りの人が、夫婦間・家族間の役割分担について、本人たちの考え方を尊重すること」の理由が男性に比べて女性の方が多く回答しており、男女の意識に開きがみられます。

問 15 あなた自身やまわりで、「多様な働き方・生き方が選択できる社会」が一年前と比較してどのように変化していると思いますか。(単数回答)

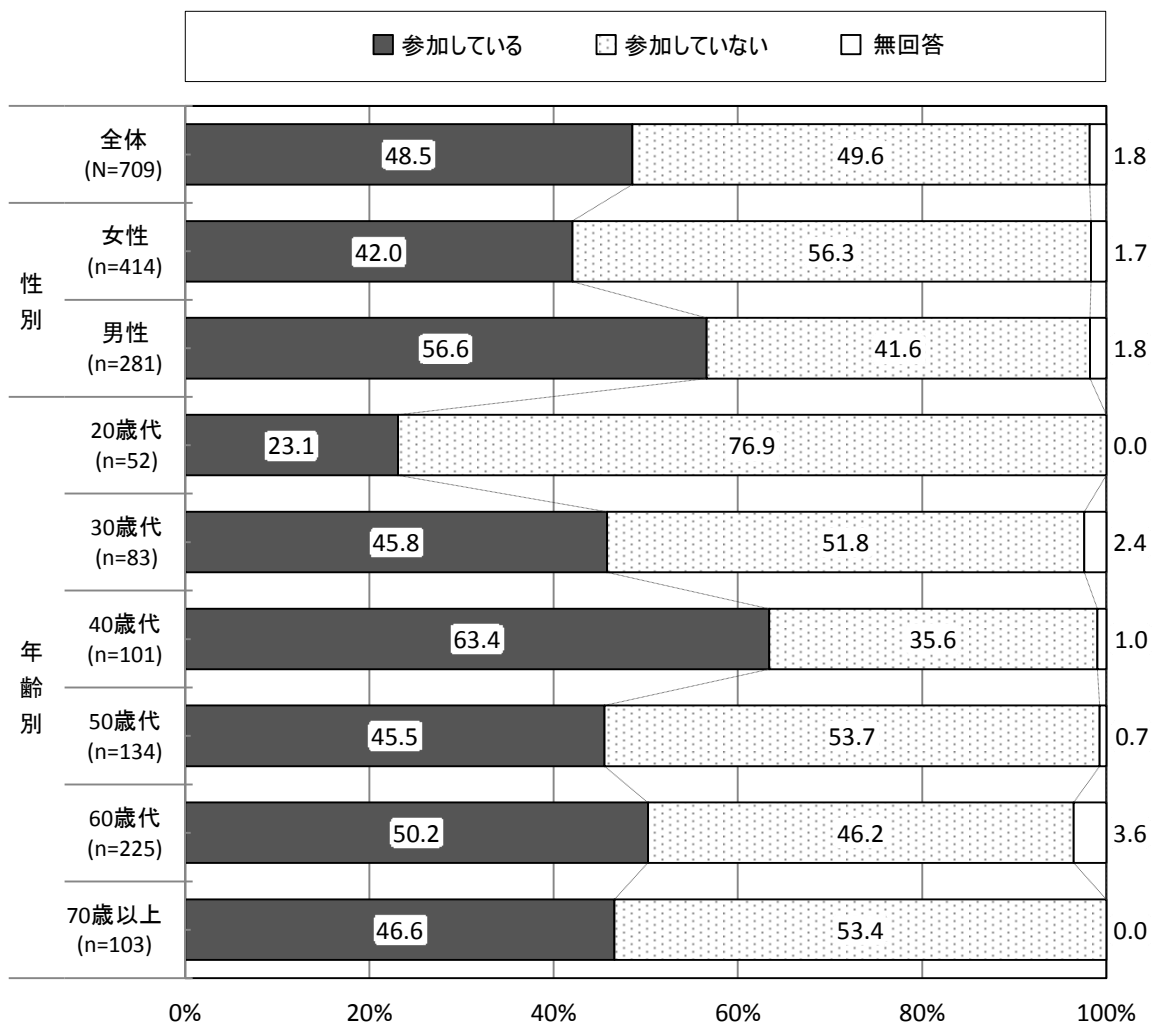
【「多様な働き方・生き方が選択できる社会」の変化について/性・年代別】



- 「多様な働き方・生き方が選択できる社会」が生活や身の回りの環境から判断して、一年前と比べてどのように変化したかたずねたところ、「変わらない」(46.0%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば良くなった」(23.3%)、「わからない」(19.0%)となっています。「良くなった」「どちらかといえば良くなった」が25.8%、「悪くなった」「どちらかといえば悪くなった」が6.0%と良い方への変化と捉える割合が多くなっています。
- 年代別にみると、「良くなった」「どちらかといえば良くなった」を合わせた回答の割合が、年齢階層が上がるに従って高く、「悪くなった」「どちらかといえば悪くなった」を合わせた回答が「20歳代」で9.6%と他の年齢階層と比べて最も高い割合となっています。

問 16 あなたは、現在仕事以外にボランティアや町内会・自治会・PTA活動など家庭以外で何か活動に参加していますか。(単数回答)

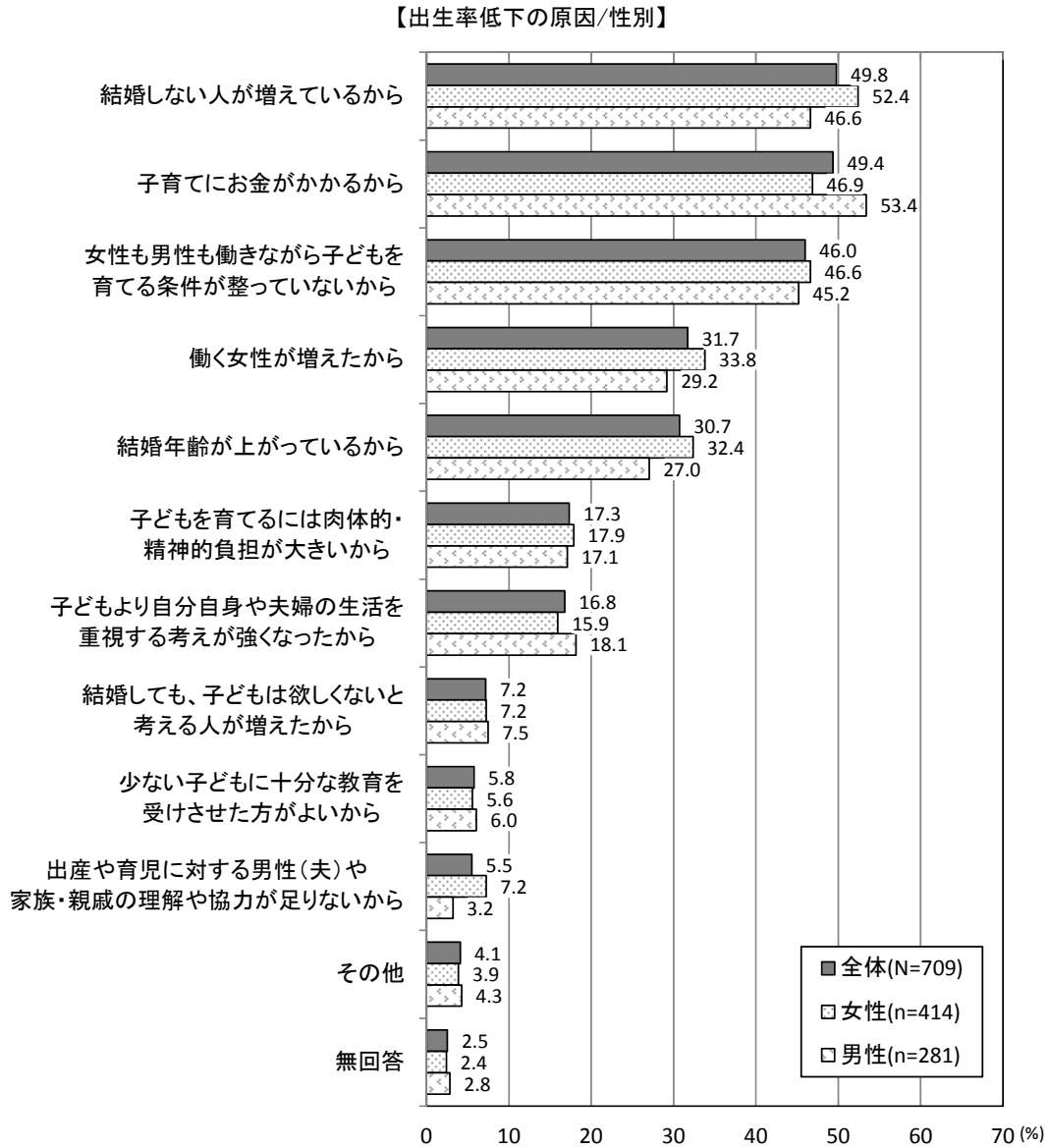
【ボランティアや地域活動への参加状況/性・年代別】



- ボランティアや地域活動への参加状況をたずねたところ、「参加していない」が49.6%、「参加している」が48.5%と、参加していない人がやや多くなっています。
- 男女別にみると、女性(42.0%)よりも男性(56.6%)の方が地域活動への参加状況が高くなっています。
- 年代別にみると、「参加している」回答者は、他の年齢階層割合と比べて「20歳代」(23.1%)が最も低く、一方、「40歳代」(63.4%)が最も高くなっています。

5. 出生率低下について

問17 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えていますか。【〇は3つまで】（複数回答）

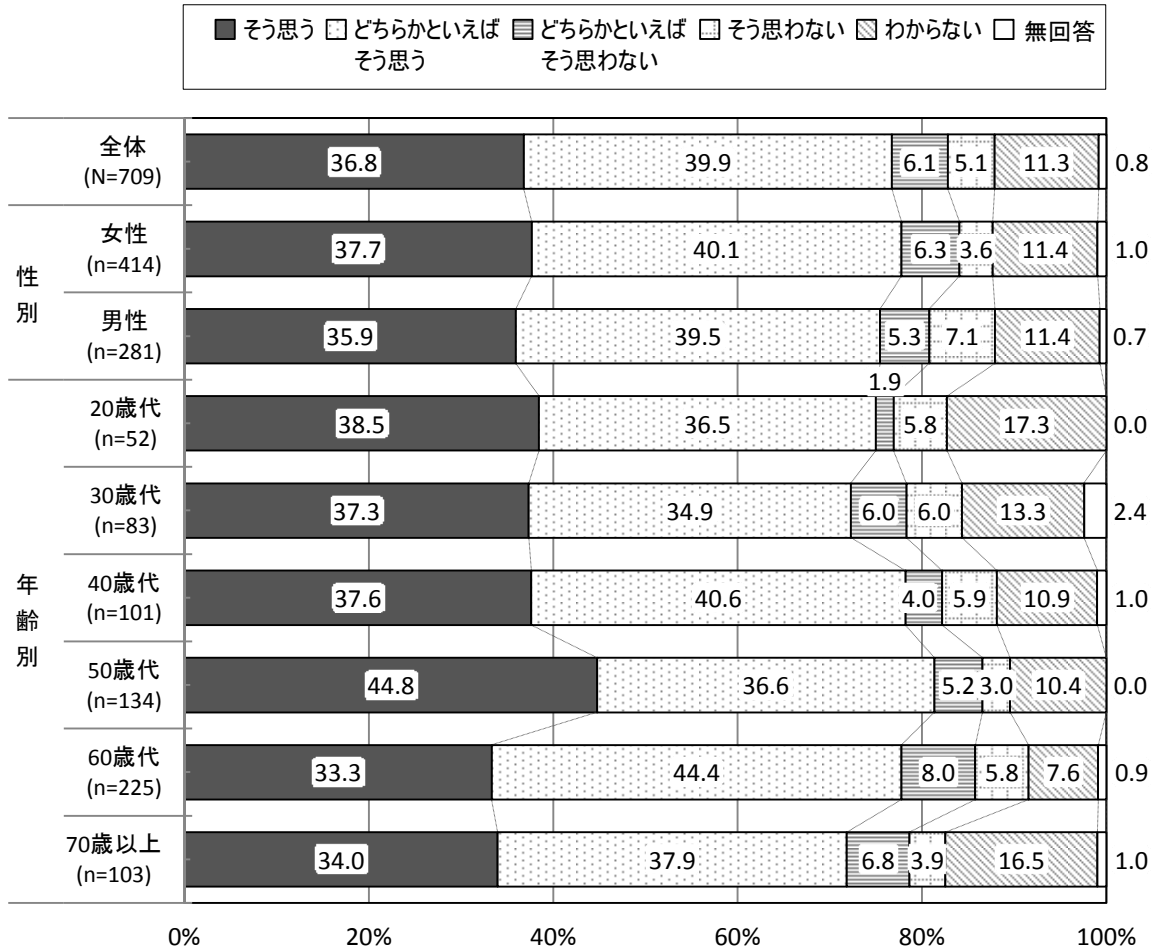


- 出生率低下の要因についてたずねたところ、「結婚しない人が増えているから」（49.8%）の割合が最も高くなっています。次いで「子育てにお金がかかるから」（49.4%）、「女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」（46.0%）と続いています。

6. 女性の社会参画について

問 18 あなたは、女性が自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や農協の役員などになって、政策の企画立案や方針決定に意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。（単数回答）

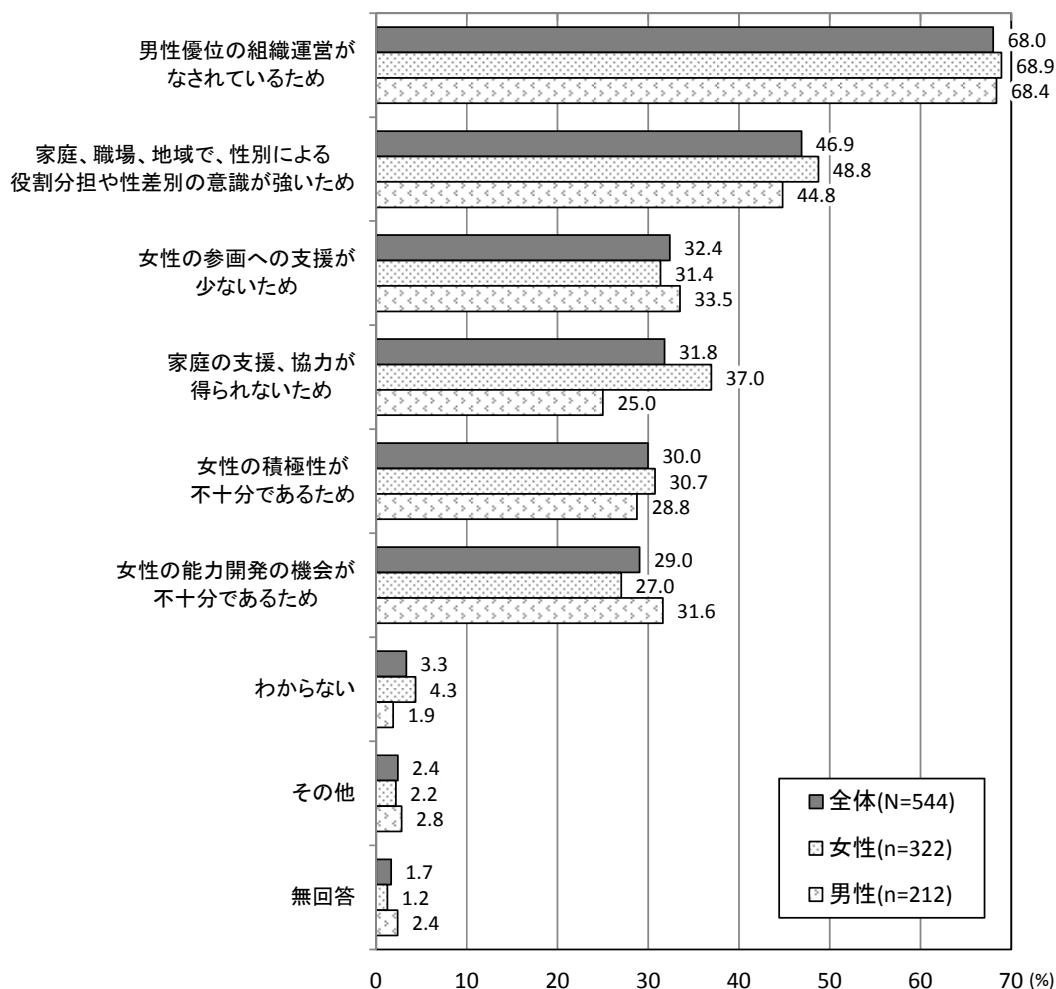
【政策の場で女性の意見がもっと反映されるべきか/性・年代別】



- 政策の場で女性の意見がもっと反映されるようになるべきかたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」（39.9%）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（36.8%）、「わからない」（11.3%）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた76.7%の回答者が女性の意見が反映されることに賛成としています。

問19 (問18.「そう思う」「どちらかといえばそう思う」回答者のみ)
 「政治や行政、職場において、計画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ない」といわれますが、その原因は何だと思えますか。(複数回答)

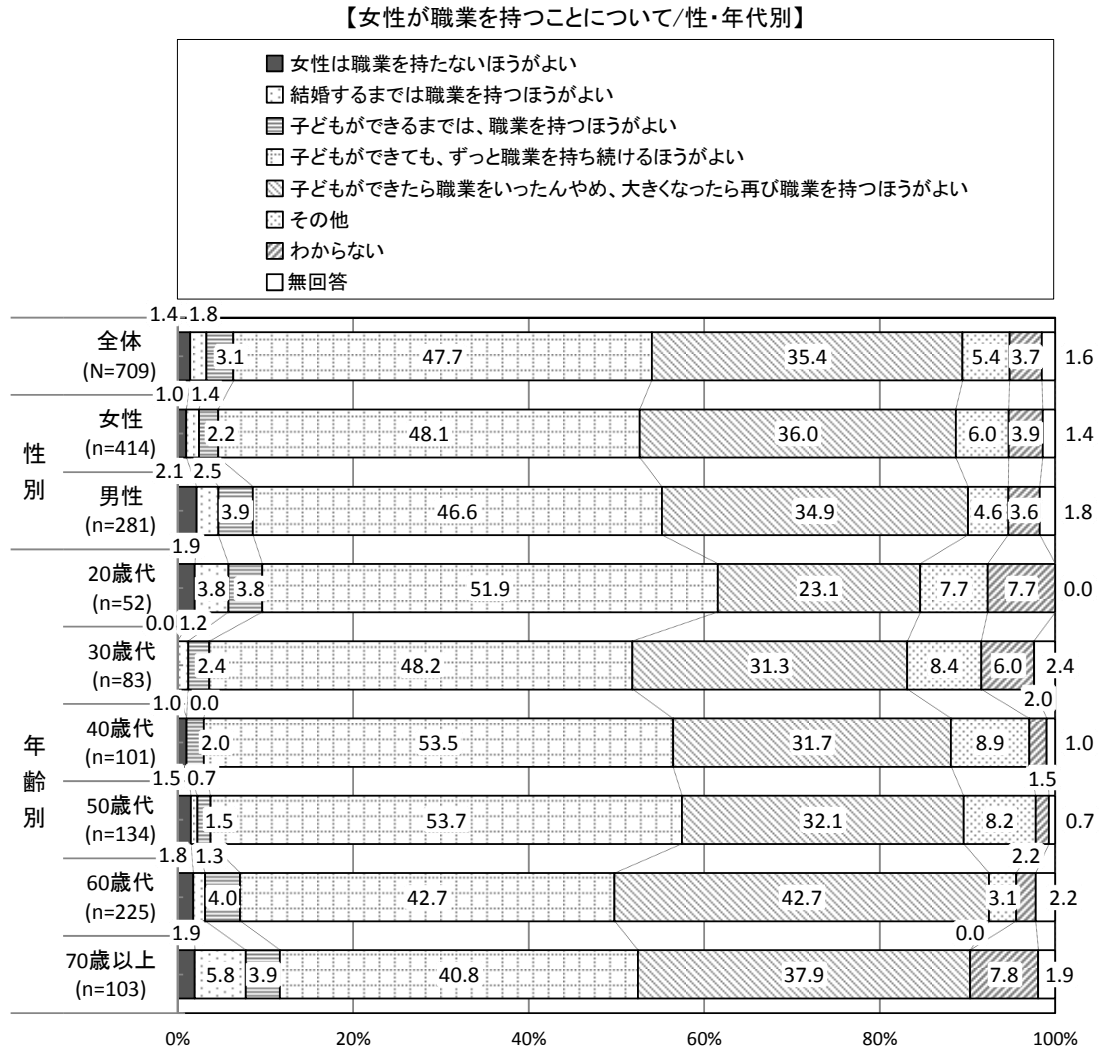
【計画立案や決定の場で女性の参画が少ないとされる原因/性別】



- 政治や行政、職場において、計画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ないとされる原因は何かとたずねたところ、「男性優位の組織運営がなされているため」(68.0%)の割合が最も高くなっています。次いで「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(46.9%)、「女性の参画への支援が少ないため」(32.4%)と続いています。
- 男女別にみると、「家庭の支援、協力が得られないため」の理由が男性に比べて女性の方が多く回答しており、男女の意識に開きがみられます。

7. 女性が職業を持つことについて

問 20 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(単数回答)



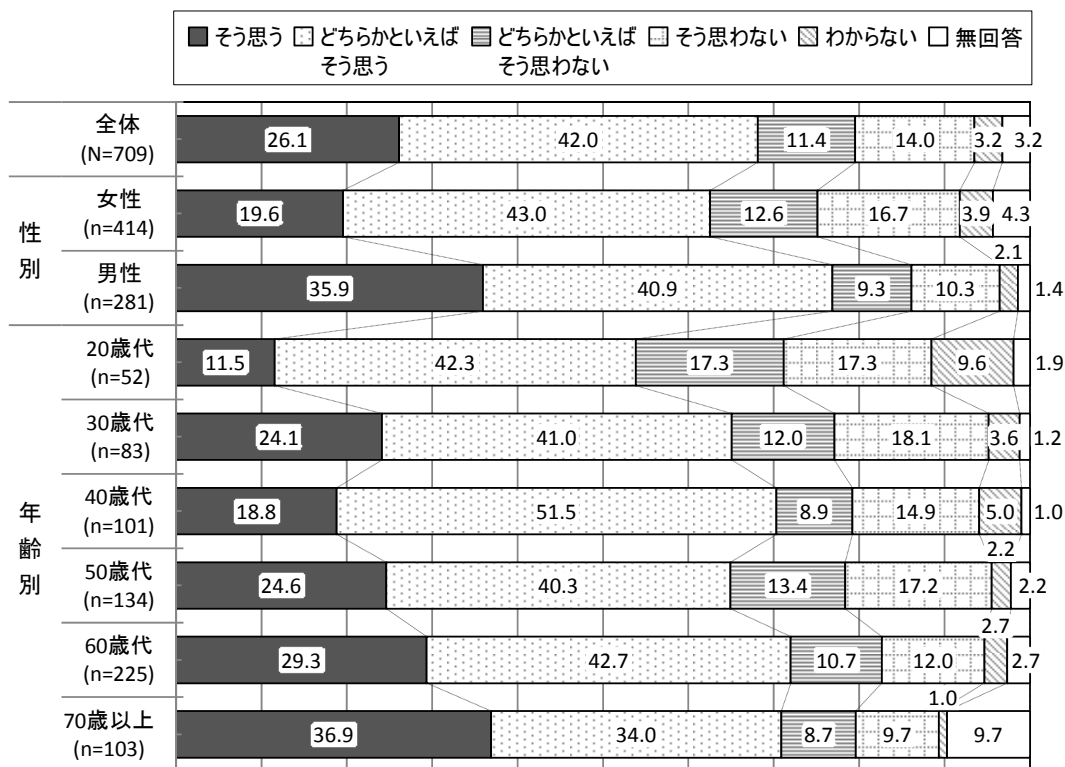
- 女性が職業を持つことについてたずねたところ、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(47.7%)の割合が最も高く、次いで「子どもができれば職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(35.4%)となっています。
- 年代別にみると、20～50歳代において「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が約半数を占めています。一方、他の年代に比べて「20歳代」「70歳以上」において、女性は職業を持たない、あるいは結婚や出産を機に離職する方がよいという考えが多いこともうかがえます。

8. 子育て・教育について

問 21 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えていますか。(単数回答)

ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

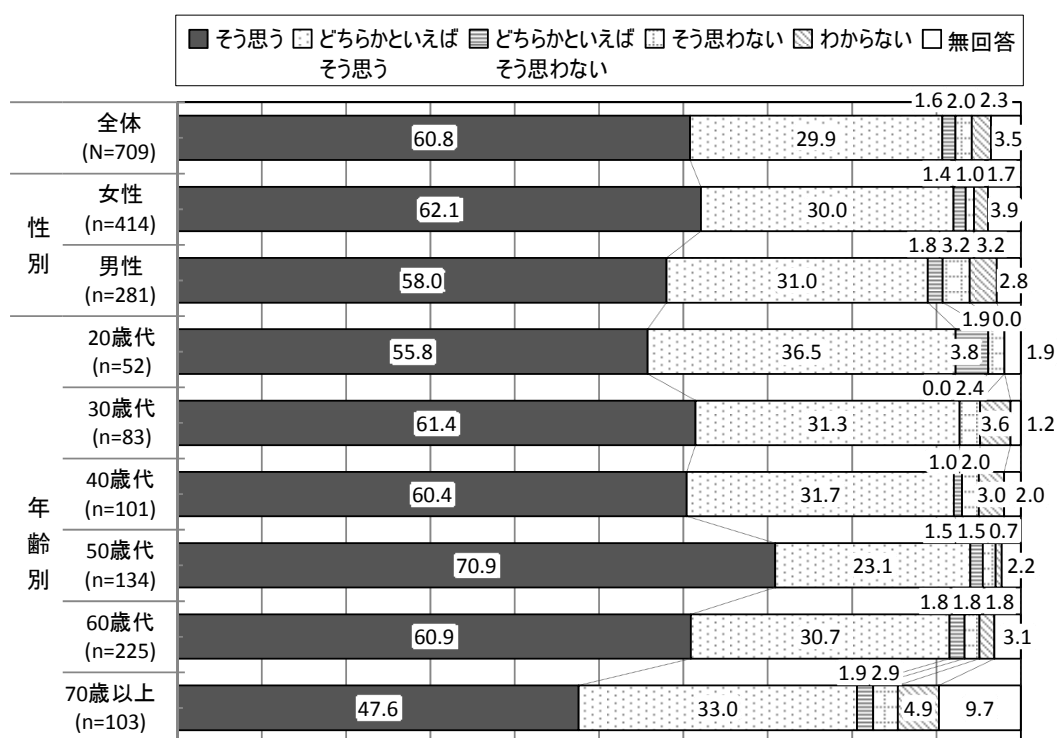
【ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる/性・年代別】



- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるという考え方についてたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」(42.0%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(26.1%)となっています。
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた68.1%の回答者が、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるという考え方に支持しています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が女性(62.6%)に比べ男性(76.8%)の方が高くなっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるほど「そう思う」の割合が高くなっている傾向にあります。

イ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる

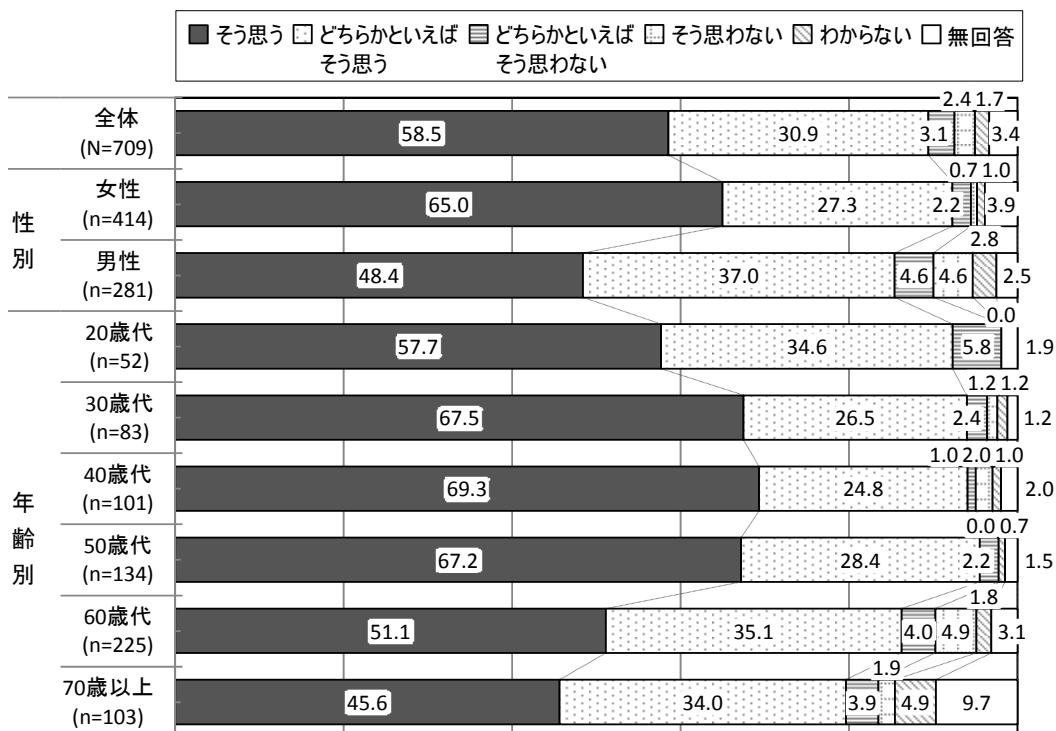
【イ. 男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる/性・年代別】



- 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てるという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(60.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(29.9%)となっています。
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた90.7%の回答者が、経済的に自立できるように育てるという考え方に肯定的です。

ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる

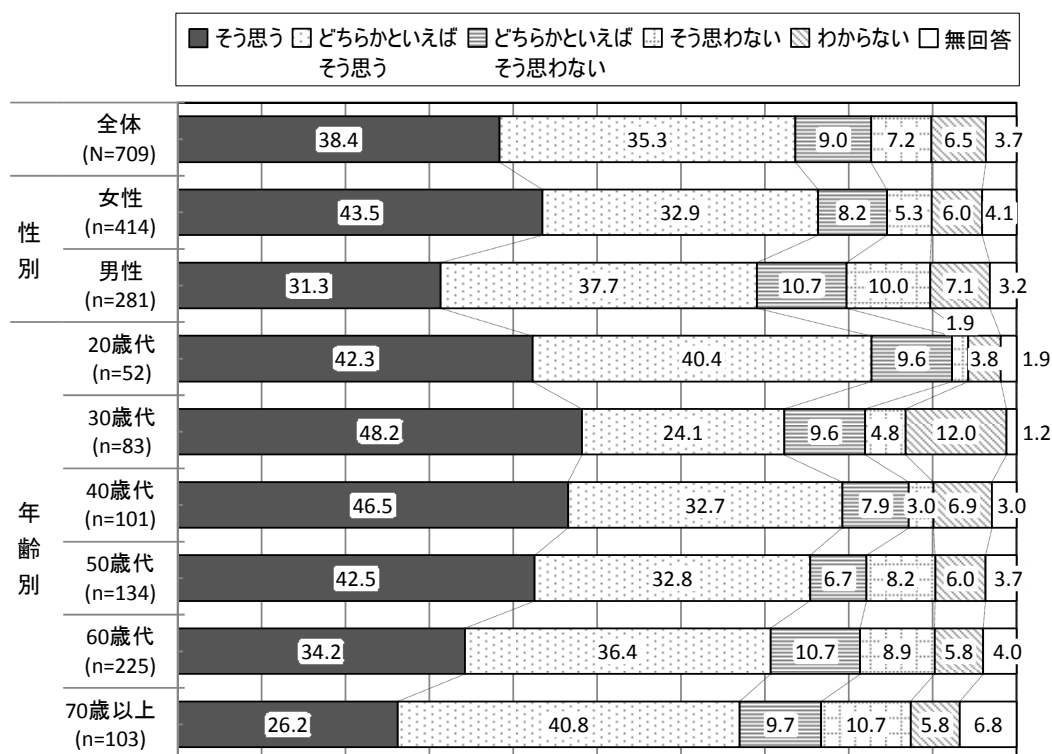
【ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる/性・年代別】



- 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(58.5%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.9%)となっています。
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた89.4%の回答者が、男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるという考え方に肯定的です。
- 男女別にみると、「そう思う」の割合は男性(48.4%)より女性(65.0%)の方が高くなっています。
- 年代別にみると、40歳代を境に年齢階層が上がるほど「そう思う」の割合が低くなっています。

エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする

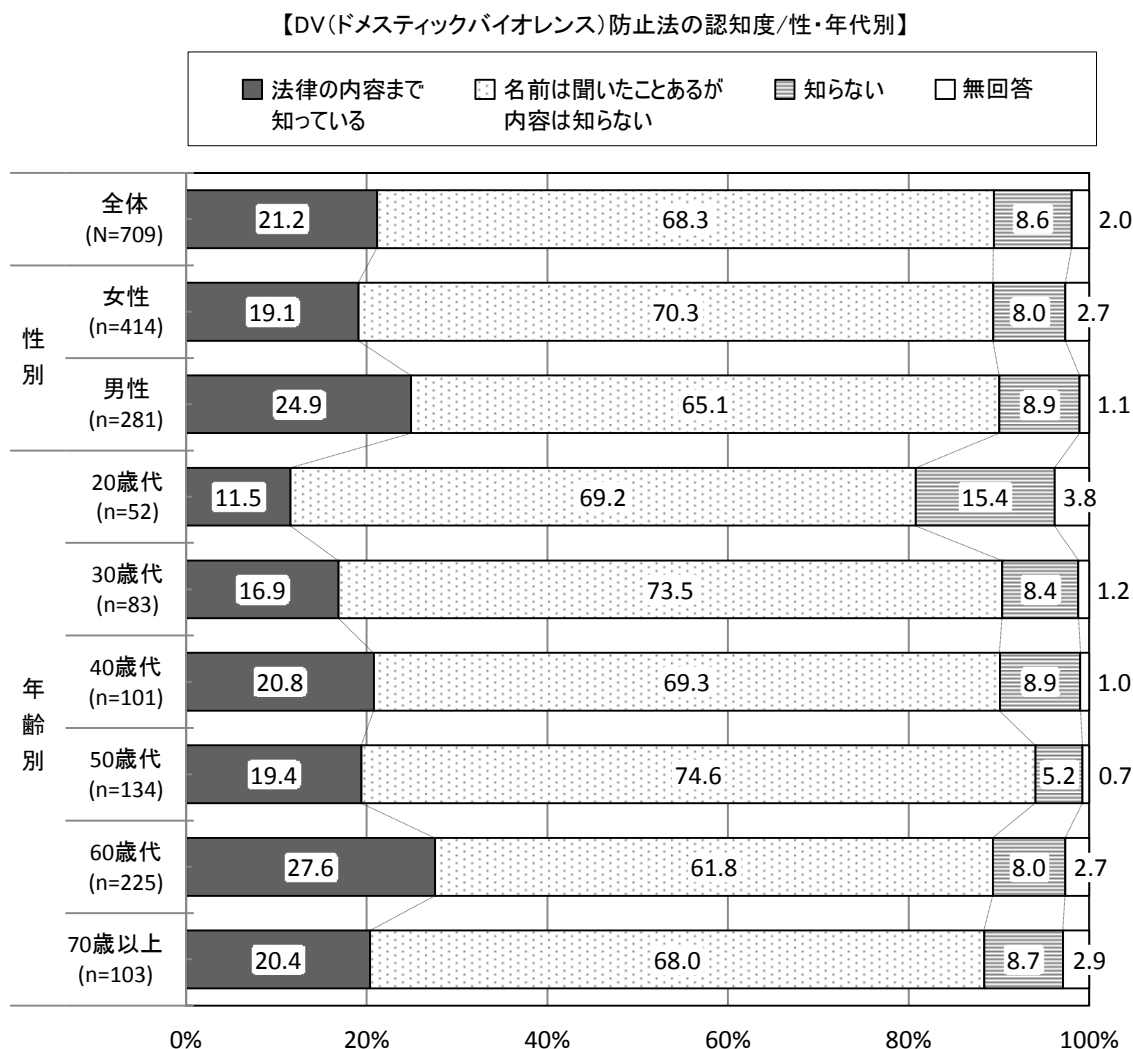
【エ. 個性に合った育て方をする/性・年代別】



- 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をするという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(38.4%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(35.3%)となっています。
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた73.7%の回答者が、個性に合った育て方をするという考え方に肯定的です。
- 男女別にみると、「そう思う」の割合は男性(31.3%)より女性(43.5%)の方が高くなっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるほど「そう思う」の割合が低くなっている傾向にあります。

9. 配偶者からの暴力について

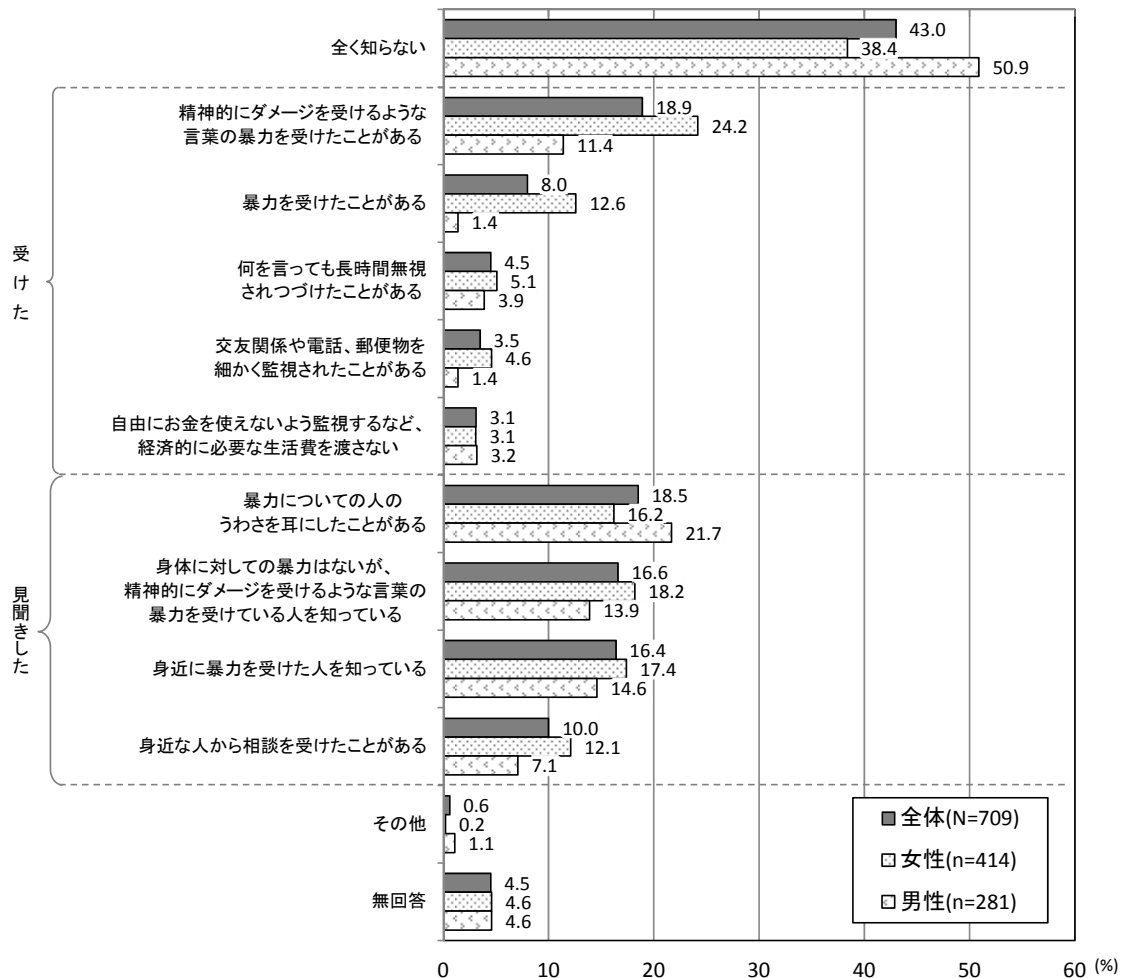
問 22 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(通称：DV(ドメスティックバイオレンス)防止法)が平成13(2001)年10月に施行されましたが、あなたはこの法律をどの程度ご存知ですか。(単数回答)



- 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称：DV(ドメスティックバイオレンス)防止法)についてたずねたところ、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」(68.3%)の割合が最も高く、次いで「法律の内容まで知っている」(21.2%)となっています。
- 男女別にみると、「法律の内容まで知っている」の割合は女性(19.1%)より男性(24.9%)の方が高くなっています。
- 年代別にみると、「法律の内容まで知っている」の割合は「20歳代」(11.5%)が最も低くなっています。

問 23 あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）から、身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。（複数回答）

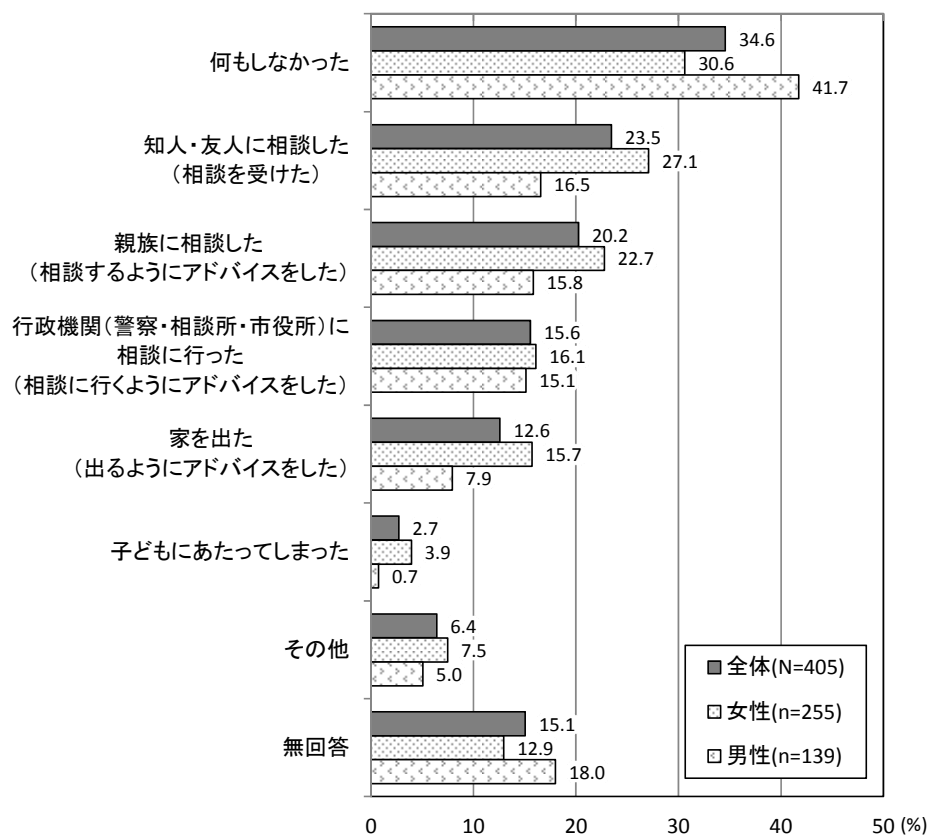
【DVを受けた又は、見聞きしたこと/性別】



- これまでに恋人や配偶者から、DVを受けたことや、身近で見聞きしたことについてたずねたところ、「全く知らない」（43.0%）の割合が最も高くなっています。
- DVを受けたことのある内容としては、「精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けたことがある」（18.9%）の割合が最も高くなっています。次いで「暴力を受けたことがある」（8.0%）、「何を言っても長時間無視され続けたことがある」（4.5%）と続いています。暴力を受けた項目の多くで女性の回答が上回っており、恋人や配偶者からの暴力は女性の被害が圧倒的に多いことが分かります。
- DVを見聞きしたことのある内容としては、「暴力についての人のうわさを耳にしたことがある」（18.5%）の割合が最も高く、次いで「身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている」（16.6%）、「身近に暴力を受けた人を知っている」（16.4%）と続いています。
- 男女別にみると、「精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けたことがある」は女性24.2%であるのに対し男性11.4%、「暴力を受けたことがある」は女性12.6%であるのに対し男性1.4%となっており、男性に比べ女性の割合が極端に高いことが分かります。

問 24 (問 23. DV を受けた又は見聞きした回答者のみ)
あなたは次のうちどのような行動をとりましたか。(複数回答)

【DV を受けた又は、見聞きしてとった行動/性別】

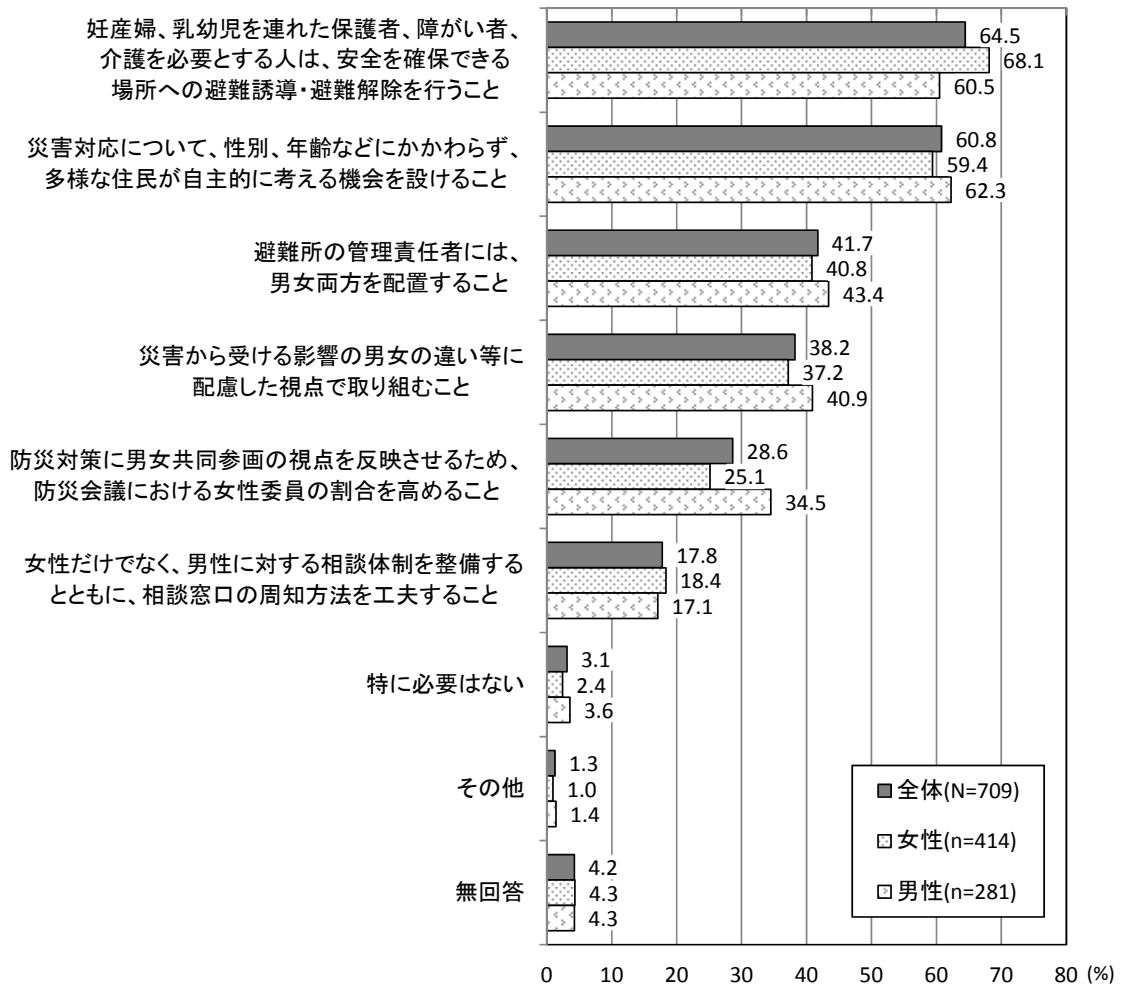


- DV を受けた又は見聞きしたときにどのような行動をとったかたずねたところ、「何もしなかった」(34.6%)の割合が最も高くなっています。
- 行動をとった内容としては、「知人・友人に相談した(相談を受けた)」(23.5%)の割合が最も高くなっています。次いで「親族に相談した(相談するようにアドバイスをした)」(20.2%)、「行政機関(警察・相談所・市役所)に相談に行った(相談に行くようにアドバイスをした)」(15.6%)、「家を出た(出るようにアドバイスをした)」(12.6%)と続いています。
- 男女別にみると、女性に比べて男性の方が「何もしなかった」という割合が高くなっています。また、知人・友人や親族に相談をするなどの行動をとった人については、女性に比べ男性の方が少ない割合となっています。

10. 防災の分野における男女共同参画について

問 25 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、防災の分野における男女共同参画の推進がありますが、どのようなことが必要と考えられますか。(複数回答)

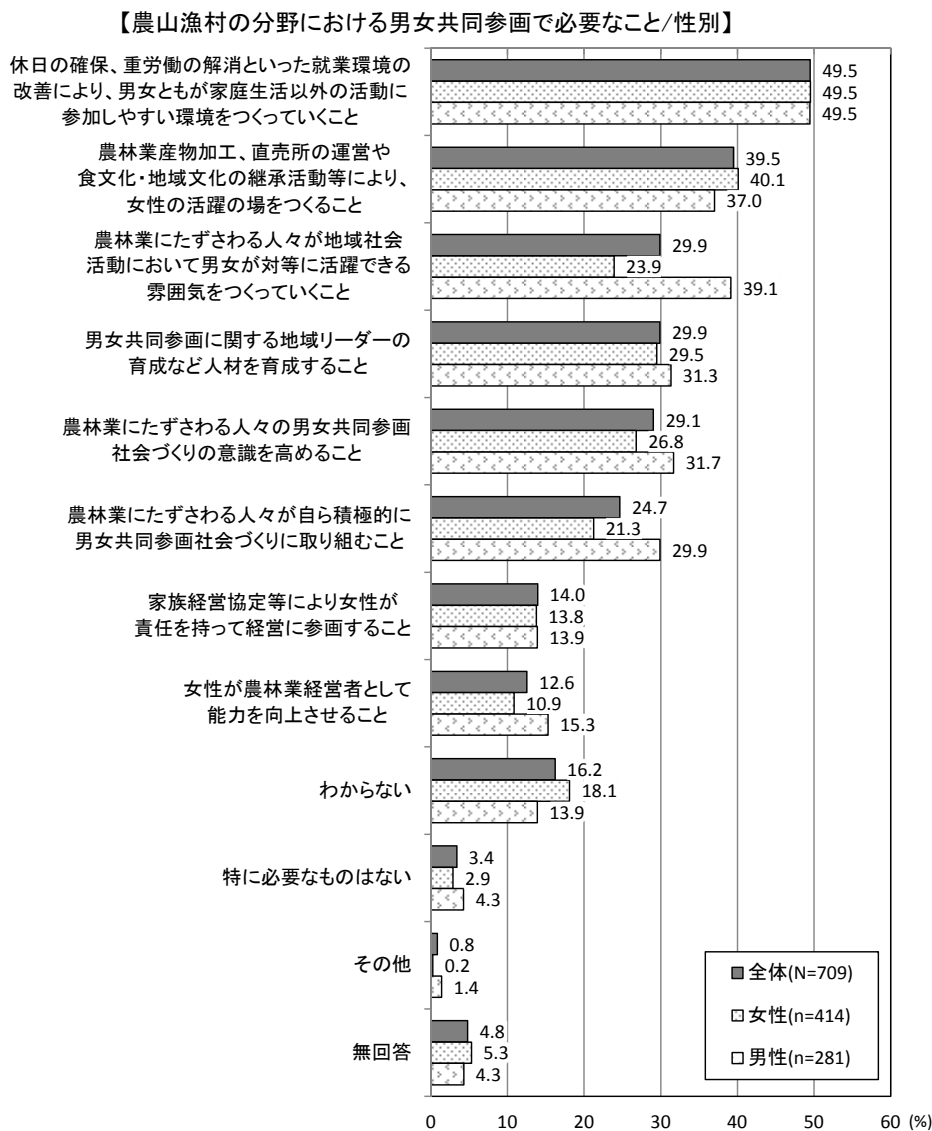
【防災の分野における男女共同参画で必要なこと/性別】



- 防災の分野における男女共同参画で必要なことについてたずねたところ、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、介護を必要とする人は、安全を確保できる場所への避難誘導・避難解除を行うこと」(64.5%)の割合が最も高くなっています。次いで「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」(60.8%)、「避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること」(41.7%)と続いています。
- 男女別にみると、「防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること」の回答が女性に比べて男性の割合が高く、女性の積極的な防災への取組を望んでいることがうかがえます。

11. 農山漁村の分野における男女共同参画について

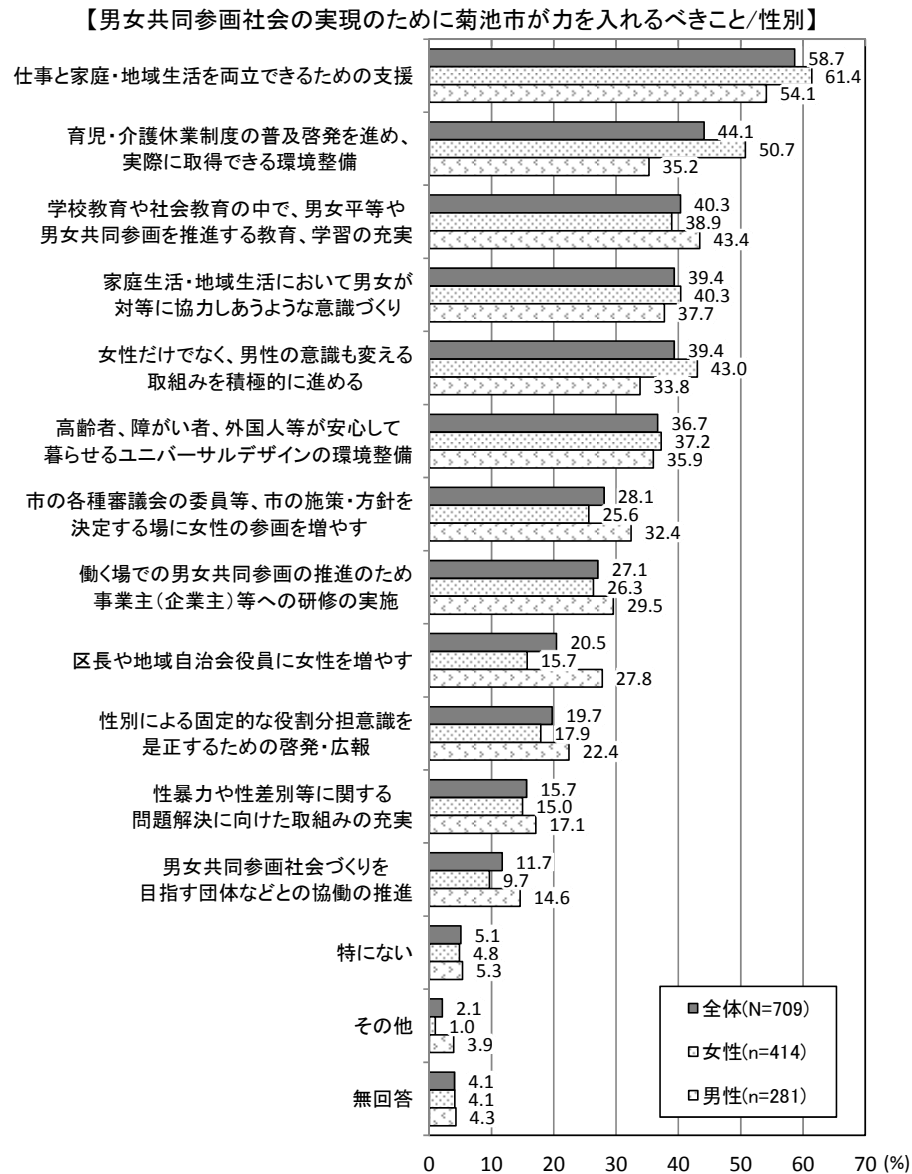
問26 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、活力ある農山漁村の実現に向けた男女共同参画の推進を進めています。そのために必要なことは何だと思えますか。(複数回答)



- 農山漁村の分野における男女共同参画に必要なことについてたずねたところ、「休日の確保、重労働の解消といった就業環境の改善により、男女ともが家庭生活以外の活動に参加しやすい環境をつくっていくこと」(49.5%)の割合が最も高く、次いで「農林業産物加工、直売所の運営や食文化・地域文化の継承活動等により、女性の活躍の場をつくること」(39.5%)となっています。
- 男女別にみると、特に「農林業にたずさわる人々が地域社会活動において男女が対等に活躍できる雰囲気をつくっていくこと」「農林業にたずさわる人々が自ら積極的に男女共同参画社会づくりに取り組むこと」の回答に男性の割合が高くみられ、農山漁村の分野で男女が対等に活躍できていないと捉えている男性が多いことがうかがえます。また、女性の積極的な意見が少ないことから、農山漁村の分野に女性自身の関わりが薄いこともうかがえます。

12. 男女共同参画社会の推進について

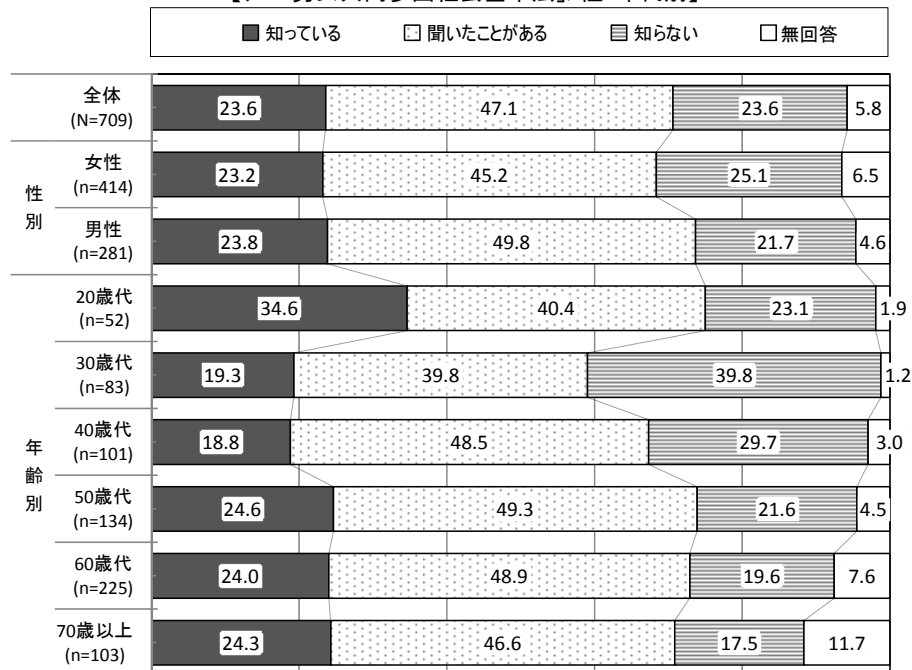
問 27 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)



- 男女共同参画社会の実現のために菊池市が力を入れるべきことについてたずねたところ、「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(58.7%)の割合が最も高くなっています。次いで「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」(44.1%)、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実」(40.3%)と続いています。
- 回答の男女差をみると、女性は「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」の意見が、男性は「区長や地域自治会役員に女性を増やす」の意見が多く回答しており男女の開きがみられます。

問 28 あなたは、以下の言葉についてご存知でしたか。(単数回答)
ア.「男女共同参画社会基本法」

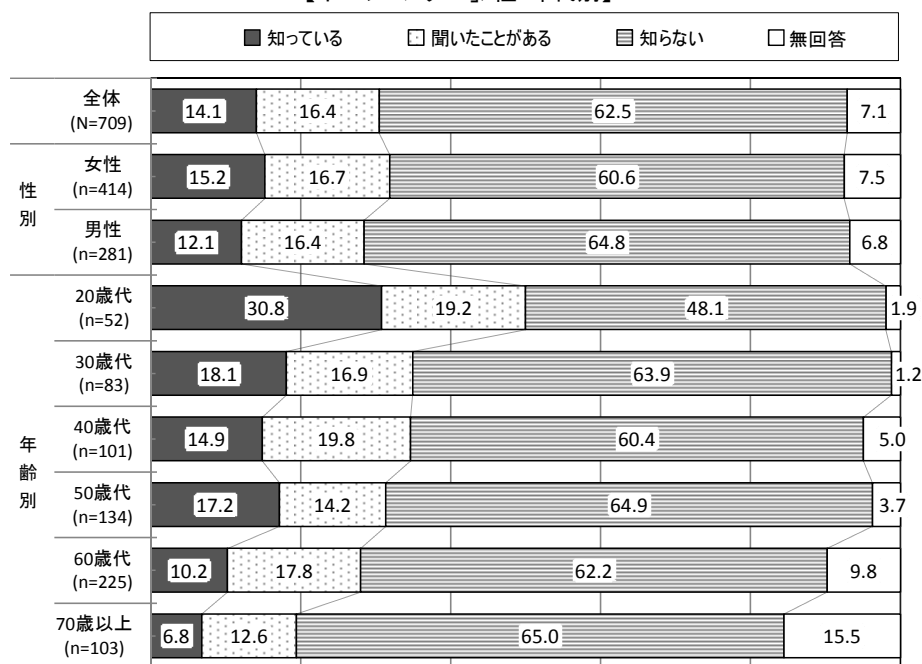
【ア.「男女共同参画社会基本法」/性・年代別】



- 「男女共同参画社会基本法」については、「聞いたことがある」(47.1%)の割合が最も高く、次いで「知っている」が23.6%となっており、言葉の認知度は高いことが分かります。
- 年代別にみると、他の年齢階層と比べて「20歳代」の認知度が高くなっています。

イ.「ジェンダー」

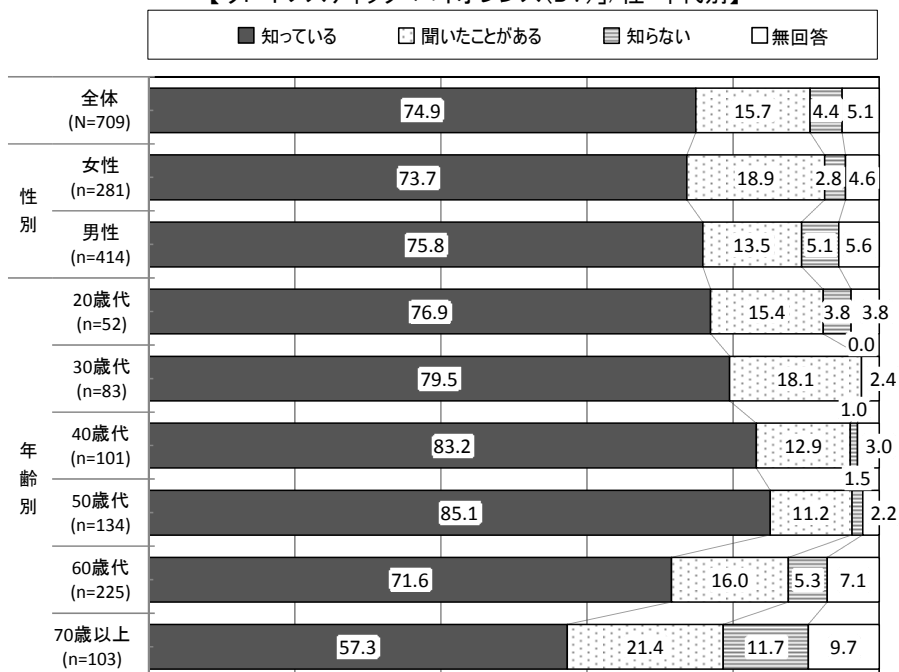
【イ.「ジェンダー」/性・年代別】



- 「ジェンダー」については、「知らない」が62.5%を占めています。次いで「聞いたことがある」(16.4%)、「知っている」(14.1%)となっています。

ウ. 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」

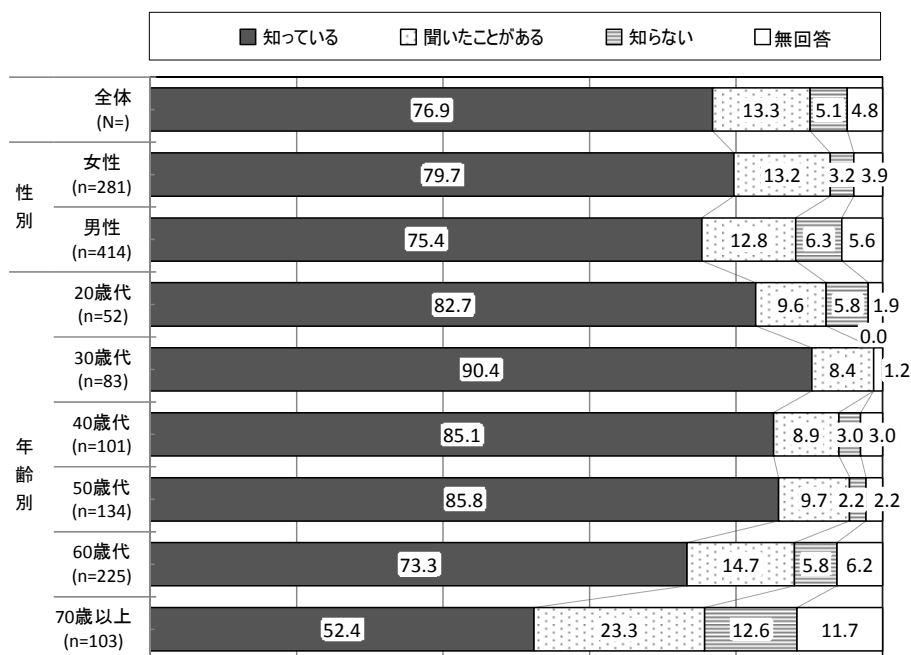
【ウ. 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」/性・年代別】



- 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」については、「知っている」が74.9%を占めています。次いで「聞いたことがある」が15.7%となっており、言葉の意味も含めて認知度は高いことが分かります。
- 年代別にみると、60歳以上の年齢階層において「知っている」の割合が低くなっています。

エ. 「セクシュアル・ハラスメント」

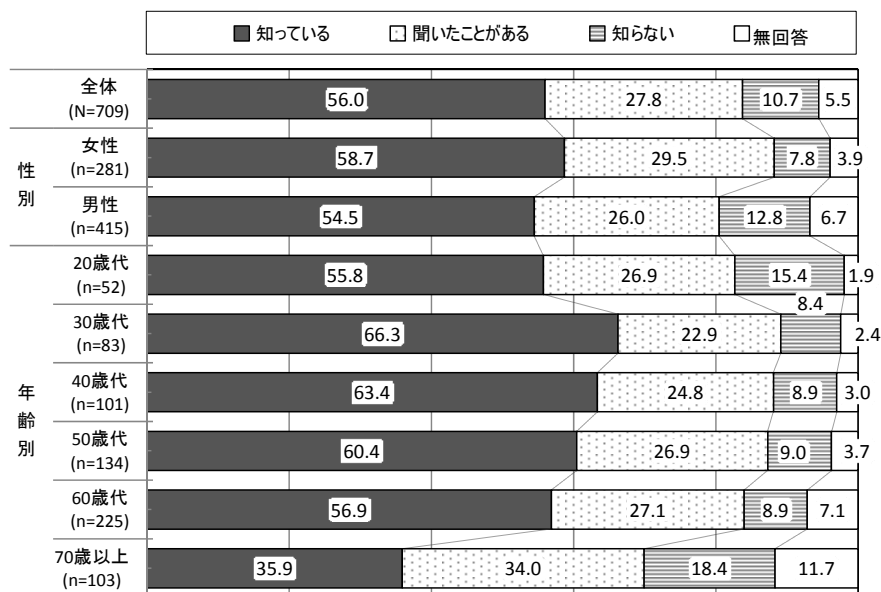
【エ. 「セクシュアル・ハラスメント」/性・年代別】



- 「セクシュアル・ハラスメント」については、「知っている」が76.9%を占めています。次いで「聞いたことがある」が13.3%となっており、言葉の意味も含めて認知度は高いことが分かります。
- 年代別にみると、60歳以上の年齢階層において「知っている」の割合が低くなっています。

オ。「男女雇用機会均等法」

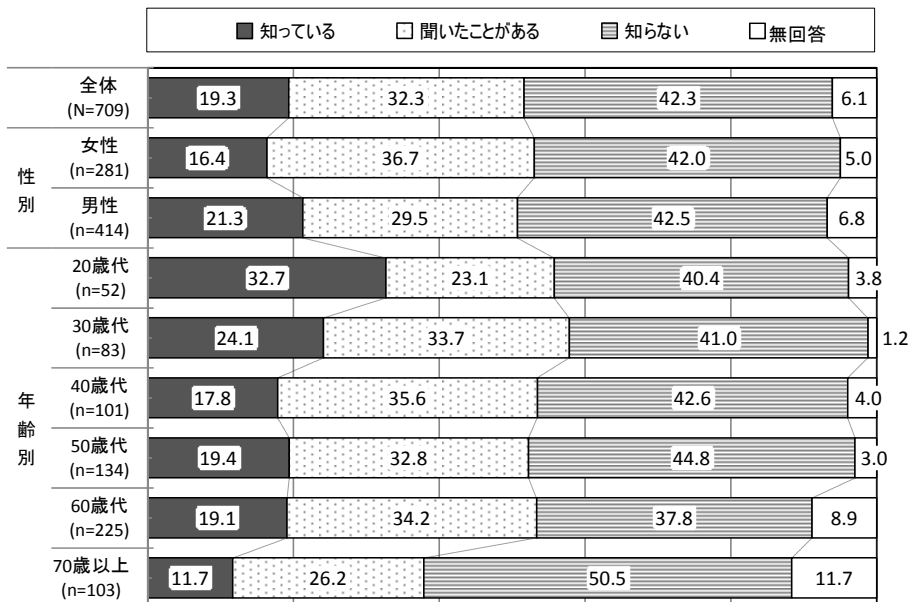
【オ.「男女雇用機会均等法」/性・年代別】



- 「男女雇用機会均等法」については、「知っている」(56.0%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことがある」が27.8%となっています。言葉の意味も含めて認知度は高いことが分かります。
- 年代別にみると、他の年齢階層と比べて「70歳以上」の「知っている」の割合が極端に低くなっています。

カ。「ワーク・ライフ・バランス」

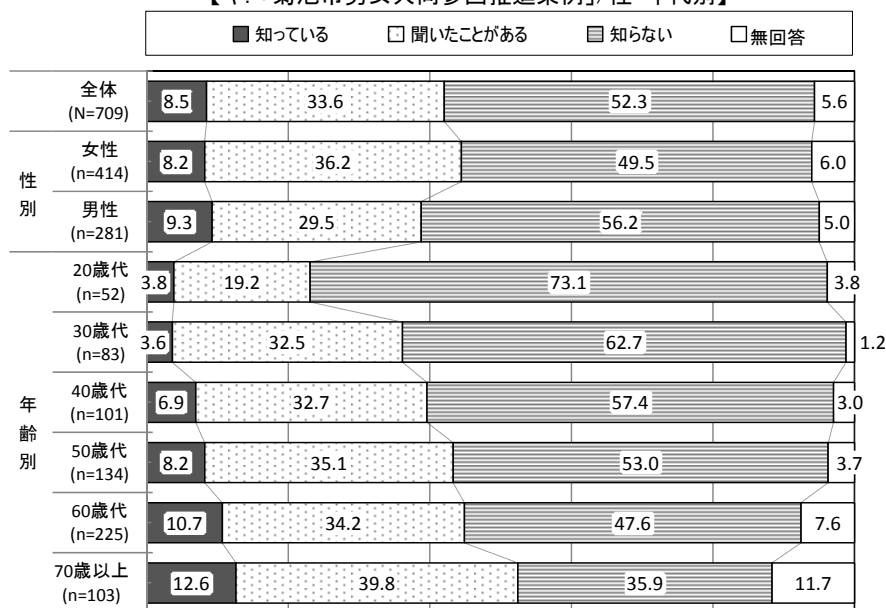
【カ. ワーク・ライフ・バランス/性・年代別】



- ワーク・ライフ・バランスについては、「知らない」(42.3%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことがある」(32.3%)、「知っている」(19.3%)となっています。

キ.「菊池市男女共同参画推進条例」

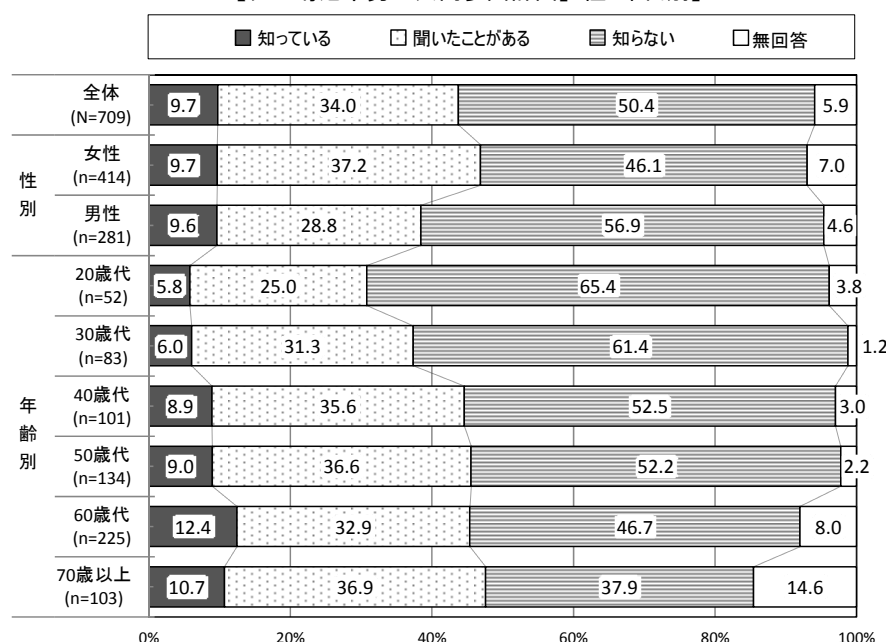
【キ.「菊池市男女共同参画推進条例」/性・年代別】



- 「菊池市男女共同参画推進条例」については、「知らない」(52.3%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことがある」(33.6%)、「知っている」(8.5%)となっています。
- 前回調査では「知っている」「聞いたことがある」を合わせた回答が全体の38.8%であったのに対し、今回調査では42.1%となっており認知度が3.3%上がっています。

ク.「菊池市男女共同参画計画」

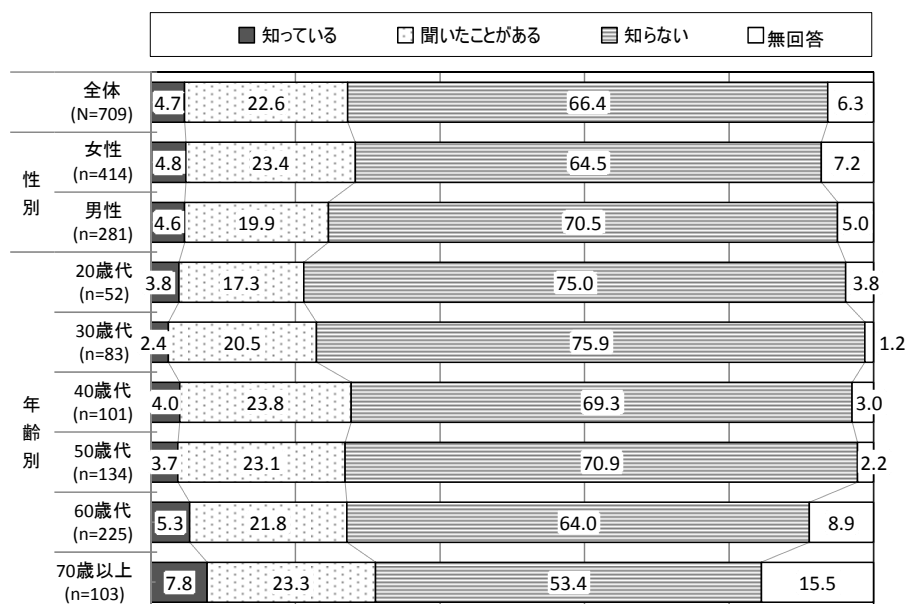
【ク.「菊池市男女共同参画計画」/性・年代別】



- 「菊池市男女共同参画計画」については、「知らない」(50.4%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことがある」(34.0%)、「知っている」(9.7%)となっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従い「知っている」の割合がやや高くなっている傾向にあります。

ケ. 「男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）」

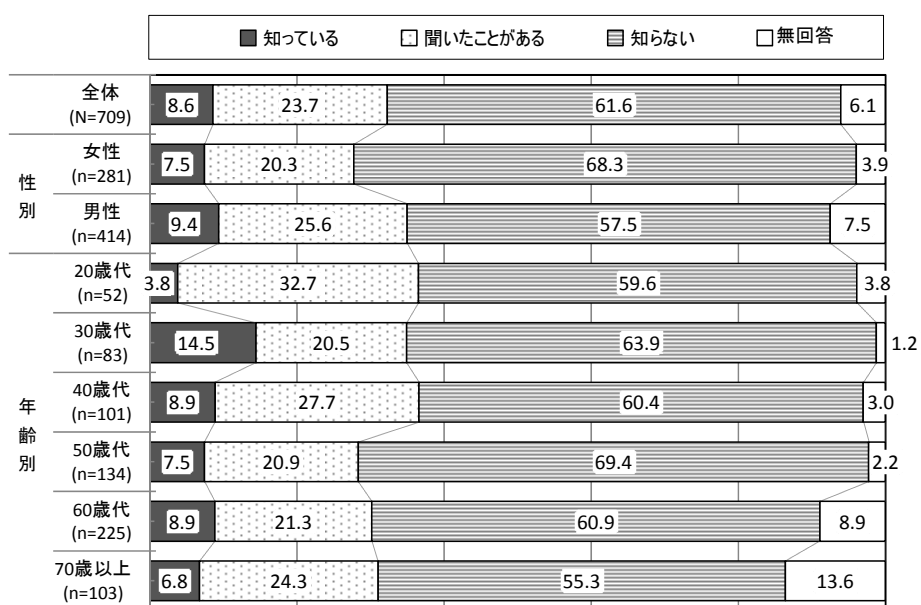
【ケ. 「男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）」/性・年代別】



- 「男女共同参画専門委員相談」については、「知らない」が 66.4%を占めています。次いで「聞いたことがある」(22.6%)、「知っている」(4.7%)となっています。

コ. 「女性相談員（菊池市設置）」

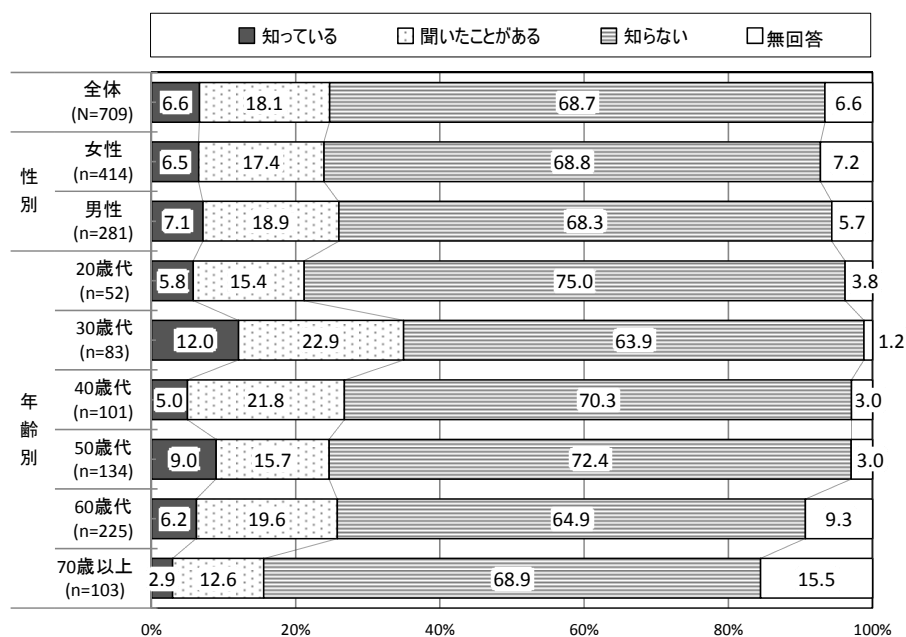
【コ. 「女性相談員（菊池市設置）」/性・年代別】



- 「女性相談員」については、「知らない」が 61.6%を占めています。次いで「聞いたことがある」(23.7%)、「知っている」(8.6%)となっています。

サ.「ポジティブ・アクション」

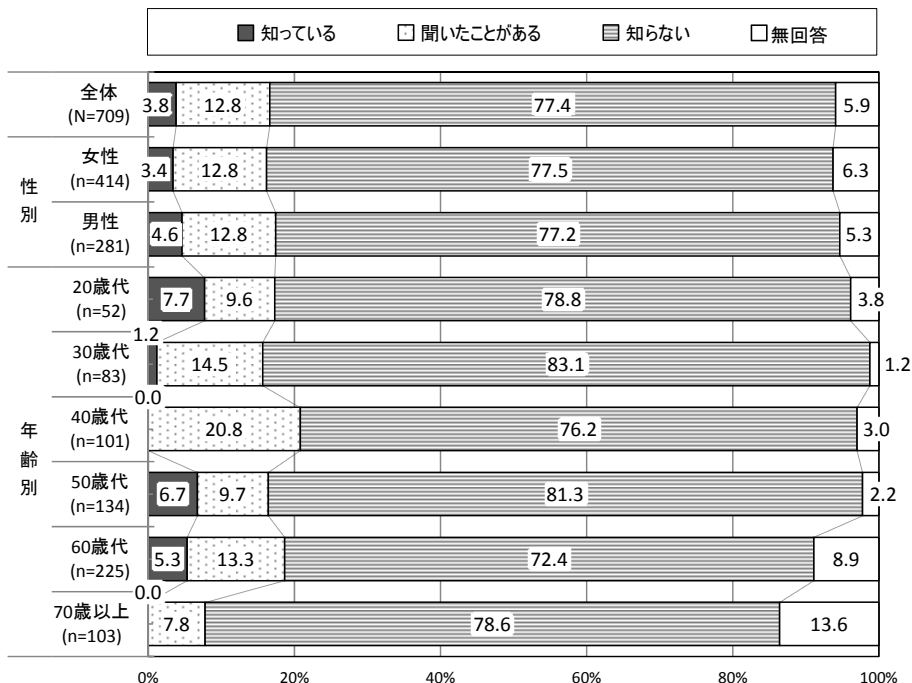
【サ.「ポジティブ・アクション」/性・年代別】



- 「ポジティブ・アクション」については、「知らない」が 68.7%を占めています。次いで「聞いたことがある」(18.1%)、「知っている」(6.6%)となっています。
- 年代別にみると、「知っている」「聞いたことがある」の割合が「20歳代」と「70歳以上」で低いことが分かります。

シ.「M字カーブ」

【シ.「M字カーブ」/性・年代別】



「M字カーブ」については、「知らない」が 77.4%を占めています。次いで「聞いたことがある」(12.8%)、「知っている」(3.8%)となっています。

問 29. 自由意見

自由意見については、97名から104件の貴重な意見を頂きました。意見の区分は以下の通りです。

■意見内容による区分

	(件)	(%)
1. 子育て・教育・介護(家庭生活)について	22	21.2
2. この意識調査について	18	17.3
3. 菊池市(行政)に対して	15	14.4
4. 男女平等について	14	13.5
5. 男女共同参画の推進について	12	11.5
6. 人々の意識に関すること	10	9.6
7. 女性の社会参画(働くこと)について	4	3.8
8. その他	9	8.7
	104	100.0

■意見回答者の性・年代

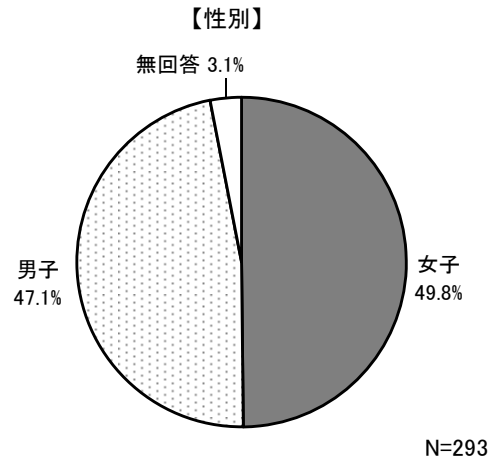
	女 性		男 性		不 明	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
20歳代	3	4.6	2	5.3	0	0.0
30歳代	7	10.8	8	21.1	0	0.0
40歳代	15	23.1	6	15.8	0	0.0
50歳代	12	18.5	8	21.1	0	0.0
60歳代	22	33.8	10	26.3	1	100.0
70歳代	6	9.2	4	10.5	0	0.0
計	65	100.0	38	100.0	1	100.0

IV. 中学生に対する調査結果

1. 回答者の基本属性等

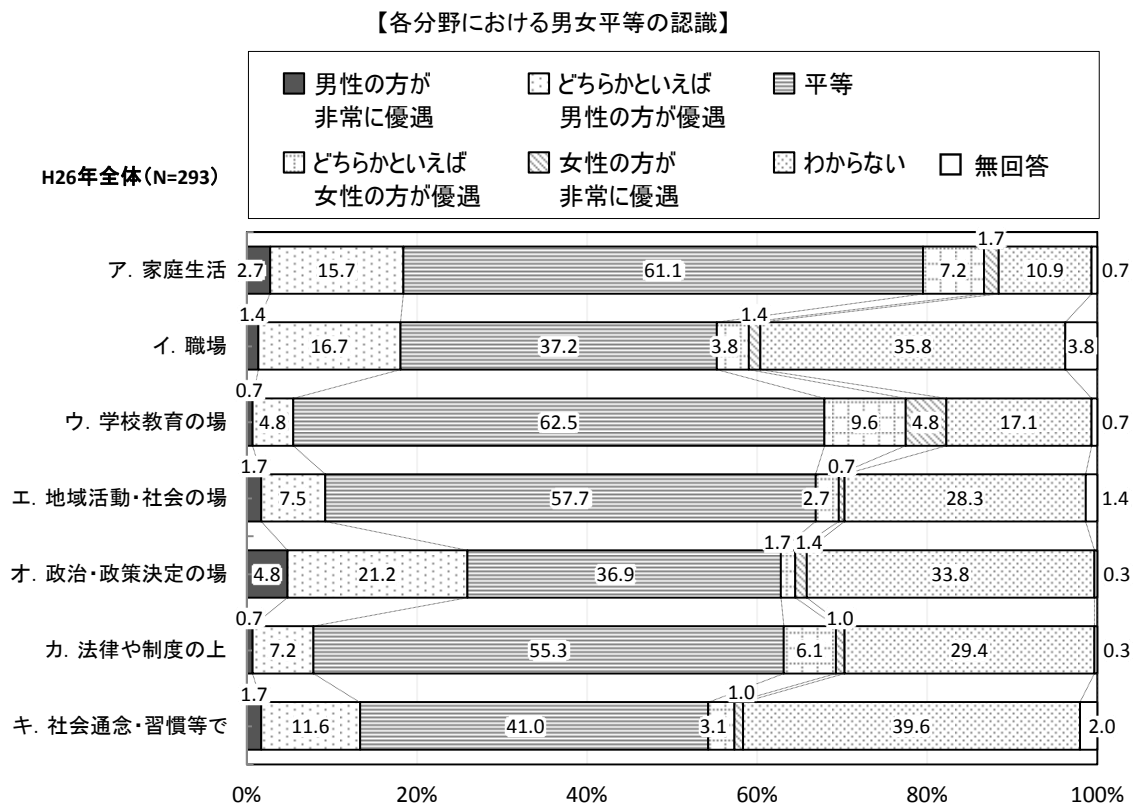
問1. あなたの性別を教えてください。(単数回答)

- 性別についてたずねたところ、「女子」が49.8%、「男子」が47.1%となっています。

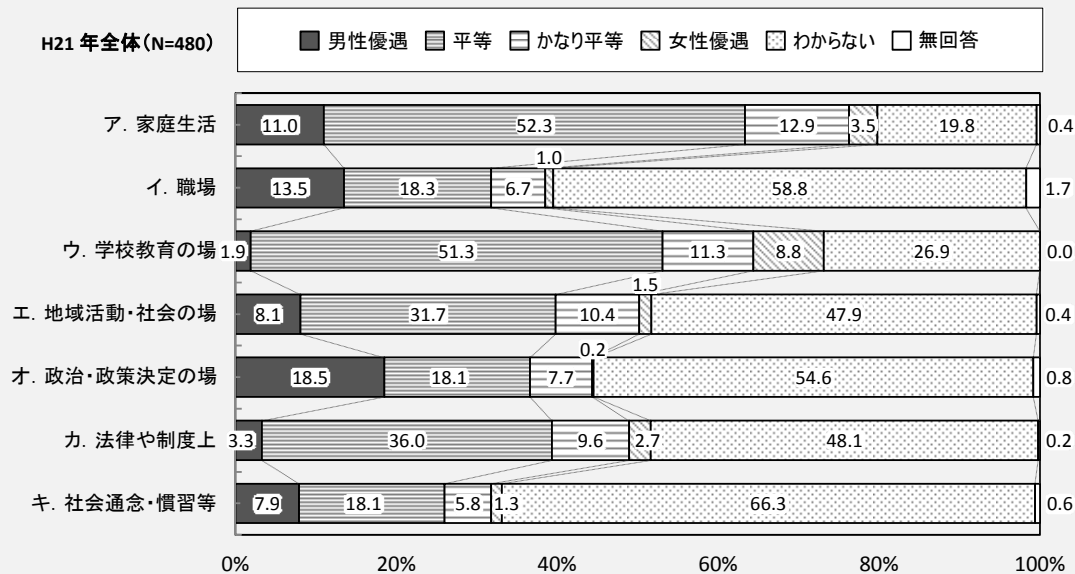


2. 男女平等に関する考え方について

問2. 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。(単数回答)



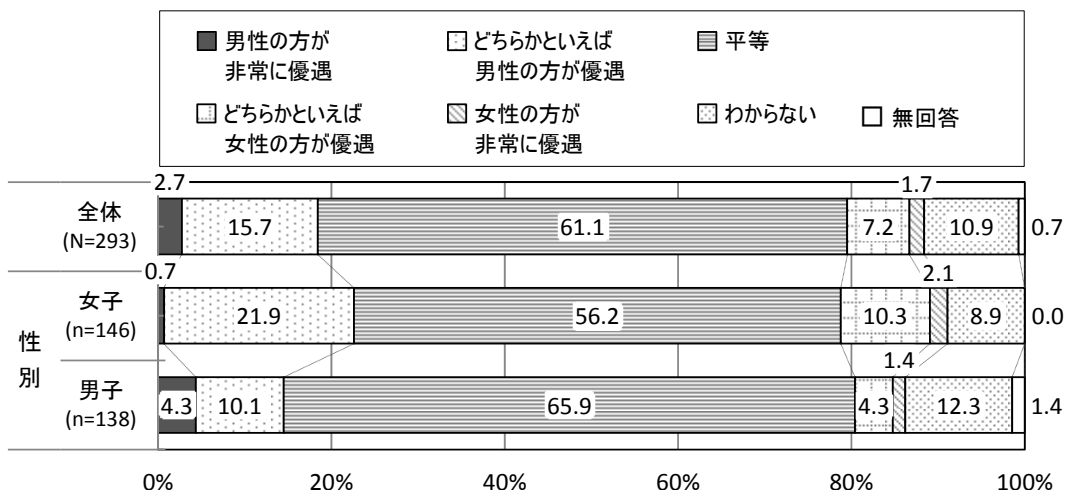
【各分野における男女平等の認識 (H21年調査)】



- 選択肢が異なるため単純な比較はできないものの、前回調査と比較すると、「職場」「地域活動・社会の場」「政治・政策決定の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習等」の項目で、「平等」と感じている割合が上がっています。
- 一般市民と中学生を比較すると、「平等」について「家庭生活」（一般市民 36.2%、中学生 61.1%）、「職場」（一般市民 30.6%、中学生 37.2%）、「学校教育の場」（一般市民 55.1%、中学生 62.5%）、「地域活動・社会の場」（一般市民 27.6%、中学生 57.7%）、「政治・政策決定の場」（一般市民 14.4%、中学生 36.9%）、「法律や制度の上」（一般市民 40.3%、中学生 55.3%）、「社会通念・慣習等」（一般市民 14.2%、中学生 41.0%）となっており、全ての項目において中学生の方が平等と捉えている認識が強いことが分かります。

ア. 家庭生活では

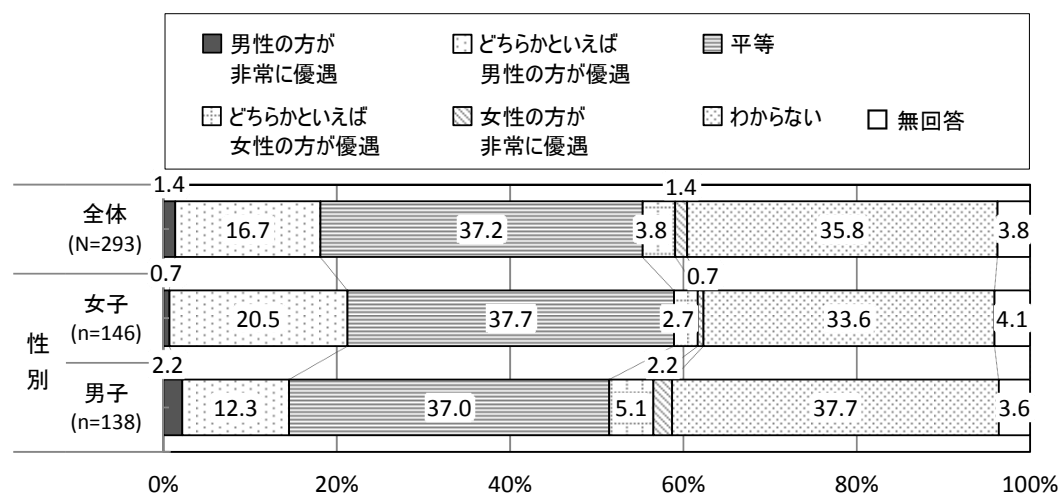
【ア. 家庭生活での男女平等の認識/性別】



- 家庭生活上で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(61.1%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇」(15.7%)、「わからない」(10.9%)となっています。
- 男女別にみると、男子に比べて女子の方が“男性優遇”（「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が非常に優遇」を合わせた回答）と感じている人の割合が高いことが分かります。

イ. 職場では

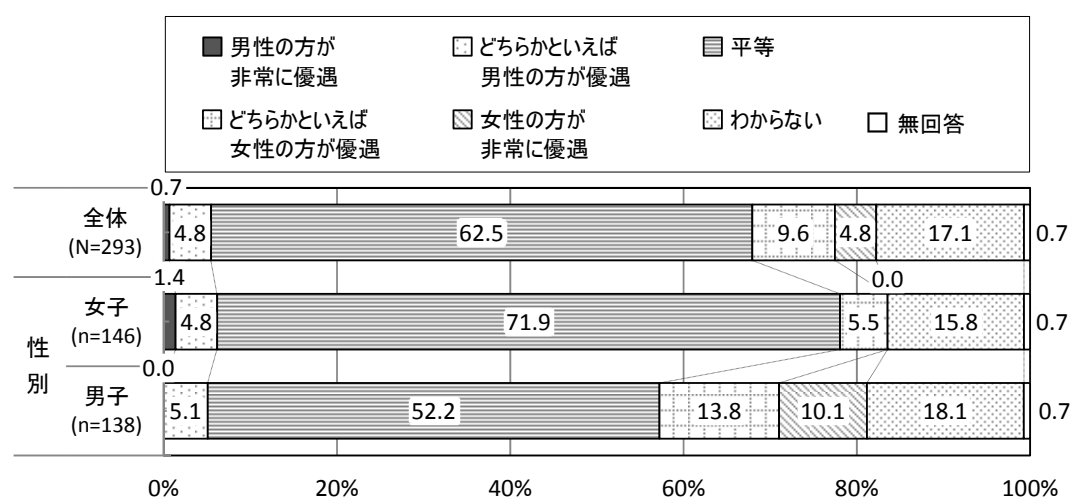
【イ. 職場での男女平等の認識/性別】



- 職場で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(37.2%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(35.8%)、「どちらかといえば男性の方が優遇」(16.7%)となっています。
- 男女別にみると、男子に比べて女子の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高いことがわかります。

ウ. 学校教育の場では

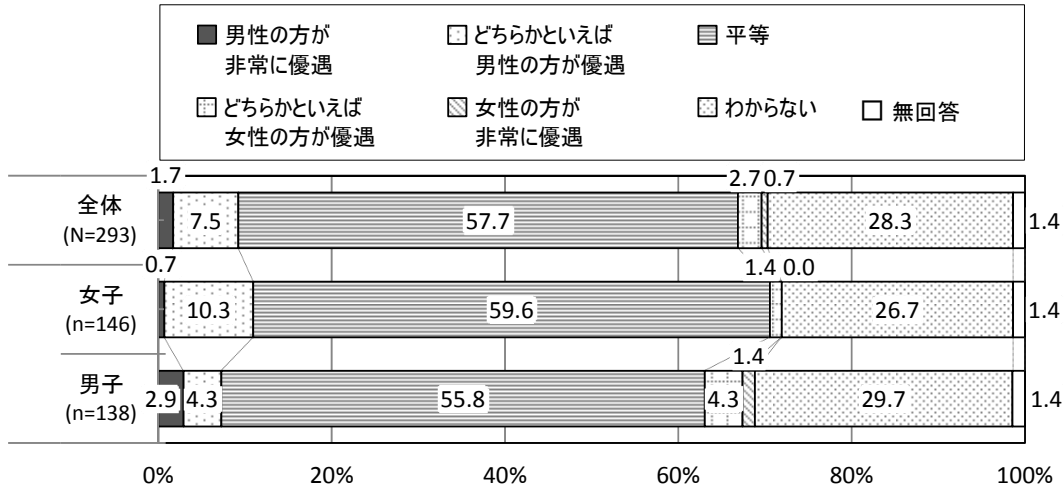
【ウ. 学校教育の場での男女平等の認識/性別】



- 学校教育の場で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」が62.5%を占めています。
- 男女別にみると、「平等」と考えている人の割合が男子(52.2%)に比べて女子(71.9%)の方が高いことがわかります。

エ. 地域活動・社会の場では

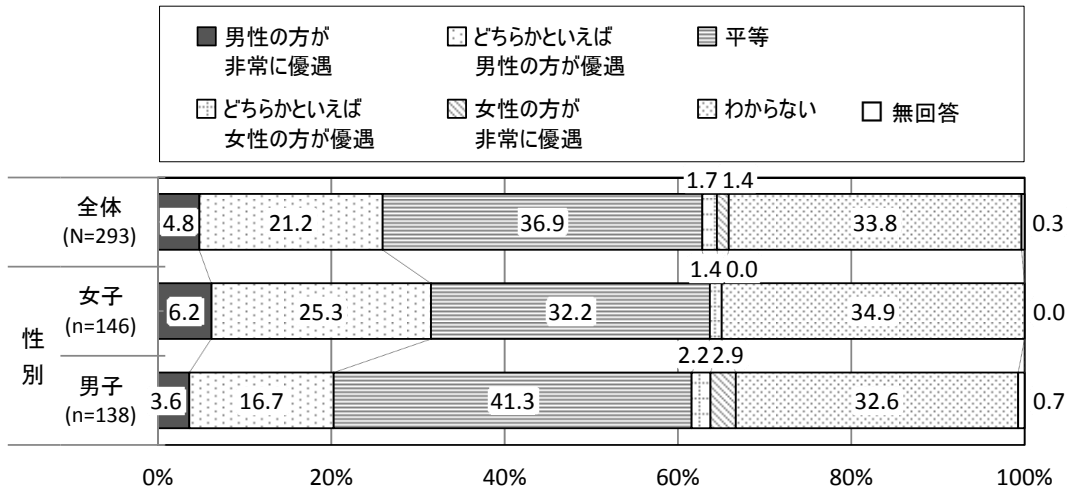
【エ. 地域活動・社会の場での男女平等の認識/性別】



●地域活動・社会の場で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」が 57.7%を占めています。次いで「わからない」(28.3%)「どちらかといえば男性の方が優遇」(7.5%)となっています。

オ. 政治・政策決定の場では

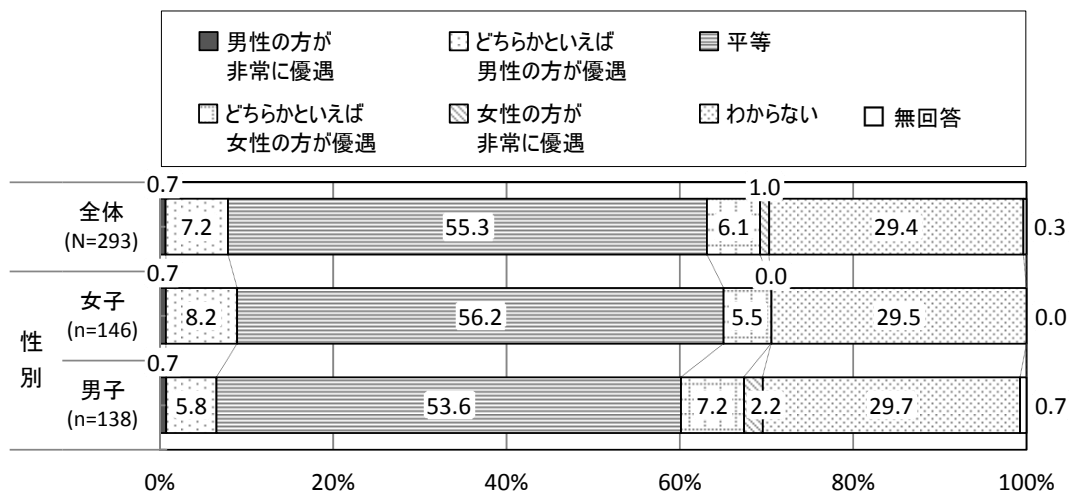
【オ. 政治・政策決定の場での男女平等の認識/性別】



●政治・政策決定の場で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(36.9%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(33.8%)、「どちらかといえば男性の方が優遇」(21.2%)となっています。

カ. 法律や制度の上では

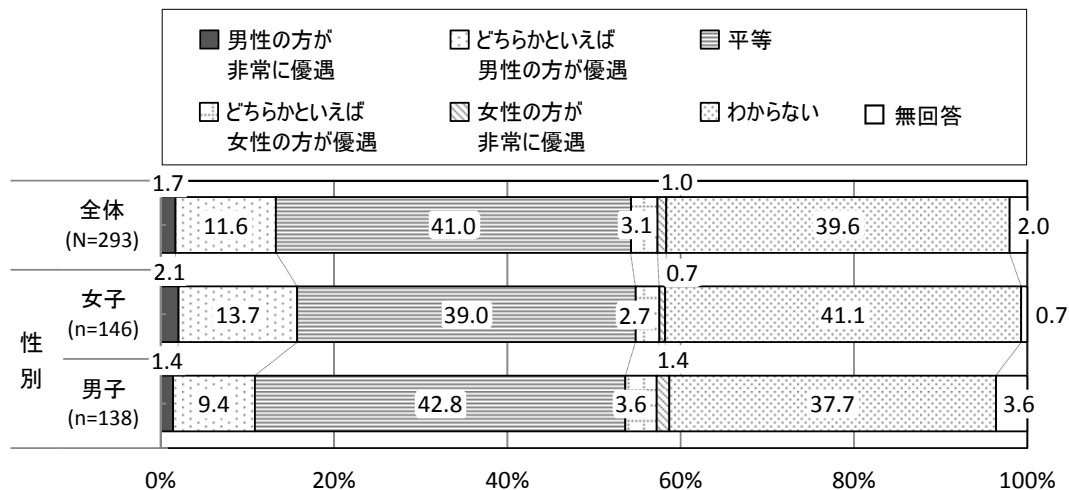
【カ. 法律や制度の上での男女平等の認識/性別】



- 法律や制度の上で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」が 55.3%を占めています。次いで「わからない」(29.4%)、「どちらかといえば男性の方が優遇」(7.2%)となっています。

キ. 社会通念・慣習等で

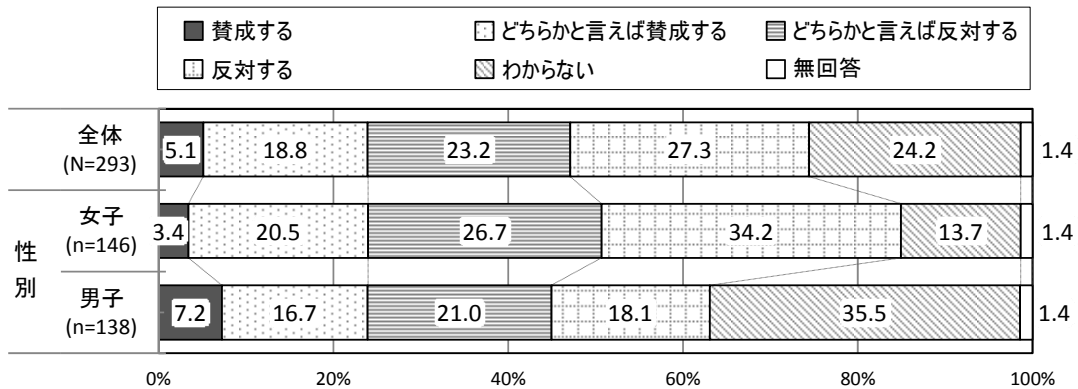
【キ. 社会通念・慣習等での男女平等の認識/性別】



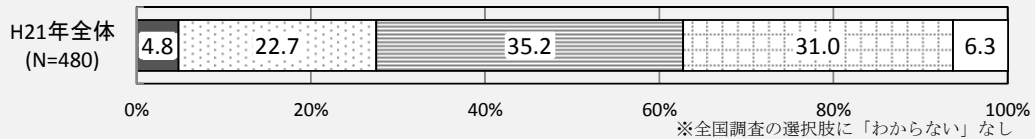
- 社会通念・慣習等で男女平等になっているかたずねたところ、「平等」(41.0%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(39.6%)、「どちらかといえば男性の方が優遇」(11.6%)となっています。

問3. 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてあなたはどのように思いますか。(単数回答)

【性別によって男女の役割を固定する考え方/性別】



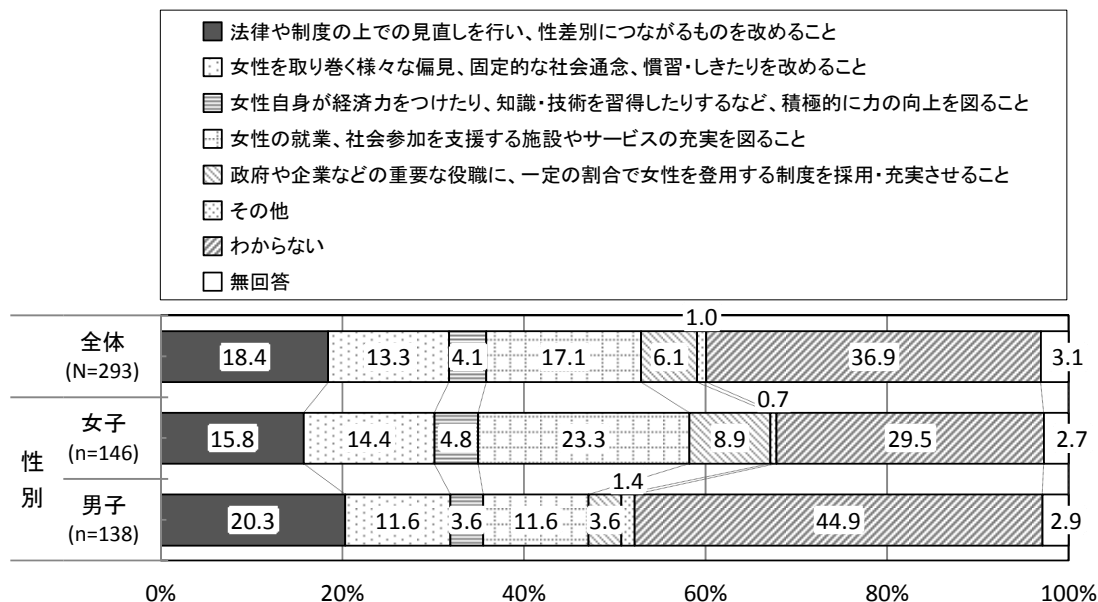
【性別によって男女の役割を固定する考え方 (H21年調査)】



- 性別によって男女の役割を固定する考え方についてたずねたところ、「反対する」(27.3%)の割合が最も高くなっています。
- 男女別にみると、固定的な考え方に“反対”(「どちらかと言えば反対する」「反対する」を合わせた回答、以下同じ。)と回答している人は、男子(39.1%)に比べて女子(60.9%)の方が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、“賛成”(「どちらかと言えば賛成する」「賛成する」を合わせた回答)はあまり変動はみられないものの、“反対”については15.7%の減少となっていることから、性別による役割分担意識は減少の傾向にあります。

問4. 男女があらゆる分野でより平等になるために、あなたが最も重要だと思うものは何ですか。(単数回答)

【男女が平等になるために重要なこと/性別】

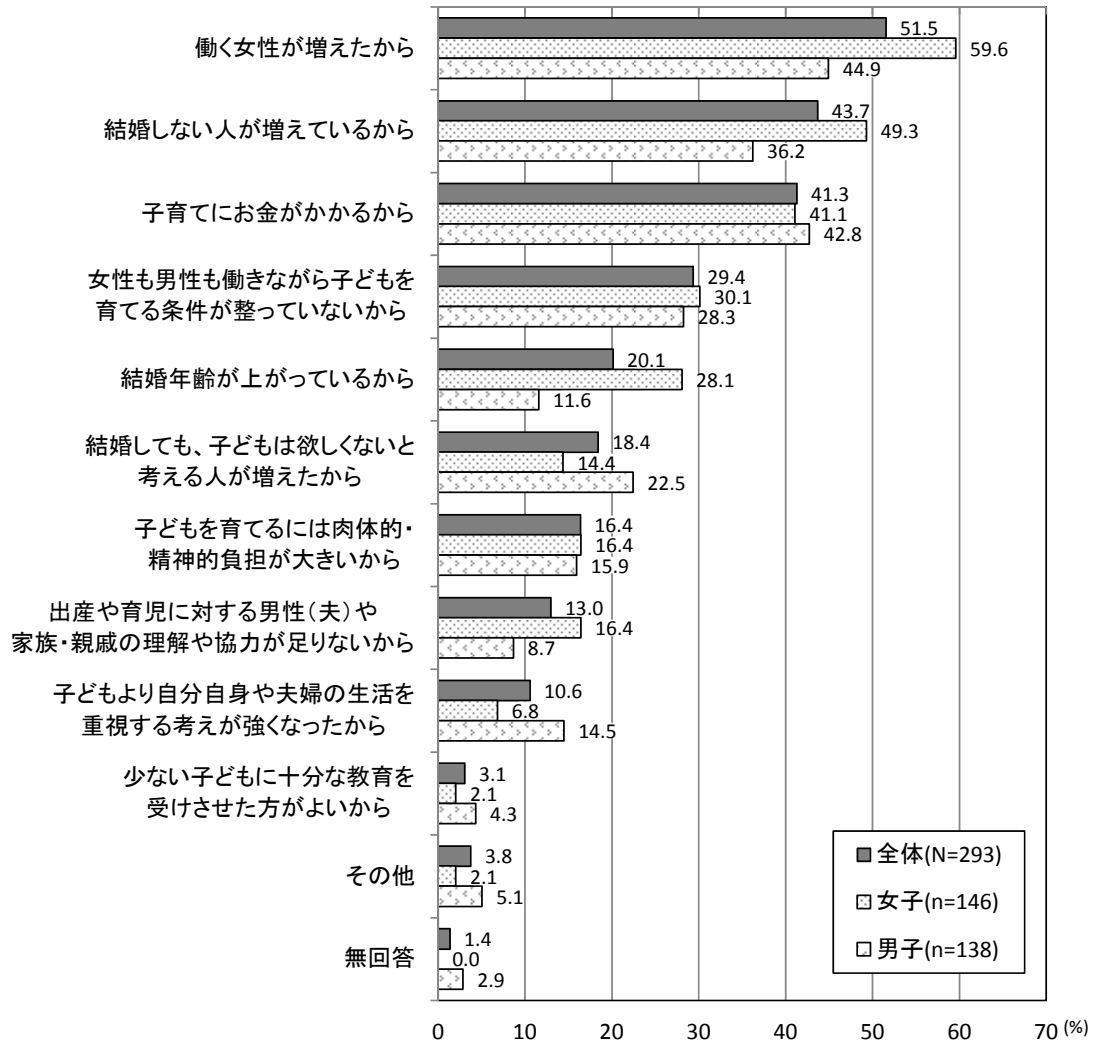


- 男女が平等になるために重要なことをたずねたところ、「わからない」(36.9%)の割合が最も高く、次いで「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」(18.4%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(17.1%)となっています。

3. 出生率低下について

問5. 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えますか。【〇は3つまで】（複数回答）

【出生率低下の原因/性別】



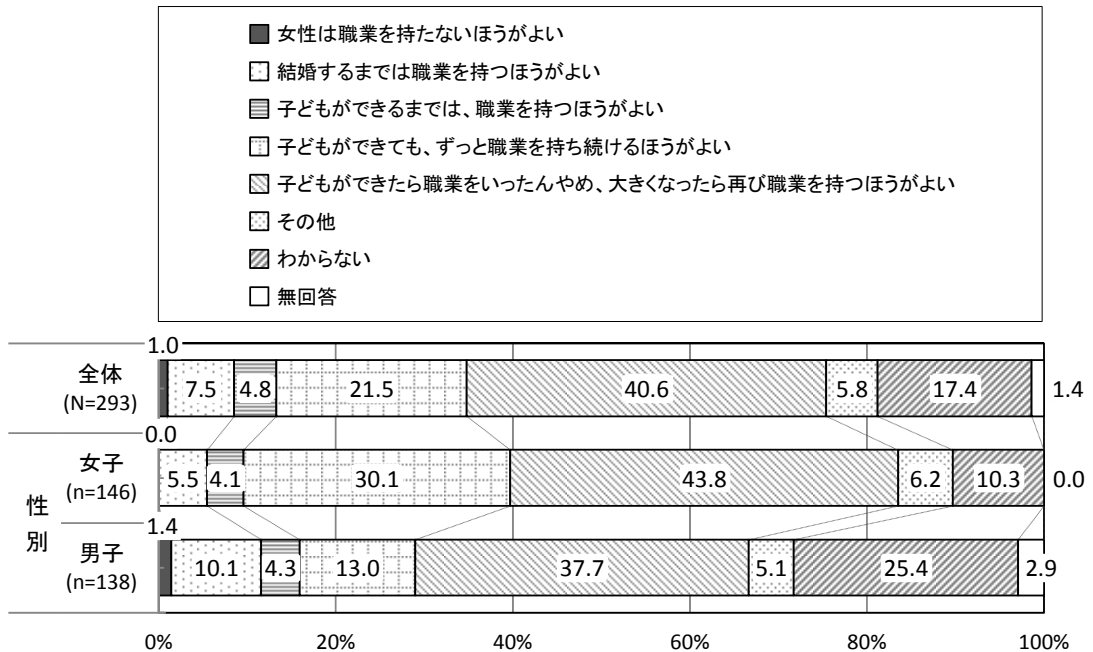
●出生率低下の要因についてたずねたところ、「働く女性が増えたから」（51.5％）の割合が最も高くなっています。次いで「結婚しない人が増えているから」（43.7％）、「子育てにお金がかかるから」（41.3％）と続いています。

●男女別にみると、出生率低下の原因として男女の回答にばらつきがみられます。

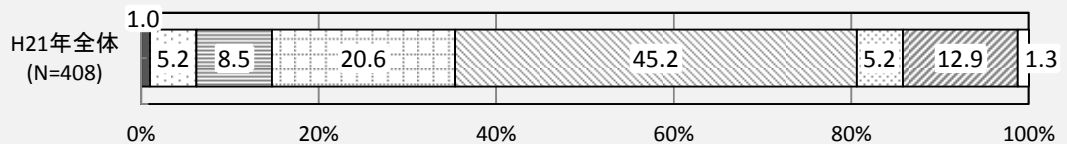
4. 女性が職業を持つことについて

問6. 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。
(単数回答)

【女性が職業を持つことについて/性別】



【女性が職業を持つことについて/性別 (H21年調査)】

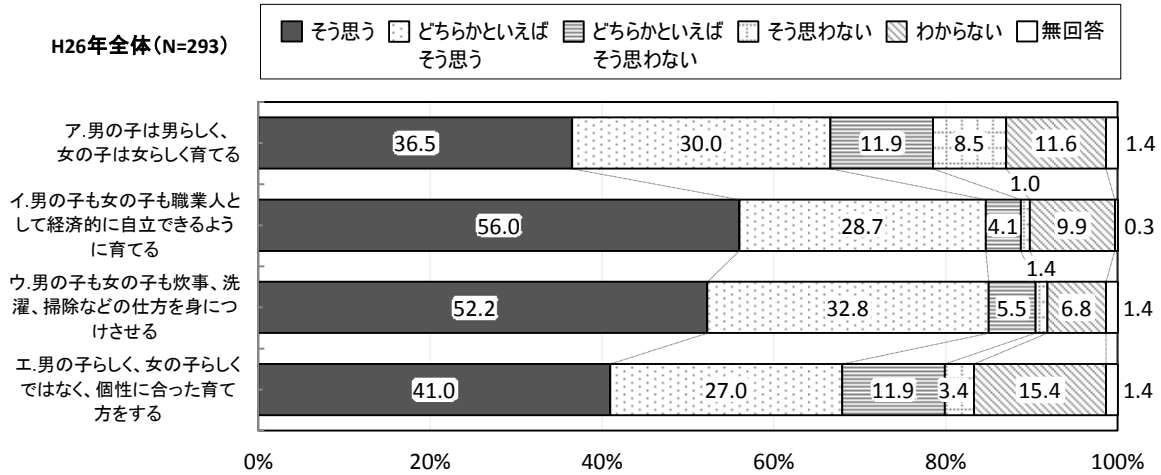


- 女性が職業を持つことについてたずねたところ、「子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(40.6%)の割合が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」(21.5%)、「わからない」(17.4%)となっています。
- 男女別にみると、女子は「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が30.1%であるのに対し、男子は13.0%と男女の考えに開きがみられます。
- 前回調査と比較すると、「子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が4.6%減少しています。

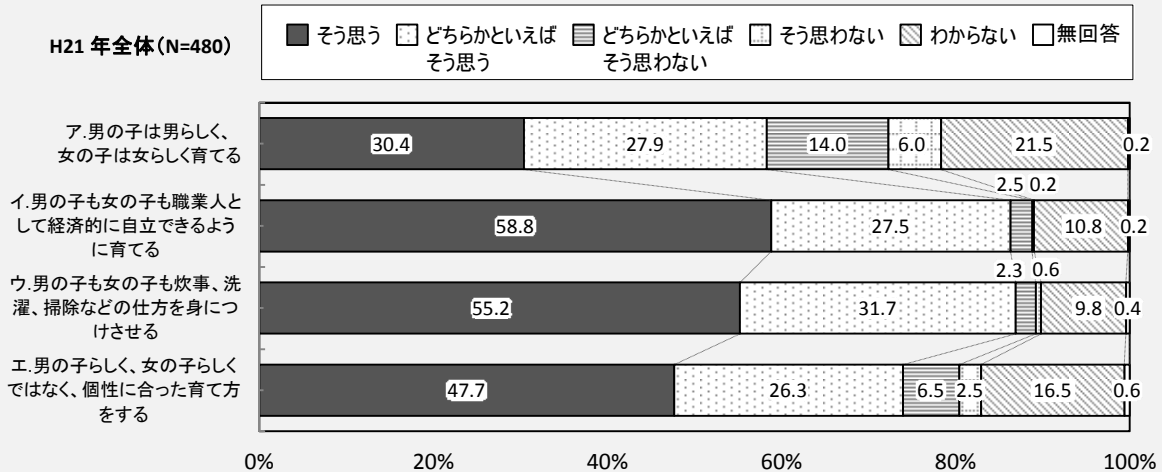
5. 子育て・教育について

問7. あなたは、おとなになって子どもを育てるときにどのように考えますか。(単数回答)

【子どもの育て方】



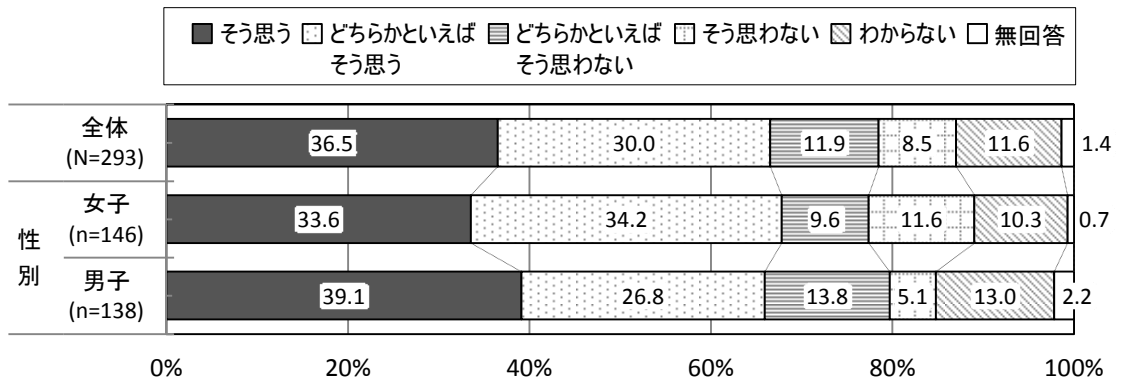
【子どもの育て方(H21年調査)】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という男女を区別する意識は全体の66.5%が支持している一方で、「男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる」といった、性別に関係なく育てる考え方にはそれぞれ8割以上が肯定的に捉えています。
- 前回調査と比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方を支持している割合は8.2%上がっています。

ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

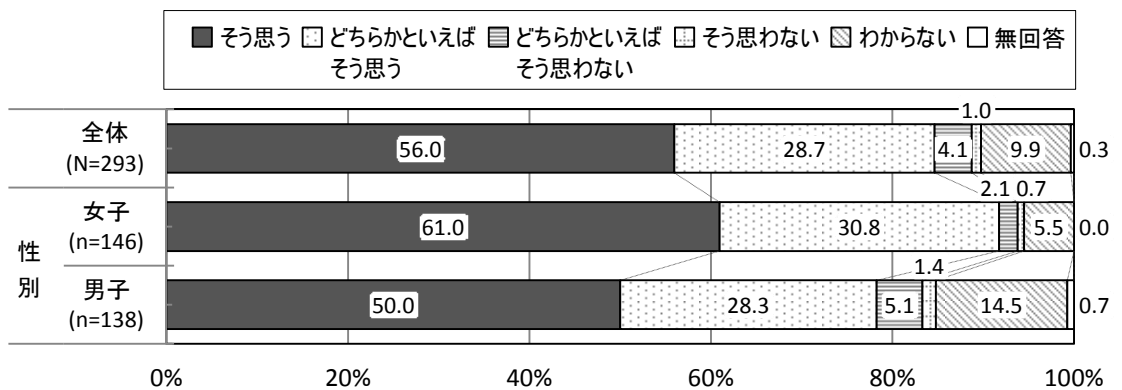
【ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる/性別】



- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(36.5%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(11.9%)となっています。

イ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる

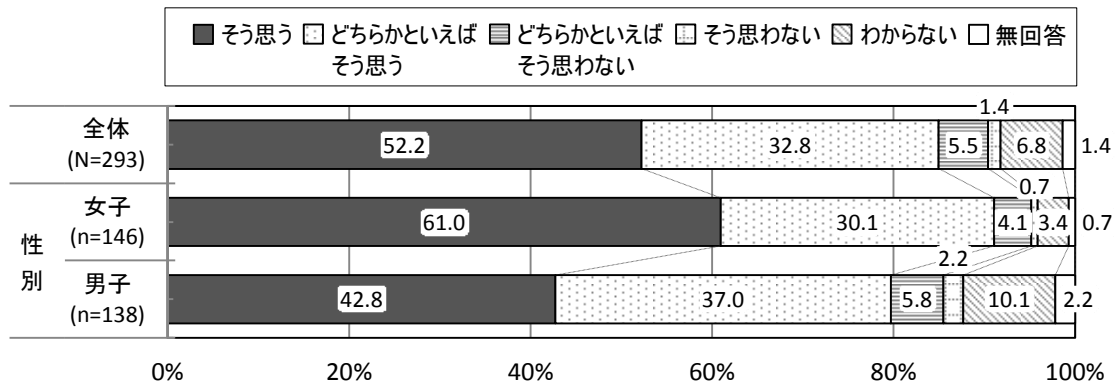
【イ. 男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる/性別】



- 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てるという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(56.0%)と回答した割合が半数を占めています。次いで「どちらかといえばそう思う」(28.7%)となっています。

ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる

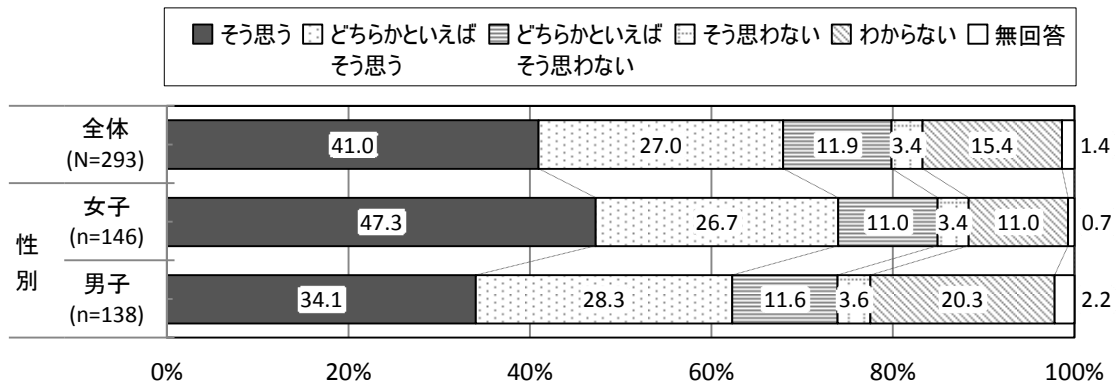
【ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる/性別】



- 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(52.2%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(32.8%)となっています。

エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする

【エ. 個性に合った育て方をする/性別】



- 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をするという考え方についてたずねたところ、「そう思う」(41.0%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(27.0%)、わからない(15.4%)となっています。

6. 防災の分野における男女共同参画について

問8. 防災・復興計画全体に男女共同参画の視点と女性の参画を入れることが重要といわれています。東日本大震災や熊本でも水害などが発生し、多くの方々が被災しました。防災・復興の面で、あなたは性別や年齢、障がいなどによってどのような配慮や支援が必要だと思いますか。(自由回答)

【女子】

- 障がい者や障がいのある人は防災としてできるだけひなん場所に近いところで生活させる。
- 高齢者、障害者を優先的に救助するべき。
- 小さい子供やお年寄りを支える。
- その人のことを理解する。
- 男女とも協力しあって何事にもくじけず仕事をやりとげること。
- もう少し協力する場面があってもよかったと思う。
- 流された教科書を弁償してもらおう。
- 食べ物、家、水を確実に確保してほしい。
- 壊れたものを作り直す為の資金。
- 使えなくなった生活用品や食料を支援してくれれば助かると思う。
- 東日本大震災などへの支援をもっと身近なものにする。
- 一人一人に応じた事を行う。
- 女性とおじいちゃんおばあちゃんと障害の持っている人を優先する。
- ごみを拾いやボランティアをすることが必要だと思う。
- 募金活動をもっとすると良い。
- もっと防火水槽などを多くつくり地域ごとに防災訓練を増やす。
- 地域の人に逃げる場所などを呼びかけたらいい。
- 高い所への避難指示や「海拔0メートル」の表示等をしっかり整備した方が良いと思います。障害者や妊婦、小さな子供のためのバリアフリー対策も充実させる必要があると思う。
- もっとスロープを増やす。
- 差別しないで仲間を作ることを一番に考え、女の人やお年より、障がいのある人を助ける事が必要です。
- 人によって態度変えないようにする。
- 施設や家などをユニバーサルデザインにし避難しやすくなる。
- 避難する際に車いすや障がいのある人がスムーズにできるような配慮がいます。
- 女性は月に一度の一週間ぐらい続く女性の日のようなものがあるので、そのためのナプキンなどをあげたりする支援が必要だと思います。
- 余計なことに税金を使うんじゃなくて効率よく使えるようにする。
- 実際に被災した人に直接聞いた方が良いと思う。実現の可能性が少ないなら聞かない方が良い。
- デイサービスなどを増やす。
- 障がいがある人は、命に関わることもあるから、怪我が少ない人よりも先に、治療する。
- 平等に、差別のないように助け合うことが必要である。
- お年寄りを避難場所から近いところに住ませる。子どもや若い人には、動けるように日々呼びかける。
- 車いすがあること、水があること、米があること。

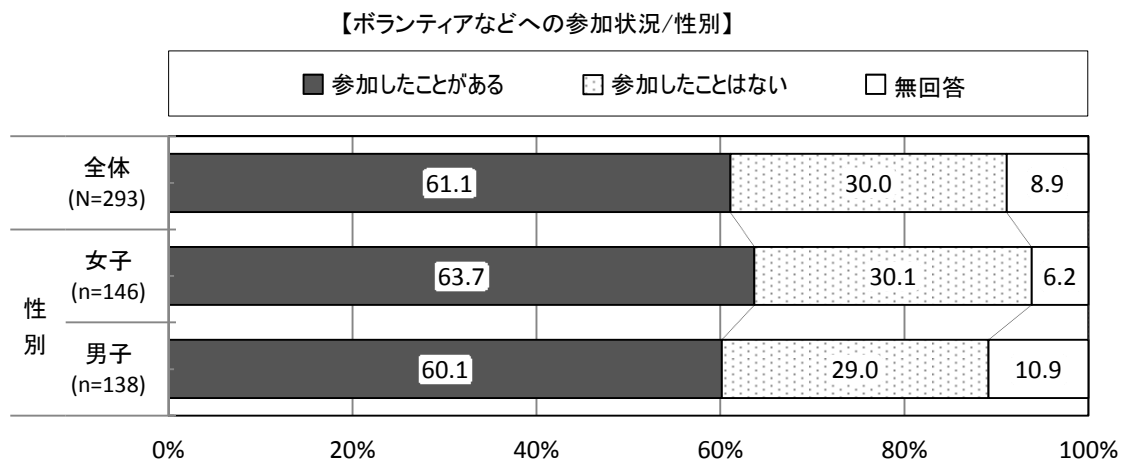
● バリアフリーにしていくようにする。
● 避難場所で、広いところに皆で居るより、小さく区別して、各家庭などで入れるほうがいいと思う。
● もっといろんな人たちが協力し合えるようにしたほうがいい。
● 男性は、年齢や障がい者を助け、女性は自力で逃げること。
● 1人1人に合った支援が必要だと思う。
● 体に障害のある方でも使いやすいように、避難場所の改善する。
● 年寄りや若い人よりも過ごしやすい環境がいいと思う。
● お年寄りの方や妊婦さんの方などを助けられるようにするべき。
● 高齢者や障がいを持っている方は、災害が起きそうなところには住ませないで、避難所に近いところに住ませる。
● お年寄りや赤ちゃんを大切にする。
● もう少し安いお金で、高齢者が施設に入ることができれば、何かあった時に高齢者を守りながら避難することができると思います。
● 男は力があるからといって力仕事をさせてはならないと思う。中には、非力な男もいるし、とても力のある女もいる。
● 障がいのある方や小さい子ども、高齢者の居る家庭にハザードマップなどを渡しておく。
● 高齢者や障がいのある人などは、いつも誰かと一緒に行動する。
● 赤ちゃんの部屋を作ってそこに赤ちゃんのいるたくさんの親が来られるようにし、老人ホームなどもそれぞれのところに何ヶ所か設置する。
● 壊れている横断歩道の押しボタンを直すべきだと思う。
● 避難場所を障がいを持つ方や、老人の方などが住む地域に作る。
● 高齢者が多いので、高齢者でもすぐに避難できるように建物を作り、妊婦さんや子どもを優先的に避難するのが大切だと思います。
● 住民票を見て、高齢の方や障がい者がいる所を先に救助しに行ったりする。若い人も助けなくてはいけないが、逃げ遅れたりする人が多いのは、高齢の方が多いと思うから。女性に必要な物を配慮してほしい。(生理用品等)
● 皆が過ごしやすい環境づくりや、みんなで楽しめることをする。
● 若い人たちには、勉強道具など。

【男子】

● 食糧の配布、防災マップ。
● お互いに助け合う事。
● 全員が参加するボランティア活動。
● すべて平等にする。
● 年寄りに楽な生活を。
● プロに聞いた方がいいと思う。
● 復興の面で性別とか関係なく出来る事から少しずつすればいいと思う。
● ちゃんとした避難施設を作るべき。
● なるべく避難経路を安全にする。
● 子供や高齢者などを優先させた方がいい。
● 避難用の施設や地図などを分かり易い場所に立てておく。
● お金が必要だと思う。

- 無くなったものの弁償、生活ができる分の補助。
- 男女関係なく幅広い仕事につけるようにする。
- 男女関係なく偏見を捨てることが重要。
- 男女関係なく全員が防災復興について真剣に考える。
- 階段だと足が不自由な時上がれない為、スロープにしてほしい。
- お年寄りの方にはケータイを持たせいつでも電話をできるようにGPSをつけたりする。電源が切れたら家族に連絡がいくなど家族に安心感を持たせ、お年寄りも安心できるようにする。
- 高齢者にも使いやすい分かりやすいものにする。例えば、多目的トイレなどのように様々な1人ずつできるようにしてあるものをつくる。看板の文字を大きくする
- 年齢的に考えて、まず子どもを優先させて大人はその次にする。
- 自分の個性に合う場所、障がい者の方々が、障がいを持っていない人たちと仲よくできるような場所を増やしていったほうが良いと思う。
- 防災に関しては、地震に強い建物をつくり、もしものときにその建物に食料などを入れて備える。復興に関しては、瓦礫の処理を素早くして、元通りにする。
- 老人ホーム、病院や独りで住んでいるご年配の方などを把握し、協力して助ける。
- 女の人を男の人が助けたりするのはいいと思うけれど、女の人が力の差があることをいいことに、男を使ったり、言い訳にして、何もしなかったりする時があるから、そういったところはいけないと思う。
- その人にあっただけのすることをする。
- 年配の方や障がい者の救出を優先して、社会的身分で決めない。
- 木庭坂の道路に関して、危ないので修理が必要だと思う。

問9. あなたは、ボランティアなどの活動に参加したことがありますか。

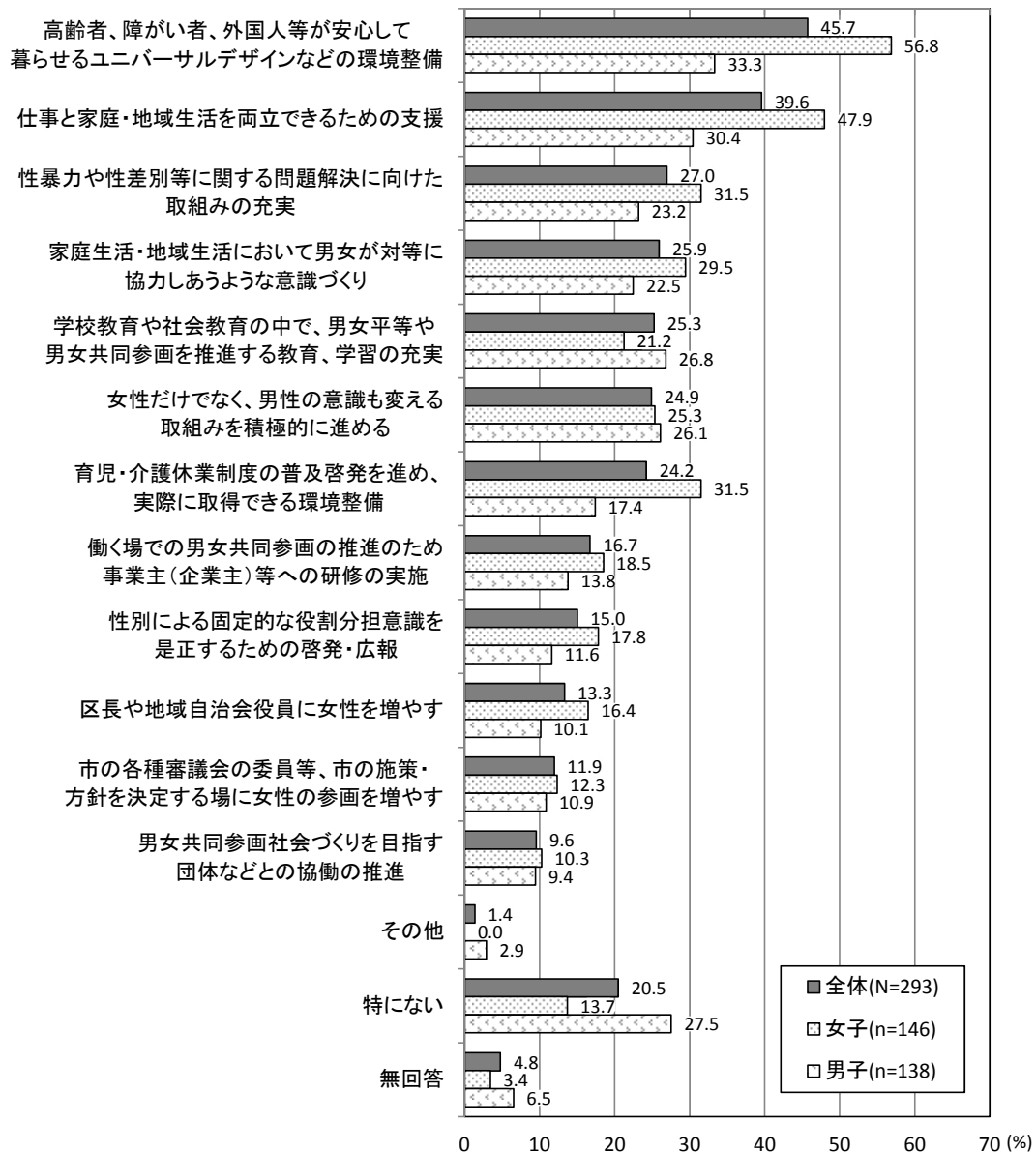


● ボランティアなどの活動への参加状況をたずねたところ、「参加したことがある」が61.1%、「参加したことはない」が30.0%と、参加したことがある人が多くなっています。

7. 男女共同参画社会の推進について

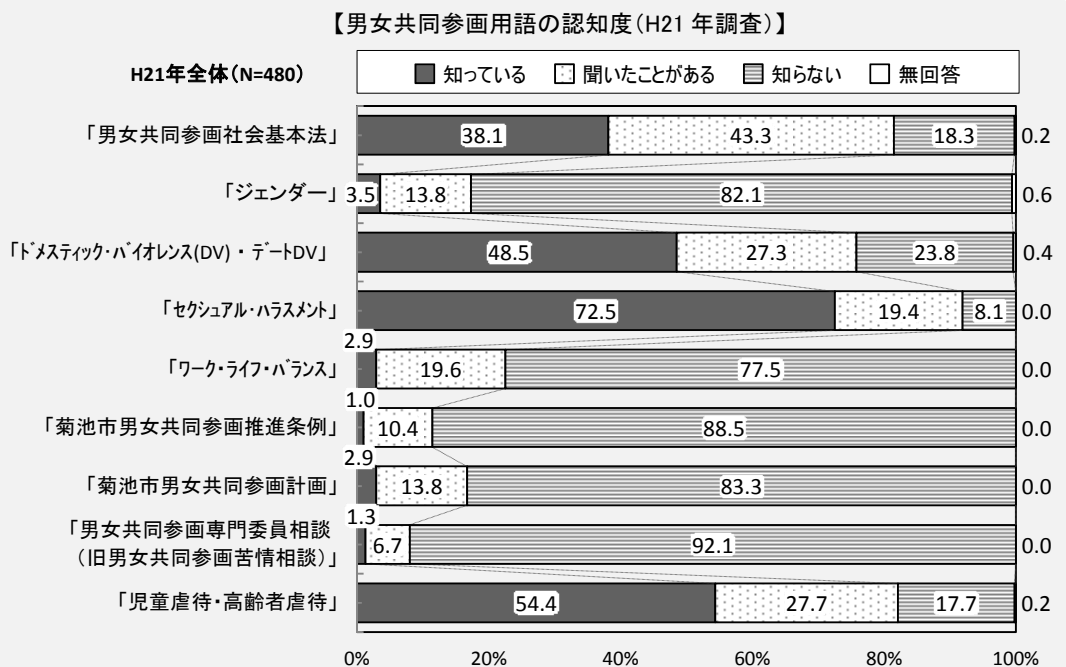
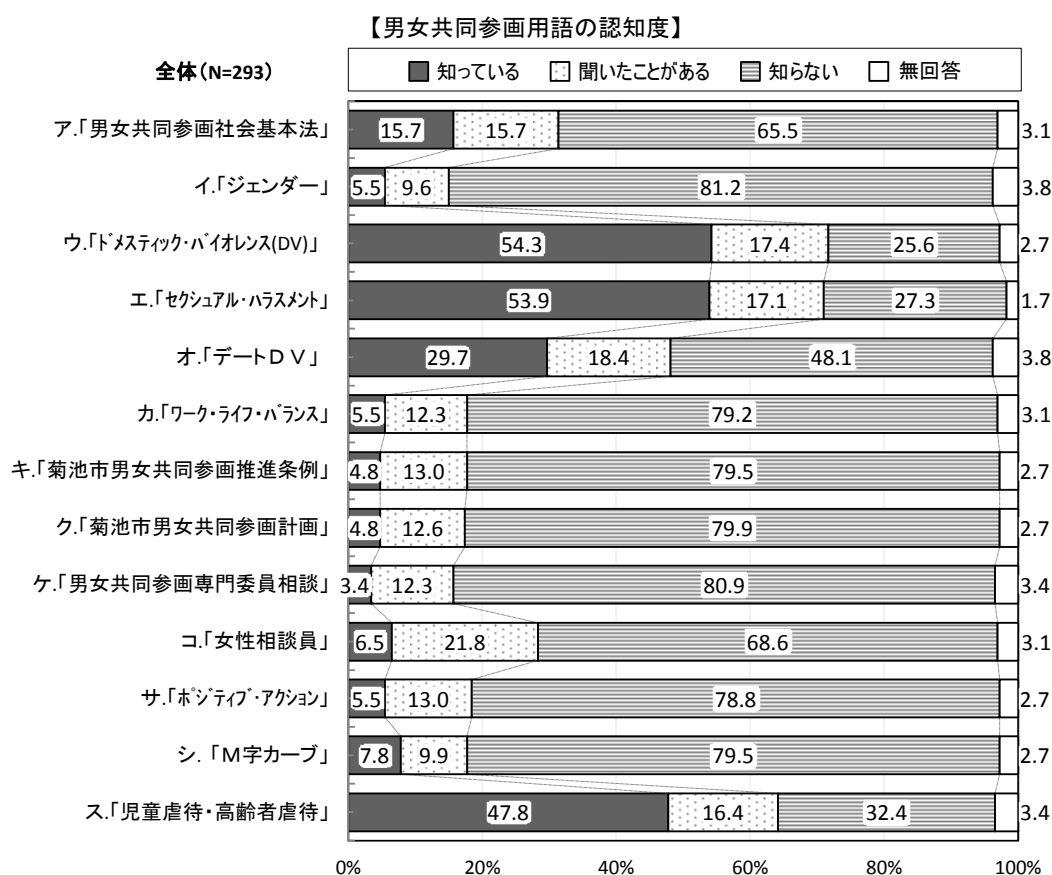
問 10. 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。(複数回答)

【男女共同参画社会の実現のために菊池市が力を入れるべきこと/性別】



- 男女共同参画社会の実現のために菊池市が力を入れるべきことについてたずねたところ、「高齢者、障がい者、外国人等が安心して暮らせるユニバーサルデザインなどの環境整備」(45.7%)の割合が最も高くなっています。次いで「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(39.6%)、「性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組みの充実」(27.0%)と続いています。

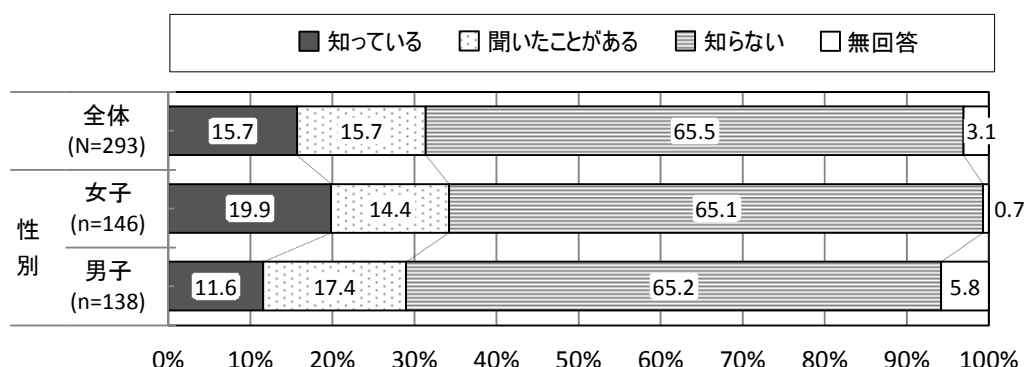
問 11. あなたは、以下の言葉について知っていましたか。(単数回答)



- 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」「セクシュアル・ハラスメント」「児童虐待・高齢者虐待」「デートDV」についての認知度は比較的高くなっています。
- 前回調査と比較すると、用語によっては認知度の変化にばらつきがみられます。

ア. 「男女共同参画社会基本法」

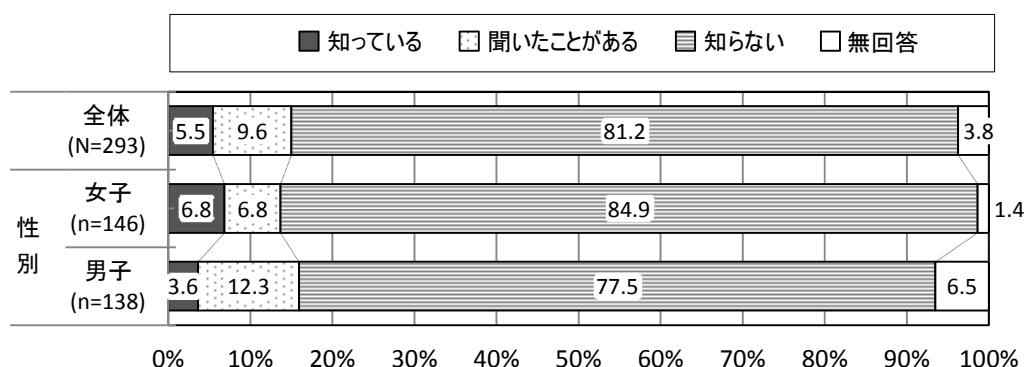
【ア. 「男女共同参画社会基本法」/性別】



- 「男女共同参画社会基本法」については、「知らない」(65.5%)の割合が最も高く、次いで「知っている」「聞いたことがある」(15.7%)となっています。

イ. 「ジェンダー」

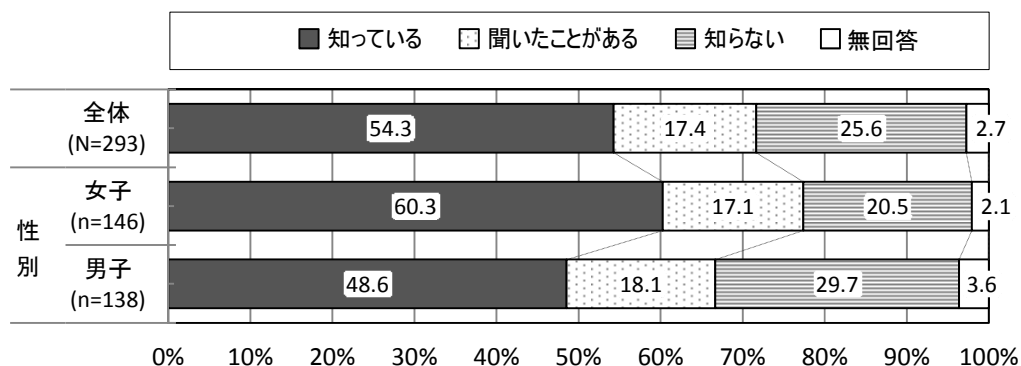
【イ. 「ジェンダー」/性別】



- 「ジェンダー」については、「知らない」と回答した割合が81.2%を占めています。次いで「聞いたことがある」(9.6%)、「知っている」(5.5%)となっています。

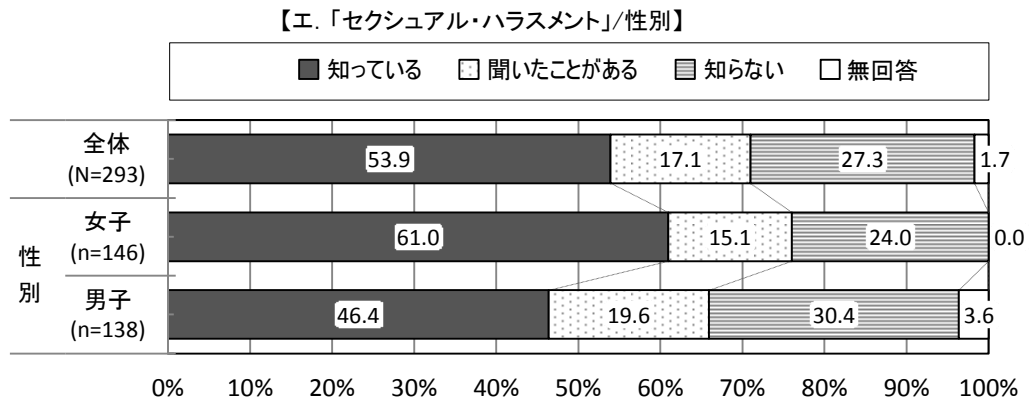
ウ. 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」

【ウ. 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」/性別】



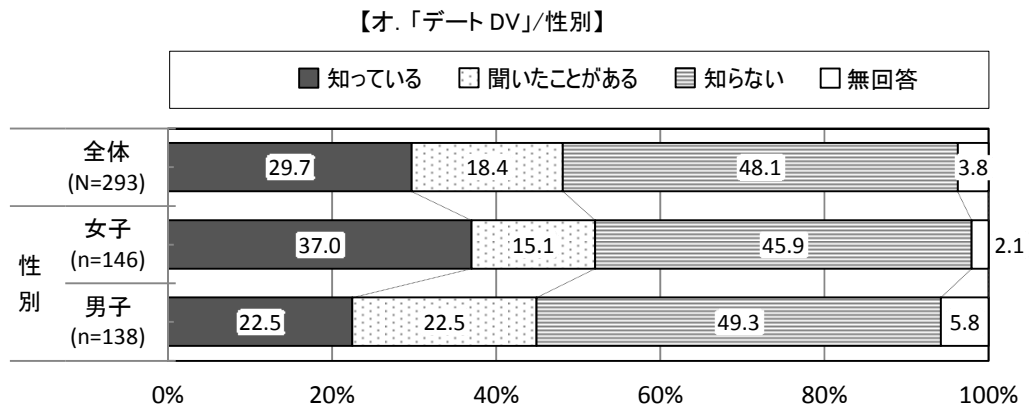
- 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」については、「知っている」(54.3%)の割合が最も高く、次いで「知らない」(25.6%)、「聞いたことがある」(17.4%)となっています。

エ. 「セクシュアル・ハラスメント」



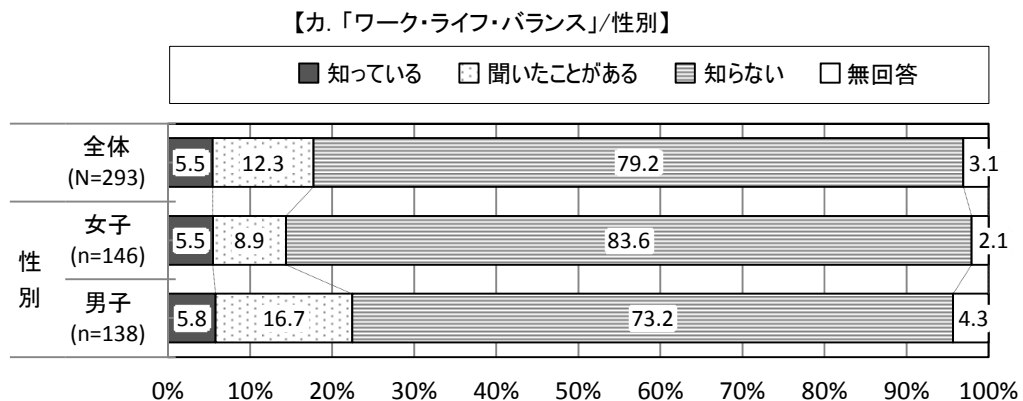
- 「セクシュアル・ハラスメント」については、「知っている」(53.9%)の割合が最も高く、次いで「知らない」(27.3%)、「聞いたことがある」(17.1%)となっています。

オ. 「デートDV」



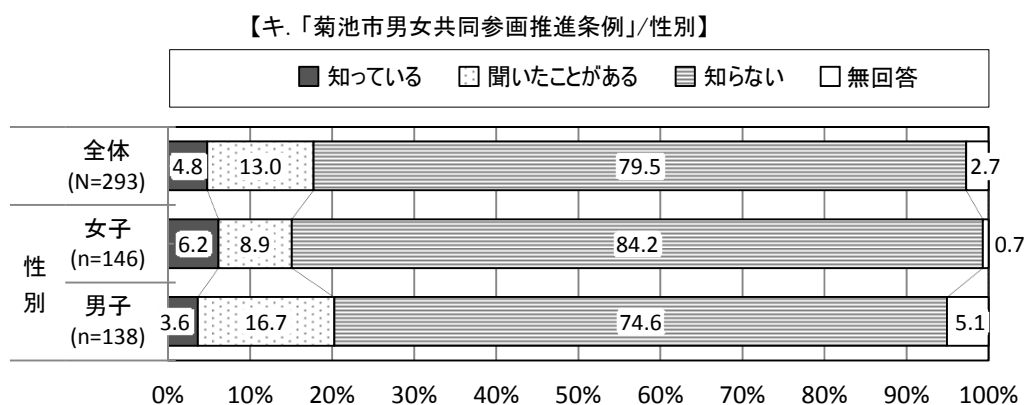
- 「デートDV」については、「知らない」(48.1%)の割合が最も高く、次いで「知っている」(29.7%)、「聞いたことがある」(18.4%)となっています。
- 男女別にみると、「知っている」の割合が女子(37.0%)に比べて男子(22.5%)の方が低くなっています。

カ. 「ワーク・ライフ・バランス」



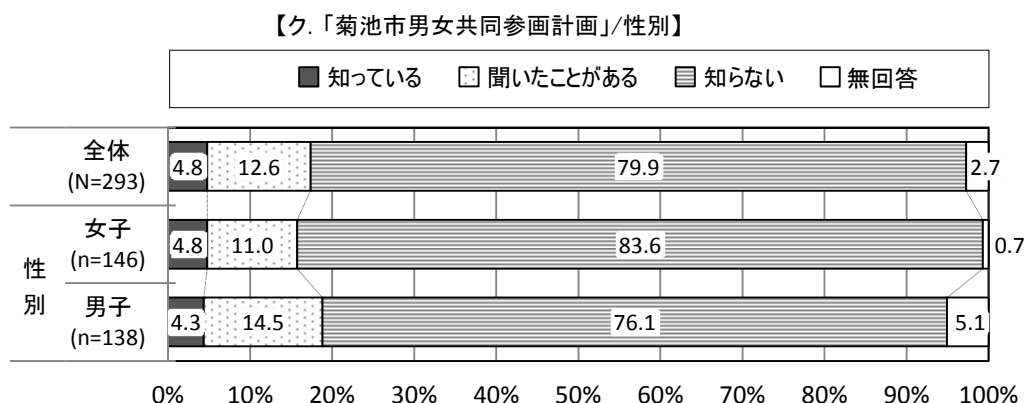
- 「ワーク・ライフ・バランス」については、「知らない」が79.2%を占めています。次いで「聞いたことがある」(12.3%)、「知っている」(5.5%)となっています。

キ.「菊池市男女共同参画推進条例」



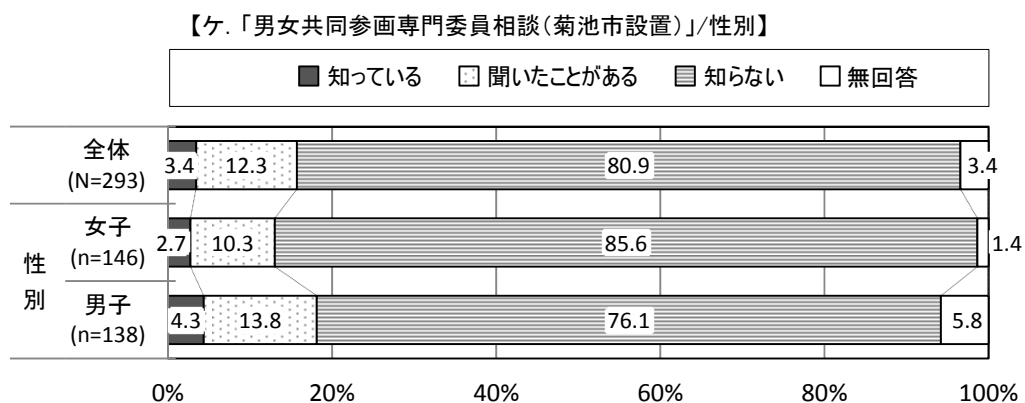
- 「菊池市男女共同参画推進条例」については、「知らない」が79.5%を占めています。次いで「聞いたことがある」(13.0%)、「知っている」(4.8%)となっています。

ク.「菊池市男女共同参画計画」



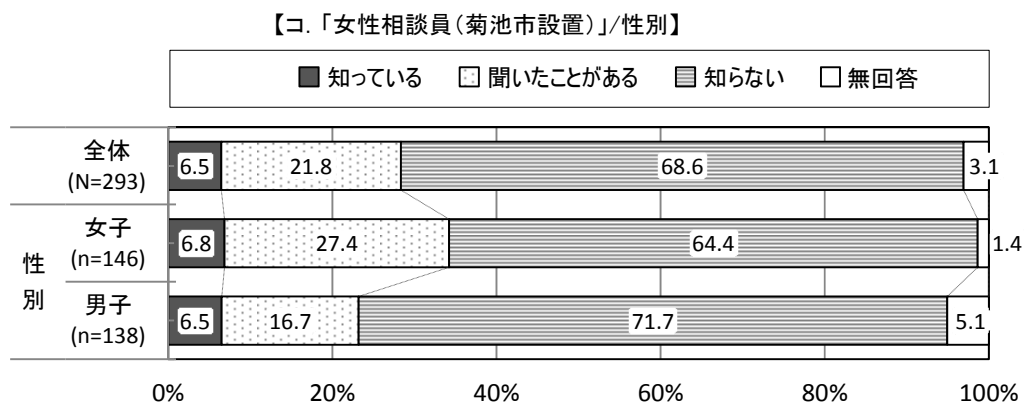
- 「菊池市男女共同参画計画」については、「知らない」が79.9%を占めています。次いで「聞いたことがある」(12.6%)、「知っている」(4.8%)となっています。

ケ.「男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）」



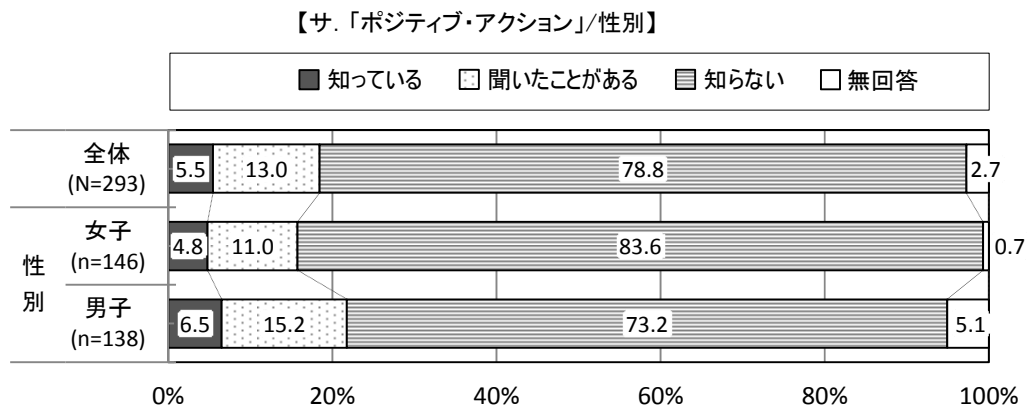
- 「男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）」については、「知らない」が80.9%を占めています。次いで「聞いたことがある」(12.3%)、「知っている」(3.4%)となっています。

コ. 「女性相談員（菊池市設置）」



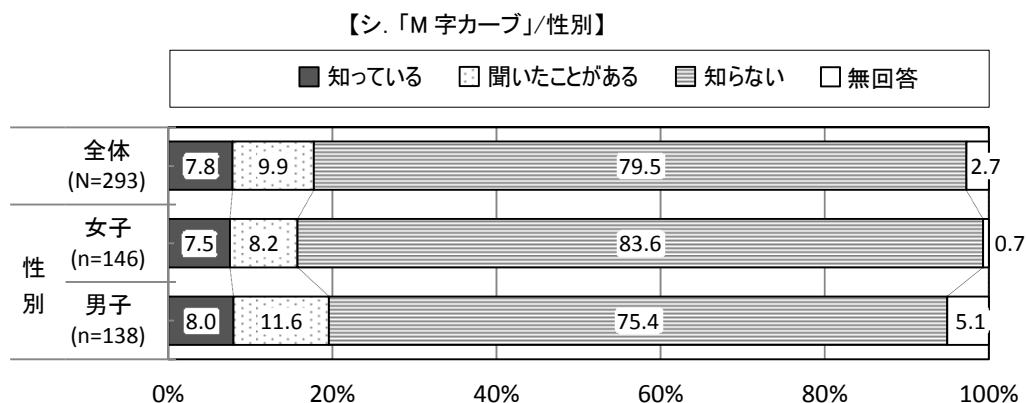
- 「女性相談員（菊池市設置）」については、「知らない」が 68.6%を占めています。次いで「聞いたことがある」（21.8%）、「知っている」（6.5%）となっています。

サ. 「ポジティブ・アクション」



- 「ポジティブ・アクション」については、「知らない」が 78.8%を占めています。次いで「聞いたことがある」（13.0%）、「知っている」（5.5%）となっています。

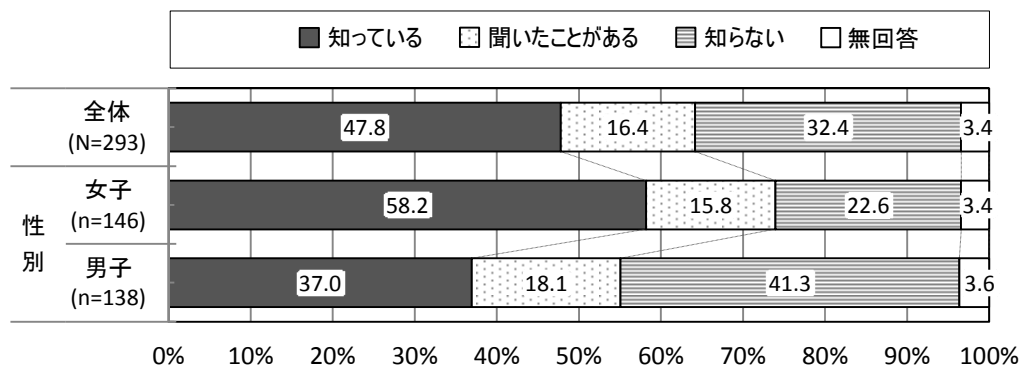
シ. 「M字カーブ」



- 「M字カーブ」については、「知らない」が 79.5%を占めています。次いで「聞いたことがある」（9.9%）、「知っている」（7.8%）となっています。

ス. 「児童虐待・高齢者虐待」

【ス. 「児童虐待・高齢者虐待」/性別】



- 児童虐待・高齢者虐待については、「知っている」(47.8%)の割合が最も高く、次いで「知らない」(32.4%)、「聞いたことがある」(16.4%)となっています。
- 男女別で比較すると、「知っている」の割合が男子(37.0%)と比べて女子(58.2%)の方が高くなっています。

問12. 自由回答

自由意見については、35名(女子21名、男子14名)の貴重な意見を頂きました。意見の内容は以下の通りです。

【女子】

- 全てを平等になんて不可能ですから、平等を押し付けるのではなく色々なタイプの人に合わせた対策をとったらどうでしょう。
- 東北の復興早くできるといいです。
- 問2であらためて男女について深く考えることができたと思う。東日本大震災では、水をはじめ確保できていなかったのをここをこれから考えてほしい。
- 言葉の意味を1ページにまとめると分かりづらくなるので各ページごとに言葉の意味をのせるといいと思います。
- 男女平等ならそれでいいと思います。
- 中学生では政策決定についての質問とかはいらないと思う。
- ニュースとかで、色々な市の人たちが言っていたりするのを見たことがあるけど、もっと市民の人たちに訴えかけてほしいです。今何に取り組んでいるのか、具体的に市長などの方から言ってくれたらうれしいです。
- もっと女性の働くところを増やしてほしい。
- 町に缶などのゴミがあるからとってほしい。
- 私は中学の2年間を沖縄で過ごし最近転校してきたばかりなのでこのアンケートを読んであやふやな箇所もありました。ですが女社会の沖縄と比べても菊池市は男女関係なく温かい方々ばかりで、昔ながらの顔見知り同士で助け合って生活しているという印象がすごく強いと感じました。クラス内でも男女共に仲が良いのでそこにいるだけで和みます。ここに来てよかったです。
- 菊池市をより良くするために良い調査だと思う。

● 男女の差別がなくなれば、もっとお互いの気持ちが分かり合えると思います。
● 働く女性は働きたいから働く人もいれば子育てにお金がかかるが、旦那さんの収入が少ないからとも働きになってしまう人もいる。だからそうところも考えてほしい。
● 内容が難しかったです。
● 知らない言葉が多くて分らなかった。
● 漢字が多すぎて読めません。
● 分からない事が沢山あるので少しでも分かっていきたいです。
● よく男女の関係について改めることが書いてあり、自分も共感できることがあったので、考えられることができました。
● 高校生ぐらいまで病院無料にしてほしい。
● もっと外国人のことについても触れてください。
● 全員が住みやすい市にしてほしい。

【男子】

● 少子高齢化が進む社会なので男と女の出会いがあって子づくりをしたらいいと思った。
● 女性差別だけでなく男性差別のことも考えてほしい。
● 男子も女子もみんな平等が良い。
● 難しかったが将来を考えるいい時間となった。
● もっと知っていこうと思いました。
● 難しいので、もう少しわかりやすくした方がいいと思う。
● 今までの考えを捨て、新たに最初からスタートするのが良いと思う。すると、今までと違った意見や考えなどが出てくると思う。政治については、もっと女性議員を増やして女性からの意見を聞いてみるのも良いと思う。
● こういったアンケートは大切だと思う。
● 子どもになんでこんな難しいアンケートをするのかわからない。
● 女性も活躍できるような場を増やせば男女共同参画ができてくると思う。
● 男女で、どちらかが自分が上だと思ってしまうと、差別につながってしまう。
● 女性が、育児をうまくやってくれないのは、金がなかったり、肉体的にもきつく、精神的にも、相当な重荷がかかるからだと思う。だから、子どもを育てている母に対して支援金が、必要だと思う。
● 「男は仕事、女は家庭」という固定観念を捨てて、男女平等の意識を持つ。
● 男女が平等に暮らして働けるということは、とても大切だと思う。

V. 資料編

1. 調査票

1. 一般市民

男女共同参画社会づくりのための 菊池市民意識調査

【アンケートご協力のお願い】

菊池市では、男女共同参画社会（男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指して取り組みを進めております。

このたび、男女共同参画に関する日常生活の実態や住民の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の取り組みに向けた基礎資料とするために調査を実施いたします。

このアンケートは、菊池市にお住いの20歳以上の方から無作為に抽出した2,000人の方にお送りしています。

お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理しますので、個人の回答がそのまま発表されることはありませんし、他の目的のために使うことはありません。また、お名前を記入していただく必要もありません。

ご多用な折とは存じますが、今回のアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成26年5月

菊池市長 江頭 実

【記入上にあたってのお願い】

1. アンケートは、封筒あて名の方ご本人がご記入ください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。
3. ご記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。
4. 確認が終わりましたら、**6月22日までに** 同封の返信用封筒に入れて、返送してください。
(切手を貼っていただく必要はありません。)
5. アンケートについて、ご不明な点やご質問がありましたらお問い合わせください。

【問い合わせ先】

菊池市役所 総務部 男女共同参画推進課 (担当) 古橋
TEL 25-7210 FAX 25-5720

【 語句の意味 】

表紙	参画	政策や事業の計画の段階から加わること。
注 1	自由業	一定の雇用関係によらず、時間に束縛されないで、独立して営む職業。多くは特別な技能・技術・知識に基づく専門的職業で、芸術家・芸能人・医師・弁護士・会計士・文筆業など。自由職業。
注 2	事実婚	法律上の婚姻をしていないが、社会的に夫婦と同一の生活を送っていること
注 3	非正規雇用	期間を限定し、比較的短期間での契約を結ぶ雇用形態。1日の労働時間や1週間の労働日数は労働者によって異なる。臨時社員、派遣社員、契約社員、パートタイマー、アルバイトなどが含まれる
注 4	社会通念	社会一般に通用している常識または見解。
注 5	慣習	ある社会で古くから受け継がれる生活上の慣わし。
注 6	性差別	性別に基づく社会的な差別のこと。
注 7	登用	人を官職などに取り立てること。また、人をそれまでより高い地位に引き上げて用いること。
注 8	啓発	人が気づかずにいるところを教え示して、より高い認識・理解に導くこと。
注 9	固定的役割分担意識	「男は仕事・女は家庭」などのように、性別を理由として役割を分ける考え方のこと。
注 10	是正	悪い点や不都合な点を改め直すこと。
注 11	社会教育	学校教育以外に主として青少年や成人を対象に行われる教育活動。
注 12	審議会	行政機関が特定の政策や運営方法についての決定に当たって設置する機関。
注 13	施策	ほどこすべき策。実行すべき計画。
注 14	育児休業制度	育児休業法に基づき、労働者がその一歳に満たない子を養育するためにする休業。ただし、保育所に入所を希望しているが、入所できない場合など1歳6ヶ月に達するまでの間、取得することも可能。
注 15	介護休業制度	介護を必要とする家族を抱える労働者に、雇用主が認める一定期間の休業。
注 16	性暴力	他者を侵害する目的で性的な攻撃を加えること。
注 17	協働	同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。
注 18	ユニバーサルデザイン	文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）のこと。

あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの満年齢を教えてください。(平成26年5月1日現在)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 |
| 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問3 あなたのご職業は何ですか。

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 会社員・団体職員・公務員・教員 | 2. 会社経営・ ^{※注1} 自由業・自営業・家業 |
| 3. 農林業 | 4. 専業主婦・専業主夫 |
| 5. パート・アルバイト | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 () |

問4 あなたは結婚しているいらっしゃいますか。

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚 (^{※注2} 事実婚・離死別含む) |
|-------|-----------------------------------|

問5 【問4で2と回答した方におたずねします。】(離死別に該当される方は、当時の状況についてお書きください。)

次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 2人ともフルタイム(正社員など)で働いている | 2. 1人はフルタイム(正社員など)、1人はパートタイム(^{※注3} 非正規雇用など)で働いている |
| 3. 2人ともパートタイム(非正規雇用など)で働いている | |
| 4. 夫のみ働いている | |
| 5. 妻のみ働いている | |
| 6. その他(具体的に:) | |
| 7. 2人とも働いていない | |

問6 あなたの家族構成について教えてください

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 1人世帯(1人暮らし) | 2. 1世代世帯(夫婦のみ) |
| 3. 2世代世帯(親と子) | 4. 3世代世帯(親と子と孫) |
| 5. その他の世帯 | |

問7 あなたの住んでおられるところ(旧市町村)を教えてください。

- | | |
|---------|---------|
| 1. 旧菊池市 | 2. 旧七城町 |
| 3. 旧旭志村 | 4. 旧泗水町 |

男女平等に関する考え方についておたずねします

問8 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。
ア～キのそれぞれについて、1～6の中から一つずつ選び○で囲んでください。

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6	
イ. 職場では	1	2	3	4	5	6	
ウ. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6	
エ. 地域活動・社会の場では	1	2	3	4	5	6	
オ. 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6	
カ. 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6	
キ. <small>※注4</small> 社会通念・ <small>※注5</small> 慣習等では	1	2	3	4	5	6	

問9 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、女性の参画の拡大がありますが、男女があらゆる分野でより平等になるためには、何が最も重要だと思いますか。
次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、※注6 性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を※注7 登用する制度を採用・充実させること
6. その他(具体的に: _____)
7. わからない

家庭生活の役割分担についておたずねします

問 10 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方について、あなたはどのように思いますか。

次の1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 賛成する | 2. どちらかと言えば賛成する |
| 3. どちらかと言えば反対する | 4. 反対する |
| 5. わからない | |

問 11 【結婚している方にお尋ねします。】(離死別に該当される方は、当時の状況についてお書きください)
あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。

次のア～カのそれぞれについて、1～5の中から一つずつ選び○で囲んでください。

	主として夫	主として妻	夫婦で同じ程度	親・子ども等 その他の人	わからない
ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5
イ. 炊事・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5
ウ. 日々の家計の管理	1	2	3	4	5
エ. 自治会・町内会などの地域活動	1	2	3	4	5
オ. 育児（経験者のみ）	1	2	3	4	5
カ. 介護（経験者のみ）	1	2	3	4	5

仕事と家庭・地域生活の両立についておたずねします

問12 あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものをお答えください。
次の1～8の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

【用語の説明】 家庭生活 : 家族と過ごすこと、家事、育児、介護など。
地域・個人生活 : 地域活動（ボランティア活動、社会参加活動）、趣味・娯楽など。

問13 あなたの現実（現状）に最も近いものをお答えください。
次の1～8の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問 14 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、男性にとっての男女共同参画の推進があります。男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～12の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションを大切にすること
4. 年配者や周りの人が、夫婦間・家族間の役割分担について、本人たちの考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性の家事・子育て・介護・地域活動等の評価を高めること
6. 短時間勤務制度や休暇制度の普及を進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 男性が、家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう、^{※注8}啓発や情報提供等を行うこと
8. 男性が、子育て・介護・地域活動などを行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめ、育児休暇や介護休暇を取りやすい社会にすること
9. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、女性だけでなく男性も相談しやすい窓口を設けること
10. 県や自治体などの研修などにより、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
11. その他（具体的に： _____)
12. 特に必要なない

問 15 国では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」のひとつに「多様な働き方・生き方が選択できる社会」をあげています。

あなた自身やまわりで、以下のことが一年前と比較してどのように変化していると思いますか。

次の1～6の中から一つだけ選び○で囲んでください。

「多様な働き方・生き方が選択できる社会」

性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意思と能力を持ってさまざまな働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人のおかれた状況に応じて、多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保できている。

1. 良くなったと思う
2. どちらかといえば良くなったと思う
3. 変わらないと思う
4. どちらかといえば悪くなったと思う
5. 悪くなったと思う
6. わからない

問 16 あなたは、現在仕事以外にボランティアや町内会・自治会・PTA活動など家庭以外で何か活動に参加していますか。

1. 参加している
2. 参加していない

出生率低下についておたずねします

問 17 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えますか。

次の1～11の中からあなたの考えに最も近いものを3つまで選んで○で囲んでください。

1. 働く女性が増えたから
2. 女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
3. 子育てにお金がかかるから
4. 出産や育児に対する男性（夫）や家族・親戚の理解や協力が足りないから
5. 少ない子どもに十分な教育を受けさせた方がよいから
6. 子どもより自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなったから
7. 結婚しても、子どもは欲しくないと考える人が増えたから
8. 子どもを育てるには肉体的・精神的負担が大きいから
9. 結婚年齢が上がっているから
10. 結婚しない人が増えているから
11. その他（具体的に： _____）

女性の社会参画についておたずねします

問 18 あなたは、女性が自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や農協の役員などになって、政策の企画立案や方針決定に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。

次の1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

問 19 【問 18 で、1 または 2 と回答した方におたずねします。】

「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ない」といわれていますが、その原因は何だと思えますか。

次の1～8の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強い
2. 男性優位の組織運営がなされている
3. 家庭の支援、協力が得られない
4. 女性の能力開発の機会が不十分である
5. 女性の参画への支援が少ない
6. 女性の積極性が不十分である
7. その他（具体的に： _____)
8. わからない

女性が職業を持つことについておたずねします

問 20 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 女性は職業を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
5. 子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
6. その他（具体的に： _____)
7. わからない

子育て、教育についておたずねします

問 21 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。

次のア～エについて、それぞれ1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない
ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
イ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5
ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる	1	2	3	4	5
エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする	1	2	3	4	5

配偶者からの暴力についておたずねします

問 22 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（通称：DV（ドメスティックバイオレンス）防止法）が平成 13（2001）年 10 月に施行されましたが、あなたはこの法律をどの程度ご存知ですか。

次の1～3の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 法律の内容まで知っている
2. 名前は聞いたことがあるが内容は知らない
3. 知らない

問23 あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）から、身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

次の1～11の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 身近に暴力を受けた人を知っている
2. 身体に対する暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている
3. 暴力を受けたことがある
4. 精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けたことがある
5. 身近な人から相談を受けたことがある
6. 暴力についての人のうわさを耳にしたことがある
7. 何を言っても長時間無視されつづけたことがある
8. 交友関係や電話、郵便物を細かく監視されたことがある
9. 自由にお金を使えないよう監視するなど、経済的に必要な生活費を渡さない
10. 全く知らない
11. その他（具体的に： _____)

問24 【問23で10以外を回答した方におたずねします。】

あなたは次のうちどのような行動をとりましたか。

次の1～7の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 行政機関（警察・相談所・市役所）に相談に行った（相談に行くようにアドバイスをした）
2. 親族に相談した（相談するようにアドバイスをした）
3. 知人・友人に相談した（相談を受けた）
4. 子どもにあたってしまった
5. 家を出た（出るようにアドバイスをした）
6. 何もしなかった
7. その他（具体的に： _____)

防災の分野における男女共同参画についておたずねします

問25 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、防災の分野における男女共同参画の推進がありますが、どのようなことが必要と考えられますか。

次の1～8の中から必要と思われるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
2. 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること
3. 避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること
4. 女性だけでなく、男性に対する相談体制を整備するとともに、相談窓口の周知方法を工夫すること
5. 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、介護を必要とする人は、安全を確保できる場所への避難誘導・避難解除を行うこと
6. 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した視点で取り組むこと
7. 特に必要はない
8. その他（具体的に： _____）

農山漁村の分野における男女共同参画についておたずねします

問26 国の第3次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、活力ある農山漁村の実現に向けた男女共同参画の推進を進めていますが、そのために必要なことは何だと思えますか。

次の1～11の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 農林業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること
2. 農林業にたずさわる人々が自ら積極的に男女共同参画社会づくりに取り組むこと
3. 男女共同参画に関する地域リーダーの育成など人材を育成すること
4. 農林業にたずさわる人々が地域社会活動において男女が対等に活躍できる雰囲気をつくっていくこと
5. 休日の確保、重労働の解消といった就業環境の改善により、男女ともが家庭生活以外の活動に参加しやすい環境をつくっていくこと
6. 女性が農林業経営者として能力を向上させること
7. 家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること
8. 農林業産物加工、直売所の運営や食文化・地域文化の継承活動等により、女性の活躍の場をつくること
9. 特に必要なものはない
10. その他（具体的に： _____）
11. わからない

男女共同参画社会の推進についておたずねします

問27 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
次の1～14の中からあなたの要望するものをすべて選び○で囲んでください。

1. 性別による^{※注9}固定的な役割分担意識を^{※注10}是正するための啓発・広報
2. 学校教育や^{※注11}社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実
3. 市の各種^{※注12}審議会の委員等、市の^{※注13}施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
4. 区長や地域自治会役員に女性を増やす
5. ^{※注14}育児・^{※注15}介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備
6. 働く場での男女共同参画の推進のため事業主（企業主）等への研修の実施
7. ^{※注16}性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組みの充実
8. 仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援
9. 男女共同参画社会づくりを目指す団体などとの^{※注17}協働の推進
10. 家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり
11. 女性だけでなく、男性の意識も変える取組みを積極的に進める
12. 高齢者、障がい者、外国人等が安心して暮らせる^{※注18}ユニバーサルデザインの環境整備
13. その他（具体的に： _____)
14. 特にない

問 28 あなたは、以下の言葉についてご存知でしたか。

次のア～スについてそれぞれ1～3の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
ア. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ. ジェンダー	1	2	3
ウ. ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
エ. セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
オ. 男女雇用機会均等法	1	2	3
カ. ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
キ. 菊池市男女共同参画推進条例	1	2	3
ク. 菊池市男女共同参画計画	1	2	3
ケ. 男女共同参画専門委員相談 (菊池市設置)	1	2	3
コ. 女性相談員 (菊池市設置)	1	2	3
サ. ポジティブ・アクション	1	2	3
シ. M字カーブ	1	2	3

問 29 最後に、男女共同参画についてのご意見や、この調査に対する感想などがありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。**6月22日**までに 同封の返信用封筒に入れて、返送してください。
(切手を貼っていただく必要はありません。)

2. 中学生

男女共同参画社会づくりのための 菊池市民意識調査（中学生用）

【アンケートご協力をお願い】

菊池市では、男女共同参画社会（男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指して取り組みを進めています。

このたび、男女共同参画に関する日常生活の実態や住民の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の取り組みに向けた基礎資料とするために調査を実施いたします。

このアンケートは、菊池市の中学3年生の方が対象となっています。

答えていただいた内容については、すべて統計的に処理しますので、個人の回答がそのまま発表されることはありませんし、他の目的のために使うことはありません。

ご協力よろしく申し上げます。

平成26年5月

菊池市長 江頭 実

【記入上にあたってのお願い】

1. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。
2. 記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。

【問い合わせ先】

菊池市役所 総務部 男女共同参画推進課 （担当）古橋

TEL 25-7210 FAX 25-5720

【 語句の意味 】

表紙	参画	政策や事業の計画の段階から加わること。
注 1	社会通念	社会一般に通用している常識または見解。
注 2	慣習	ある社会で古くから受け継がれる生活上の慣わし。
注 3	性差別	性別に基づく社会的な差別のこと。
注 4	就業	職業につくこと。
注 5	登用	人を官職などに取り立てること。また、人をそれまでより高い地位に引き上げて用いること。
注 6	固定的役割分担意識	「男は仕事・女は家庭」などのように、性別を理由として役割を分ける考え方のこと。
注 7	是正	悪い点や不都合な点を改め直すこと。
注 8	啓発	人が気づかずにいるところを教え示して、より高い認識・理解に導くこと。
注 9	社会教育	学校教育以外に主として青少年や成人を対象に行われる教育活動。
注 10	審議会	行政機関が特定の政策や運営方法についての決定に当たって設置する機関。
注 11	施策	ほどこすべき策。実行すべき計画。
注 12	育児休業制度	育児休業法に基づき、労働者がその一歳に満たない子を養育するためにする休業。ただし、保育所に入所を希望しているが、入所できない場合など1歳6ヶ月に達するまでの間、取得することも可能。
注 13	介護休業制度	介護を必要とする家族を抱える労働者に、雇用主が認める一定期間の休業。
注 14	性暴力	他者を侵害する目的で性的な攻撃を加えること。
注 15	協働	同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。
注 16	ユニバーサルデザイン	文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）のこと。

あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男性

2. 女性

男女平等に関する考え方についておたずねします

問2 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。

次のア～キのそれぞれについて、1～6の中から一つずつ選び○で囲んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
イ. 職場では	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
エ. 地域活動・社会の場では	1	2	3	4	5	6
オ. 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
カ. 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
キ. <small>※注1</small> 社会通念・ <small>※注2</small> 慣習等では	1	2	3	4	5	6

問3 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてあなたはどのように思いますか。

次の1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 賛成する | 2. どちらかと言えば賛成する |
| 3. どちらかと言えば反対する | 4. 反対する |
| 5. わからない | |

問4 男女があらゆる分野でより平等になるために、あなたが最も重要だと思うものは何ですか。

次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、※注3性別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上を図ること
4. 女性の^{※注4}就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を^{※注5}登用する制度を採用・充実させること
6. その他(具体的に: _____)
7. わからない

出生率低下についておたずねします

問5 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えますか。

次の1～11の中からあてはまるものを3つまで選び○で囲んでください。

1. 働く女性が増えたから
2. 女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
3. 子育てにお金がかかるから
4. 出産や育児に対する男性（夫）や家族・親戚の理解や協力が足りないから
5. 少ない子どもに十分な教育を受けさせた方がよいから
6. 子どもより自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなったから
7. 結婚しても、子どもは欲しくないと考える人が増えたから
8. 子どもを育てるには肉体的・精神的負担が大きいから
9. 結婚年齢が上がっているから
10. 結婚しない人が増えているから
11. その他（具体的に： _____）

女性が職業を持つことについておたずねします

問6 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 女性は職業を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
5. 子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
6. その他（具体的に： _____）
7. わからない

子育て・教育についておたずねします

問7 あなたは、おとなになって子どもを育てるときにどのように考えますか。
次のア～エについて、それぞれ1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
イ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5
ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる	1	2	3	4	5
エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする	1	2	3	4	5

防災の分野における男女共同参画についておたずねします

問8 防災・復興計画全体に男女共同参画の視点と女性の参画を入れることが重要といわれています。東日本大震災や熊本でも水害などが発生し、多くの方々が被災しました。

防災・復興の面で、あなたは性別や年齢、障がいなどによってどのような配慮や支援が必要だと思いますか。自由に書いてください。

問9 あなたは、ボランティアなどの活動に参加したことがありますか。

1. 参加したことがある

2. 参加したことはない

男女共同参画社会の推進についておたずねします

問10 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。

次の1～14の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 性別による^{※注6}固定的な役割分担意識を^{※注7}是正するための^{※注8}啓発・広報
2. 学校教育や^{※注9}社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実
3. 市の^{※注10}各種審議会の委員等、市の^{※注11}施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
4. 区長や地域自治会役員に女性を増やす
5. ^{※注12}育児・^{※注13}介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備
6. 働く場での男女共同参画の推進のため事業主（企業主）等への研修の実施
7. ^{※注14}性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組みの充実
8. 仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援
9. 男女共同参画社会づくりを目指す団体などとの^{※注15}協働の推進
10. 家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり
11. 女性だけでなく、男性の意識も変える取組みを積極的に進める
12. 高齢者、障がい者、外国人等が安心して暮らせる^{※注16}ユニバーサルデザインなどの環境整備
13. その他（具体的に： _____ ）
14. 特にない

問 11 あなたは、以下の言葉について知っていましたか。

次のア～セについてそれぞれ1～3の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	知っている	聞いたことがありません	知りません
ア. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ. ジェンダー	1	2	3
ウ. ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
エ. セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
オ. デートDV	1	2	3
カ. ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
キ. 菊池市男女共同参画推進条例	1	2	3
ク. 菊池市男女共同参画計画	1	2	3
ケ. 男女共同参画専門委員相談 (菊池市設置)	1	2	3
コ. 女性相談員 (菊池市設置)	1	2	3
サ. ポジティブ・アクション	1	2	3
シ. M字カーブ	1	2	3
ス. 児童虐待・高齢者虐待	1	2	3

問 12 最後に、男女共同参画についての意見や、この調査に対する感想などがありましたら、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

2. 用語解説

あ	M字カーブ	日本の女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化したとき、30歳代を谷とし、20歳代後半と40歳代後半が山になるアルファベットのMのような形になることをいう。これは、結婚や出産を機に労働市場から退出する女性が多く、子育てが一段落すると再び労働市場に参入するという特徴があるためである。
か	菊池市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業所の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策について、基本となる事項を定めることにより、総合的計画的に推進することを目的として制定されている。
	菊池市男女共同参画計画	菊池市では「男女共同参画社会」の実現に向け、男女共同参画行政の総合化、効率化を図るため、計画の目標や理念を明示し、具体的に施策の方向や内容を提示するため菊池市男共同参画計画を策定している。
	高齢者虐待	家庭内や施設内での高齢者に対する虐待行為で、身体的、性的な暴力・心理的暴力・介護や世話の放棄などである。
さ	ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のことである。人間には生まれつきの生物学的性別がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別をジェンダーという。
	女性相談員	法律上は婦人相談員の呼称で、売春防止法及びDV防止法を根拠法とする婦人保護事業の三本柱（婦人相談所・婦人保護施設・婦人相談員）と位置づけられている。啓発活動、被害女性への支援・権利擁護活動、女子の生き辛さへの総合支援活動を役割としている。
	セクシュアル・ハラスメント	継続的な人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動である。
た	第3次男女共同参画基本計画	政府の定める男女共同参画社会の形成の促進に関する基本的な計画である。男女共同参画社会基本法第13条により、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の総合的な推進を図るために政府が定めなければならないとされており、現行の計画は平成22年12月17日に閣議決定されている。
	男女共同参画社会基本法	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成11年6月23日法律第78号として、公布、施行された。
	男女共同参画専門委員相談	男女共同参画の取り組みや、推進に影響を及ぼすと思われることに関する相談や苦情、あるいはセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害に対する相談や苦情などに対して、専門の委員が相談に応じている。
	デートDV	交際相手からの暴力。
	ドメスティック・バイオレンス（DV）	“家庭内暴力”と直訳され、一般には「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあったものからの暴力」を言う。暴力の形態は、身体的・精神的・経済的・性的・暴力、社会的隔離等で、犯罪を含む重大な人権侵害として、社会全体の理解・支援が求められている。
は	ポジティブ・アクション	様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくものである。
わ	ワーク・ライフ・バランス	国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることである。

菊池市
男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

平成 26 年 12 月

編集・発行 菊池市総務部男女共同参画推進課
〒861-1392 熊本県菊池市隈府 888 番地
Tel. 0968-25-7210 / FAX. 0968-25-5720
